

YODONOUCHI

# 淀の内 遺 跡

淀の内団地造成事業緊急発掘調査報告書

1997. 3

YODONOUCHI  
淀 の 内 遺 跡

淀の内団地造成事業緊急発掘調査報告書

1997. 3

長野県東筑摩郡山形村教育委員会

## 序 文

山形村は昔から縄文時代の遺跡が多いことで有名であり、淀の内遺跡もそのうちのひとつとして地域の人々に知られています。このたび当地における住宅団地建設によって遺跡の保護が損なわれることとなつたため、開発側との協議の結果、工事に先立ち遺跡の記録をはかるための調査を行うことになったものであります。

調査においては、縄文時代前期住居跡3、中期住居跡38、平安時代住居跡1などの遺構を検出し、各遺構からは多くの遺物が出土しました。特に縄文時代中期の資料は膨大であり、当時の生活を知る上で大きな前進をもたらしたことでありましょう。

最後となりましたが、御指導・御助言下さいました長野県教育委員会文化課、文化財保護に御理解・御協力いただいた(財)長野県住宅供給公社、更に発掘調査にあたって指揮を執って下さった調査団長樋口昇一先生、調査副団長長崎治氏、作業に参加していただいた皆様に、深甚なる敬意と感謝を申し上げる次第です。

1997年3月20日

山形村教育長

上 條 光 男

## 例　　言

1 本書は1992年（平成4年）に行われた、長野県東筑摩郡山形村220番地ほかに所在する淀の内遺跡（よどのうちいせき）の緊急発掘調査報告書である。

2 本調査は、長野県住宅供給公社による宅地開発事業に伴う、緊急発掘調査であり、長野県住宅供給公社より委託を受け、山形村教育委員会が調査を行ったものである。

3 整理作業分担は以下の通りであり、原稿執筆分担は目次に示した。

●整理復元作業　　長崎治、中村貞寿、大塚恭子、和田和哉

●遺物実測　　長崎治、和田和哉

●ト レ ー ス　　和田和哉

●遺物写真撮影　　和田和哉

4 本書における実測図の縮尺は、ことわりのない限り、以下の通りである。

・住居跡平面図、断面図　S=1/60　・住居跡内遺構（埋甕、炉）　S=1/30

・土器　S=1/4　・石器（打製石斧、磨製石斧、凹石、石錘）　S=1/3

・石器（石匙）　S=1/2　・石器（その他）　S=2/3

5 本書図中にて使用しているスクリーントーンの意味は以下の通りである。



遺構図中の使用は焼土の範囲を示す。



土器実測図では、縄文土器は朱の付着、土師器においては黒色処理を示す。



炭化材の出土を示す。

6 本書で使用している土色は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版 標準土色帖」である。

7 本書で使用した縄文土器の年代観は、長野県史の編年（長野県史刊行会1988「長野県史」考古資料編全1巻（四）遺構・遺物）を参考としている。

8 今回の調査で使用した方位は磁北である。

9 本書の編集は和田が行った。

10 本書の作成にあたり多くの方に御教示、御指導を賜った。感謝の意を表する。

(p 1 に指導いただいた方の氏名を記した)

# 目 次

## 序 文 例 言

第1章 調査の実施と経過.....	(和田) 1
第1節 調査に至るまで.....	1
1 調査に至るまで.....	1
2 調査団組織.....	1
第2節 調査の経過.....	2
1 試掘調査.....	2
2 本調査.....	3
3 整理作業.....	6
第2章 遺跡の立地と歴史的環境.....	(和田) 8
第3章 遺構.....	(長崎) 12
第1節 繩文時代の遺構.....	12
1 住居跡.....	12
2 土墻.....	57
第2節 平安時代の遺構.....	58
第4章 遺物.....	60
1 総括.....	(樋口) 60
2 装飾把手付土器について.....	(和田) 61
第5章 まとめにかえて.....	(樋口) 63
遺物実測図.....	65
出土実測土器観察表.....	86
出土石器一覧表.....	88
写真図版	

# 第1章 調査の実施と経過

## 第1節 調査に至るまで

### 1 調査に至るまで

山形村には縄文時代の遺跡が数多く存在し、昔から村内各所で土器や石器が出土し注目を集めていた。近年村内では松本市のベットタウンとして宅地開発が急増しており、新たに山形村の住民に加わる人が増えている。そんな状況の折、平成4年3月、長野県住宅供給公社から上大池地区に住宅団地を造成する計画があることが山形村教育委員会に報告された。当教育委員会では予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地に該当したため、埋蔵文化財の保護対策を求めた。

平成4年3月、長野県住宅供給公社、長野県教育委員会、山形村教育委員会で協議を行い、予定地における埋蔵文化財の状況を確認する試掘調査を行うことになる。平成4年5月6日より試掘調査を開始。当教育委員会には埋蔵文化財の専門職員がいなかったため、調査を（財）長野県埋蔵文化財センター参事樋口昇一氏に依頼した。試掘調査の結果、遺構が予定地全域に認められたため再度保護協議を行い、記録保存のための発掘調査を実施することになった。委託契約を締結し、樋口昇一氏を調査団長とする淀内の遺跡発掘調査団を結成した。各方面との調整が整い、平成4年6月より本調査を実施する運びとなった。

### 2 調査団組織

#### ●事務局

事務局長 上條忠昭（山形村教育長）  
会計 本庄利昭（山形村教育委員会職員）

#### ●調査団

調査団長 樋口昇一（長野県埋蔵文化財センター参事）  
調査副団長 長崎治（現川上村職員）  
調査員 太田義一（山形村文化財調査委員長）

#### ●指導者

青沼博之（長野県埋蔵文化財センター）  
百瀬新治（長野県教育委員会文化課）  
島田哲男（大町市教育委員会）  
直井雅尚（松本市教育委員会）  
関沢聰（松本市教育委員会）  
三村竜一（松本市教育委員会）

大沢 哲(明科町教育委員会)  
小林 康男(塙尻市平出考古博物館)  
小口 達志(塙尻市平出考古博物館)

◎発掘・整理作業協力者

中村 文夫	上條 信義	小林 和守	小林弥寿枝	上條 賢憲
百瀬 時雄	山口裕一郎	山田こずえ	百瀬 恵子	小松 重子
中村みどり	百瀬 俊彦	百瀬 昭久	大月 尋正	大月 弘一
太田 敬一	中野 芳昭	川澄十九二	田中 三郎	太田 孝也
深沢 智	大池すず子	丸山 恵子	百瀬二三子	上條 信彦
籠田 悅子	桐原喜志子	峰村 宏規	小口 賢一	百瀬 浩平
平沢 節子	百瀬袈裟巳	中野 作美	都竹 利二	宮里 学
伊藤 幸一	坂本 尚史	立川 哲治	佐藤 昌章	直江 康雄

## 第2節 調査の経過

### 1 試掘調査

5月6日(水)晴れ 午前中準備をし、午後より幅1.5mのトレンチを5~8m間隔で東西方向に設定する。

5月7日(木)曇り時々晴れ 重機による表土除去を開始。西側第5トレンチから西側第11トレンチの表土除去が終了。西側第9トレンチにおいて層序に乱れがあるのを確認、開場整備の際、かなり多くの土が移動したものと思われる。

5月8日(金)曇り時々雨 重機による表土除去を続行、全トレンチの表土除去が終了する。西側第1~5トレンチにおいて遺構を確認。堆土中からは多くの土器がみうけられた。

5月9日(土)雨後曇り 雨のため作業中止。また百瀬、青沼が現場を視察し今後の対応について協議。

5月11日(月)晴れ 写真撮影、北側5本のトレンチ終了。

5月12日(火)晴れ 午前中休み。午後より昨日に引き続き写真撮影を行う。西側第3、4トレンチで土器片出土。

5月13日(水)曇り時々雨 写真撮影をするが雨のため中止。トレンチ配置図を作成する。

5月14日(木)雨後晴れ 作業続行、徐々に南側の

トレンチへと移動。基本層序確認のため断面の分層を行う。

5月15日(金)晴れ後曇り 東側第5~7トレンチの写真撮影終了。西側第1トレンチの断面図作成。

5月16日(土)曇り 午前10時より県住宅供給公社、県教育委員会文化課、教育委員会、調査団において試掘調査の結果に基づいた対応を協議。本調査を行うことになるが詳細は未定。午後、文化財調査委員、ふるさと伝承館運営審議会に発掘調査への協力を依頼。

5月18日(月)雨 松本市立考古博物館において神沢館長、直井氏より御教示いただく。

5月19日(火)曇り時々晴れ 西側第7、8トレンチの写真撮影。午後、遺跡の遠景写真を撮影する。

5月20日(水)曇り時々晴れ 西側第6、9、10トレンチの写真撮影を行う。

5月21日(木)晴れ 西側第5、11トレンチ、東側第5トレンチの写真撮影を行う。なお西側第11、東側第5トレンチにおいて遺構の検出はなかった。

5月22日(金)晴れ時々曇り 東側第3、西側第2、9トレンチの土層断面図作成。西側第6トレンチ中央部に自然地形によると思われる落ち込みを確認。

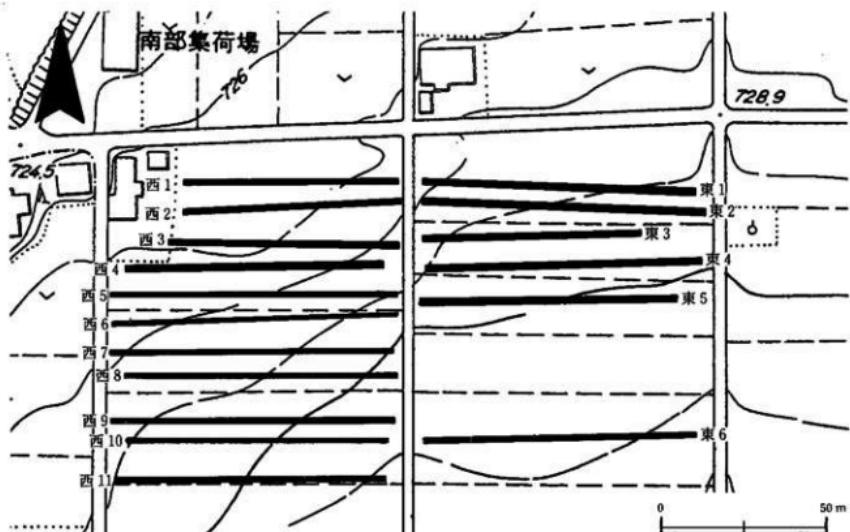
5月23日(土)曇り時々雨 光波測量機を借り、ト

レンチ配置図を作成。

5月25日(月)晴れ 現場作業続行、写真の整理も合わせて行う。

5月26日(火)晴れ後曇り 現場作業終了。試掘調査終了報告を作成する。

5月28日(木)曇り 全作業終了。



第1図 試掘調査トレンチ配置図 (S=1/1,500)

## 2 本 調 査

6月10日(水)晴れ 本調査開始。重機による表土除去開始。

6月11日(木)晴れ時々雨 重機によって表土除去が終了したところから遺構精査を開始、かなり多くの遺構を検出。

6月12日(金)晴れ 昨日に引き続き遺構精査続行、住居跡、土壤を検出。

6月13日(土)晴れ 東側調査区の遺構検出終了、遺構検出状況を写真撮影する。その後東1号～3号住の掘り下げ開始、早くも完形土器が見える。東1・3号住からは炭化材が多量に出土。

6月15日(月)雨後晴れ 東1～3号住の掘り下げ続行。東1号住遺物出土状況の写真撮影。

6月16日(火)晴れ 東1、2号住の土層分層、写真撮影。東3号住の掘り下げ続行、床面を検出。東4

・5号住の掘り下げ開始。

6月17日(水)晴れ 東3号住の掘り下げ終了、土層分層行う。東4号住掘り下げ終了、住居跡南側より炭化材出土。東5・6号住掘り下げ続行、東6号住北西寄りから土偶出土、また石組み炉も見える。

6月18日(木)曇り 東3号住の遺物出土状況と土層断面の写真撮影。東5・6号住掘り下げ続行、東6号住よりヒスイ原石出土。東7号住掘り下げ開始。

6月19日(金)曇り 東5～7号住床面検出。東7号住からは有孔飼付土器出土。新たに東8号住の掘り下げ開始、他の住居跡に比べ遺物の出土が少ないが、礫が多く出土。

6月20日(土)曇り 東5・7号住の写真撮影。東8号住は掘り下げ終了、住居跡北西に埋焼炉を検出。また青沼、島田両氏の協力を得て基準杭の設定を行っ

た。

6月22日(月) 晴れ 東側調査区北西のピット群を掘り下げる、ほとんどが深さ10cm程の浅いものであった。東3・4号住の土層断面写真撮影、その後東4号住のセクションベルトを除去する。東5号住遺物出土状況を写真撮影。

6月23日(火) 曇り後雨 東1・3号住の土層断面図作成。東1・3・4号住のセクションベルトを除去する、東1号住中心部に炉を検出。14時ころより雨が降りだしたため作業終了。

6月24日(水) 雨後曇り 雨のため作業中止。午後雨があがったので東8号住の土層断面を写真撮影。

6月25日(木) 晴れ 東1号住セクションベルトの除去が終了、床面精査及び写真撮影。東3号住セクションベルト除去、石組み炉検出。東4号住床面精査及び写真撮影、地焼戸を検出。東8号住の土層断面実測、その後セクションベルト除去。

6月26日(金) 曇り 東3～5号住遺物出土図作成、東3号住は取り上げ完了。東7・8号住写真撮影。

6月27日(土) 晴れ 東1・2・5号住遺物出土図作成。東2・5・6号住は土層断面図作成。東3号住は住居跡内のピットを半裁、若干の遺物出土。東4号住の炭化材取り上げ、東7号住は掘り下げ続行。

6月29日(月) 晴れ 東1・3・8号住は住居跡内のピットを掘削。東4号住は床面精査後、炉の掘削。東2号住はセクションベルト除去、東5号住は土層断面図作成、東7号住は遺物出土状況を写真撮影。

6月30日(火) 雨 雨のため作業中止。

7月1日(水) 晴れ 東2号住遺物取り上げ、東3号住内のピット掘削。東5号住のセクションベルト除去中に土偶の胸部が出土。

7月2日(木) 曇り後晴れ 東2号住は遺物の取り上げ後、ピットの掘り下げ、東2・4号住は完掘、写真撮影をする。東5号住遺物出土写真撮影後、取り上げ開始。東1号住北側の土廣を掘り下げたところ、農耕による攪乱が3つの土廣に及んでいるものと判明、そのうちのひとつから完形土器が出土。

7月3日(金) 晴れ 東1号住写真撮影、炉を半裁したところ黒曜石、石鐵が出土。東5号住は遺物の取り上げを昨日に統いて行い完了。東6号住セクションベル

トの除去を行う。

7月4日(土) 晴れ 東2・4号住の完掘平面図作成。東5号住のピット半裁。東6号住からはヒスイの原石と流紋岩製磨製石斧が出土。

7月6日(月) 晴れ 東1号住炉の断面図作成。東5・6号住内のピット掘り下げを行う、東6号住よりこぶし大のヒスイ原石が出土。東8号住土層断面図作成。

7月7日(火) 曇り後雨 東5号住完掘、写真撮影。東6号住ピット掘り下げ続行。東7号住土層断面図作成後、セクションベルト除去。午後2時30分頃より降雨のため作業中止。

7月8日(水) 晴れ 東6号住では2重の周溝を確認。東7号住遺物出土図作成し、写真撮影。東8号住完掘、写真撮影。

7月9日(木) 晴れ 東5号住完掘平面図作成。東6号住居跡内のピット掘り下げ終了。東7号住遺物取り上げ終了後、ピット完掘。

7月10日(金) 晴れ 東3・6・7号住を写真撮影のため清掃、東7号住は写真撮影。また今日より西側調査区の表土除去を開始。

7月11日(土) 晴れ 東6号住北側のピット群を掘削、すべて單一層であり、時期の断定できず。また東1・3・6・7・8号住の完掘平面図作成、東3・6号住は未完了。西側調査区の表土除去は続行。

7月12日(日) 晴れ 東6号、東2号土壙、東7号住戸の平面図作成。

7月13日(月) 晴れ 東3・6号住の完掘写真撮影。各土壤の掘り下げをする。

7月14日(火) 曇り時々晴れ 作業員は休み。東6号住北側にある土壤群の平面図作成。

7月15日(水) 晴れのち雨 東7・8号住の炉半裁。また東1号住北側の土壤のうちひとつが埋葬戸で、炉を中心柱穴が存在、住居跡覆土が削平されたものと判断、東10号住とした。

7月16日(木) 晴れ 西側調査区の表土除去を続行、終ったところから順に遺構検出を開始。

7月21日(火) 晴れ 表土除去中断、遺構精査を行う。午後西側調査区の最東端の西1・2号住の掘り下げ開始、床面を検出。

7月22日(水) 晴れ 重機による表土除去終了。西

- 1号住土層断面図作成後、セクションベルト除去、中央部に埋甕炉を検出。住居跡内のピット掘り下げ。西2号住では土器がまとまって出土、土層断面図作成。西1～10号土壤の半数終了。
- 7月23日(木) 晴れ 西2号住セクションベルト除去。西3・4号住は掘り下げ開始。
- 7月24日(金) 晴れ 東6・8号住の土層断面図作成。西2号住遺物出土状況写真撮影。西2号住周辺の土壤掘削。西3・4号住は掘り下げ続行。
- 7月25日(土) 晴れ 東3号住の完掘平面図作成。西2号住内のピット掘削。西3・4号住は掘り下げ続行。
- 7月27日(月) 晴れ 西3・4号住と切り合いのある西5・6号住の掘り下げをする。この周辺は遺構が複雑に切り合っているので慎重に作業を進める。
- 7月28日(火) 晴れ 切り合い関係の複雑な西3～8号住の掘り下げを行う。セクションベルトを多く設定。遺物の出土が多く、土器のほかに土偶、ヒスイ、石斧も見られる。また東8号住の埋甕炉を取り上げる。
- 7月29日(水) 晴れ 西8～10号住の掘り下げを行う。また各住居跡の土層を分層。
- 7月30日(木) 晴れ 西9・10号住の掘り下げ続行。
- 7月31日(金) 曇り時々晴れ 西9～11号住の掘り下げ。西11号住中心部より炉石を検出。
- 8月1日(土) 曇り時々晴れ 西9号住掘り下げ続行。西14号住掘り下げ開始、壁は削平されている。また西4～9号住セクションベルトの断面図作成。
- 8月3日(月) 晴れ 西3・5・6号住のセクションベルト除去。
- 8月4日(火) 晴れ 西6・8号住のセクションベルト除去、完形の土器4個体が新たに出土。また今日より帝京大学の学生が5名調査に参加。
- 8月5日(水) 晴れ時々曇り 西17号住から灰釉陶器、黒色土器が出土し、平安時代のものと判明。西15号住の掘り下げ開始。西3・4・6号住遺物出土状況写真撮影。
- 8月6日(木) 曇り時々晴れ 西12・15・17号住掘り下げ続行。西1号住完掘、平面図作成。西2号住遺物出土状況図作成。各土壤平面図作成。
- 8月7日(金) 曇れのち曇り 西12・15・17号住掘り下げ続行。西18・19号住掘り下げ開始。西2号住遺物取り上げ完了。西3・8号住遺物出土状況図作成。
- 8月8日(土) 曇り後雨 西18・19号住掘り下げ続行。西3～9号住遺物出土平面図作成開始。なお午後より雨が降り出したため、土器洗いをする。
- 8月9日(日) 晴れ 西3～10号住の遺物出土図作成。
- 8月10日(月) 晴れ 西2号住居跡内ピット掘削、半完形土器出土。西12・17号住土層断面写真撮影。西15号住セクションベルト除去。西20・21号住掘り下げ開始。なお東10号住平面図、東3・6・7号住炉平面図作成。
- 8月11日(火) 晴れ 西20・21・22号住掘り下げ。西10・11号住セクションベルト除去。
- 8月12日(水) 晴れ 西20・21・22号住掘り下げ続行。明日より5日間お盆休み。
- 8月18日(火) 晴れ後曇り 西10・11・14号住セクションベルト除去終了。西2号住柱穴内より黒色研磨された土器出土。西18～22号住は土層断面図を作成する。
- 8月19日(水) 晴れ 西12・20・21・22号住セクションベルト除去。西10・11・12・17号住遺物出土状況図作成。西14号住完掘、写真撮影。8月23日に現地説明会を開くことになり、中日新聞、松本市民タイムスが取材。
- 8月20日(木) 晴れ時々曇り 西18～22号住セクションベルト除去。西23号住掘り下げ開始。西2・14号住完掘平面図作成。
- 8月21日(金) 晴れ 西12号住セクションベルト除去。西15号住は遺物取り上げ。西23号住掘り下げ続行、黒曜石多量に出土。西3～8・10・11・13号住は発掘体験教室用のラベルをつける。
- 8月22日(土) 晴れ時々曇り 西18～22号住遺物出土平面図、西23号住掘り下げ続行。
- 8月23日(日) 晴れ 現地説明会及び発掘体験教室開催。発掘体験教室参加者30名。
- 8月24日(月) 晴れ 昨日の発掘体験教室で取り上げのできなかった土器を取り上げる。西3号住柱穴掘

削、西2号住完掘。

8月25日(火) 晴れ 西3・6号住は完掘。西10号住柱穴掘削。

8月27日(木) 晴れ 西5・9・10・11号住居跡内ピット掘削。西3・6号住完掘状況平面図作成。

8月28日(金) 晴れ 西4号住完掘状況平面図作成、西5号住とあわせて写真撮影。

8月29日(土) 晴れ 西8・15号住柱穴掘削。西17号住床面精査、ピット検出、掘削後写真撮影。

8月30日(日) 晴れ 西10・11・13号住完掘状況平面図作成。

8月31日(月) 晴れ 西8・12・15・25号住柱穴掘削、西15号住は埋甕炉半裁、西25号住は埋甕2つ検出。

9月1日(火) 晴れ 西12・23号住完掘。西16号住柱穴掘削、埋甕検出。西18号住遺物取り上げ、統いて柱穴掘削。

9月2日(水) 曙れのち曇り 西16号住柱穴掘削、完掘。西18・19号住柱穴掘削。

9月3日(木) 晴れ 西20・21・22号住遺物取り上げ、統いて住居跡内ピット掘削開始。西18・19号住完掘。西19号住東側土壤掘削。

9月4日(金) 晴れ 西4・8・9・18・19号住完掘写真撮影。西12・16・23号住完掘平面図作成。西20～22号住柱穴掘削終了。西24・25号住掘り下げ開始。

9月6日(日) 晴れ 東3号住炉完掘。東側調査区土壤完掘、平面図作成終了。東側調査区全体写真撮影。

9月7日(月) 晴れ 西8・9・18号住完掘平面図作成。西24・25号住掘り下げ続行、西25号住は柱穴の掘削も行う。

9月8日(火) 曙れ 西15・16号住埋甕炉断面図作成、西15号住は取り上げも終了。西20・21・22号住完掘状況写真撮影。西25号住完掘、写真撮影。西26・27号住掘り下げ開始。

9月9日(水) 晴れ 西24号住の埋甕炉半裁。西26号住床面精査、埋甕検出。

9月10日(木) 曙り 発掘調査区位置図作成。西29・30号住掘り下げ開始。西28号住埋甕検出。

9月11日(金) 曙り 西22号住埋甕半裁、東側にもうひとつ埋甕検出。西25号住周辺の構造精査。西27号住では石の下から埋甕が検出される。西30号住掘り下げ続行。西31・32号住は掘り下げ開始、西31号住よりスプーン状土製品出土。

9月12日(土) 晴れ 西24・30号住掘り下げ。11時30分より仕事納めとして助役、教育長出席のもと慰労会を行う。午後より残務整理。西24号住完掘。西25号住周辺土壤の平面図作成。西28号住柱穴掘り下げ。

9月13日(日) 雨のち曇り 西26・27・29号住居跡内のピット掘削、西26号住ピットより石棒出土。西28号住完掘。

9月14日(月) 曙り 西30号住完掘。西24・26・27・29・30号住平面図作成。各住居跡埋甕半裁。

9月15日(火) 晴れ 西24・28・30号住写真撮影。西30～32号住平面図作成。西側調査区北端の土壤掘削。

9月16日(水) 晴れ 西28・29号住埋甕炉半裁。各住居跡の埋甕炉断面図作成後、取り上げ。今日より発掘機材の撤収を開始。

9月17日(木) 曙れ 西26～29号住埋甕炉断面図作成後、取り上げ。西21号住北西側土壤群掘削。

9月18日(金) 曙り 9時30分、空中写真撮影。東6号住炉石取り上げ、石皿2個を転用したものであった。西側調査区全景写真撮影。

9月19日(土) 曙り後雨 遺跡遠景写真撮影。発掘機材すべて撤収。本日をもって淀の内遺跡発掘調査終了、発掘日数89日。

### 3 整理作業

#### 一 平成4年一

調査終了後、文化財調査委員、ふるさと伝承館運営審議委員などの協力で整理に取りかかる。10月5日から遺物の洗浄、11月5日終了。遺物の洗浄が終了したもののから注記・接合作業を始める。遺物の実測は11月から始め、11月末から石膏いれも行う。作業員不足のため、作業はあまりはかどらない。

なお10月31日、11月1日には山形村文化祭があり、

淀の内遺跡出土品展を行う。多くの方々が訪れ、土器の前に足を止めては見入っており、関心を持っていただいたようであった。

#### -平成 5 年-

昨年に引き続き作業を進める。2月中旬には接合と注記作業終了。3月末には土器の石膏入れが終了した。これよりは遺物の実測作業が中心となるが、遺物が多いため一部は写真測量を依頼。また4月から、長崎が遠方へ就職したため、整理作業は停滞した。これは平成6年も同じである。

#### -平成 7 年-

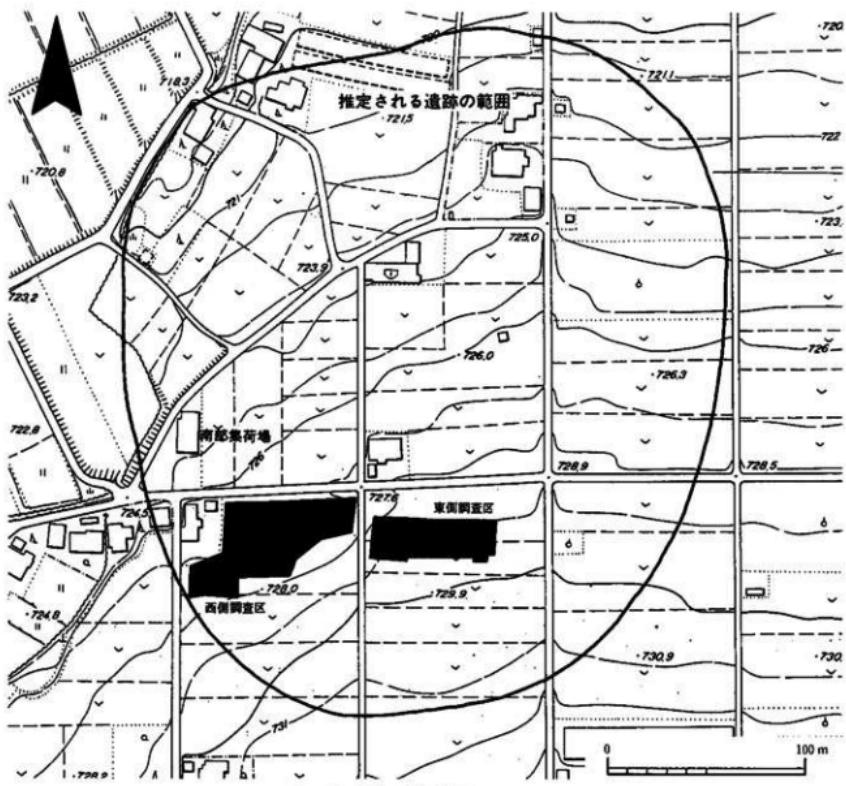
4月より和田が教育委員会埋蔵文化財担当職員となつたため、整理作業再開。遺構平面図の整理・トレス、遺物の実測・トレース。

#### -平成 8 年-

整理作業に従事するものが1人しかいないため、遅々として作業は進まず。版組が終了した時点で、原稿の執筆を横口、長崎、和田で分担。年内によく報告書刊行の見通しがたつ。

#### -平成 9 年-

1月脱稿、3月発行。ここによく報告書完成。



## 第2章 遺跡の立地と歴史的環境

淀の内遺跡の存在する山形村は長野県の中央、松本盆地の南西約12km、鉢盛山（標高2,446m）を背景に山麓沿いに位置し、なだらかに北東へ傾斜した広大な平地をもつ。東部は松本市、南部は朝日村、北部は波田町に接す。総面積27.1km<sup>2</sup>のうち40%の11.8km<sup>2</sup>が山林である。標高は山形村・朝日村・波田町境の山麓、海拔1,745mから三間沢唐沢川合流地点の約690mの間に位置する。鉢盛山系に降った雨水は鏡川となって朝日村を東流し、北は黒川となって波田町を北流している。その間に取り残された小地域の清水高原よりの水が唐沢川となり竹田地区を東流し、また三間沢川となって大池、小坂の集落を北流している。この2つの河川と村の所々にある湧水は、山形村の数少ない水資源である。流量が少ないため十分に村を潤すまでには至らないが、縄文・弥生・平安各時代の集落は、やはり水の確保が容易なこれらの河川沿いに立地している（第4図）。

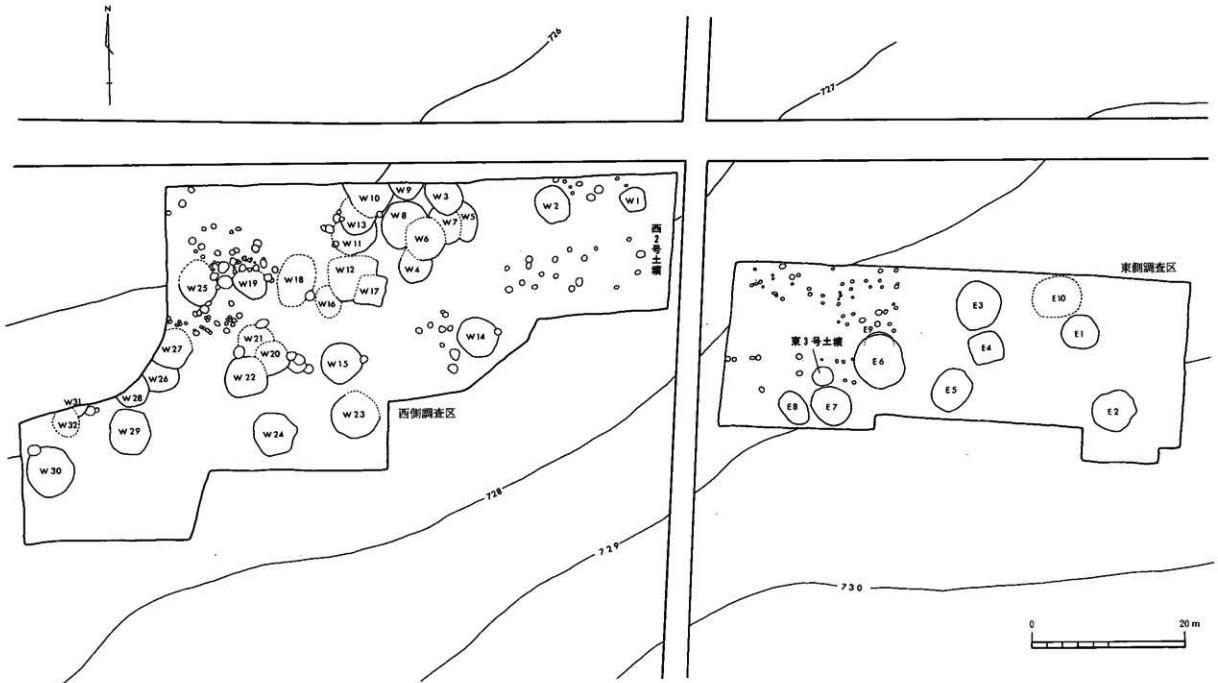
淀の内遺跡は、上大池地区洞地籍にある湧水を源にする小河川に接するように広がっており、以前から縄文時代中期の土器が散布していることが知られていた。またこの小河川沿いには上流に洞遺跡（2）・下耕地遺跡（6）があり、下流には野際遺跡（3）が存在する。いずれも縄文時代中期の遺跡である。また淀の内遺跡の南西山麓方面の谷から流れ出る小河川沿いには豆沢遺跡、窪遺跡（5）の存在が知られているが、これもまた縄文時代中期の遺跡である。なお淀の内遺跡の南東には横出ヶ崎遺跡（7）が縄文時代中期の遺跡として登録されているが、遺跡の範囲・性格など不明な点が多い。

これらの遺跡も含めて山形村には現在、埋蔵文化財包蔵地として38の遺跡が地図に記載されている。前述の通り十分な水の確保が難しく、山麓沿いに緩やかな傾斜地がひろがる地形であるため、縄文時代の遺跡がほとんどである。特に縄文中期の遺跡は数多く、華麗な縄文文化が花開いていたことを伺える。しかし稻作を伴う弥生時代以降は、水田を営むには極限られた面積しか確保できないため遺跡数は少ない。

このように村のあちこちに埋蔵文化財包蔵地が広がっているわけであるが、発掘調査が行われた遺跡は、唐沢遺跡（原 1970）、洞遺跡（藤沢 1971）、三夜塚遺跡（原 1981、1982）、神明遺跡

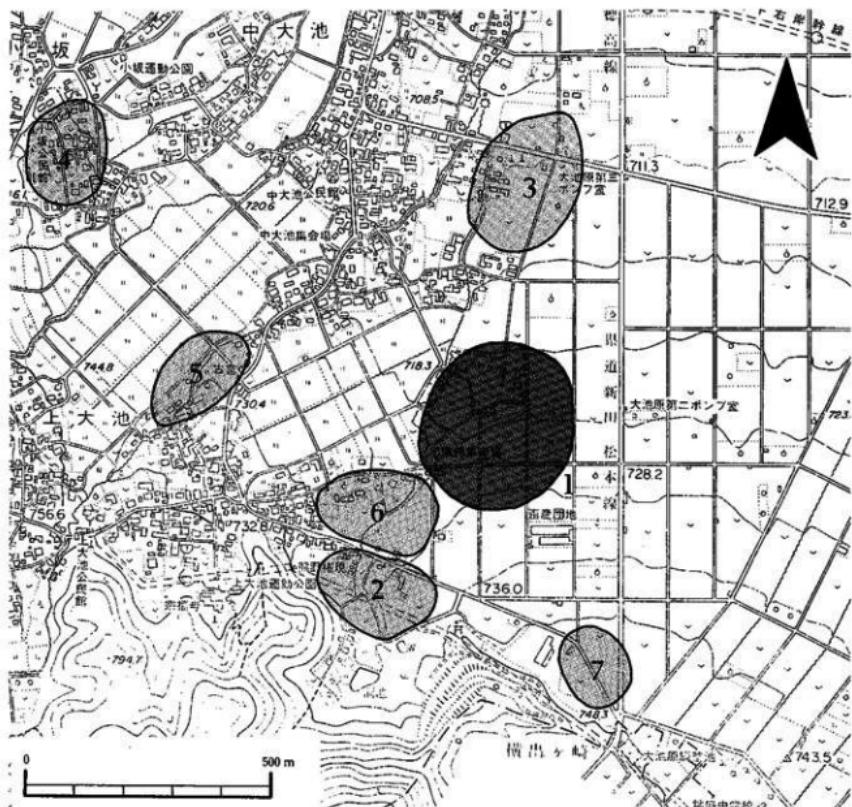


調査地を  
南方より望む



第3図 渋の内遺跡 遺構全体図 (S=1/500)

(原 1982)、北唐沢遺跡・堀内遺跡・大久保2号墳(原 1971)、殿村遺跡(青沼 1987)および小規模な試掘調査によるもののみであり、埋蔵文化財包蔵地の範囲確定もなっていない。また遺跡の性格把握も十分とはいえない状況である。当村は近年人口増加が著しく、周辺地域からの人口流入が続いている。これに伴う開発が村のあちこちで行われ村の様子が変化しつつある。淀の内団地の建設に伴う発掘調査はこの傾向の発端であり、今後も続くであろうが、適切な文化財保護を行い住民意識の高揚につなげていくことが何よりも大切なことであろう。



第4図 淀の内遺跡と周辺の遺跡 (S=1/10,000)

## 第3章 遺構

### 第1節 繩文時代の遺構

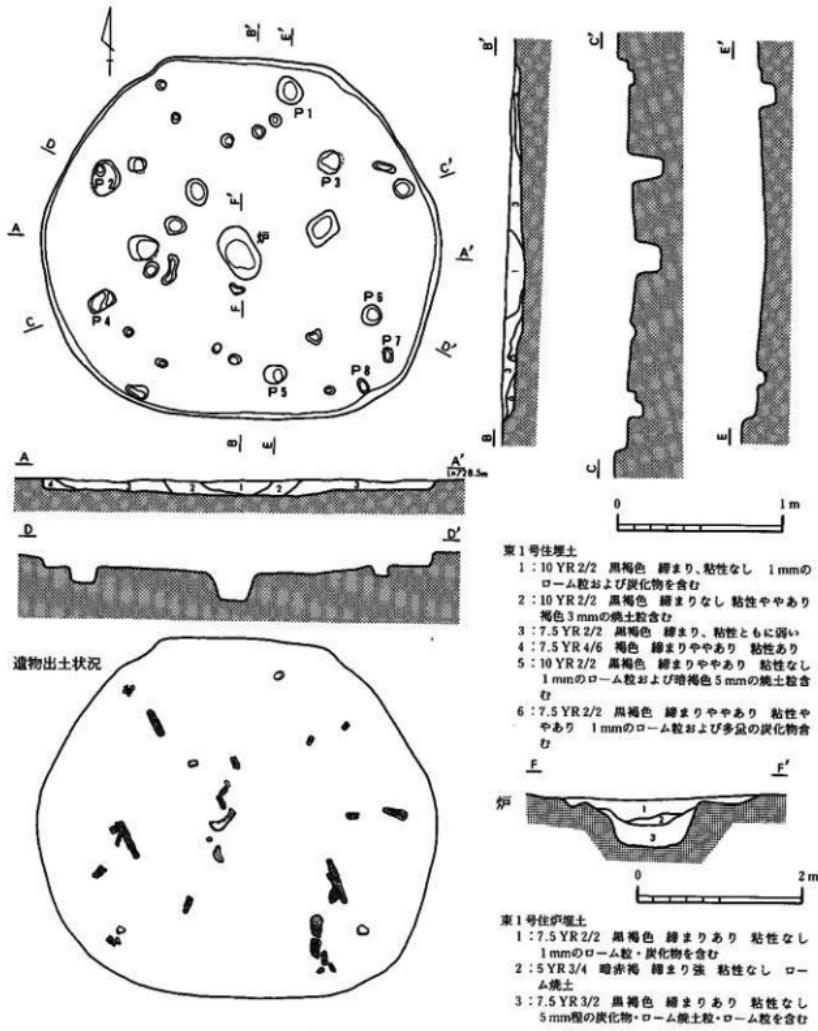
#### 1 住居跡

##### 1) 東1号住居跡

- 位置 東側調査区の北東側にあり、東10号住居跡に接する。
- 形状 不整円形を呈し、規模は5m×4.3mをはかる。かなりの搅乱を受けており、壁は10cm程度と浅い。出入口と炉を結ぶ主軸は南東方向を指す。
- 覆土 壁高は10cm程度であったが6層に分層され、全体にローム粒と炭化物を含んでいる。壁高が浅く確実に判断できないが自然堆積によるものと思われる。
- 床面 堀り込んだローム面をそのまま床面とし、小穴が無数に存在して凹凸が激しい。硬化面は特に認められなかった。
- 柱穴 多数のピットが確認され、P1～P4が主柱穴、P5・P6は出入口部施設の柱穴と思われる。また、P7・P8については性格を把握し切れないが特殊的な施設であるかもしれない。その他のピットについては性格不明である。
- 炉址 ほぼ中央に位置し、南東方向を長軸とする梢円形を呈する。炉址覆土は焼土粒を多量に含んでいた。
- 特殊施設 検出されなかった。
- 出土遺物 土器片3点（第44図1・2）が出土し、1の土器には酸化鉄が含まれていた。石器は、石鎌（第58図1）2点、磨石1点、石匙（第59図29）1点が出土している。これらの遺物はすべて床面直上に存在していた。また、平板状の炭化片が多数検出されており、焼失した家屋の可能性が高い。
- 時期 出土土器より、前期Ⅰ期（中越式）と考えられる。

##### 2) 東2号住居跡

- 位置 東側調査区の東南端に位置し、他の住居跡からやや距離をおく。
- 形状 不整円形を呈し、規模は5.8m×5.3mをはかる。壁高は10cmから40cmをはかり、北西側ほど深い搅乱を受けたと考えられ南東方向で高く段斜面に掘込まれている。主軸は南北方向を指すと考えられよう。
- 覆土 9層に分層でき、炭化物やローム粒を含む褐色土が住居跡中央部に流れ込んでおり、自然堆積状況を示す。
- 床面 堀り込んだローム面をそのまま床面として使用しており、平坦ではあるが硬化面は特に認められなかった。
- 柱穴 8個のピットが確認された。このうちP1～P4の4箇所が主柱穴と考えられる。他



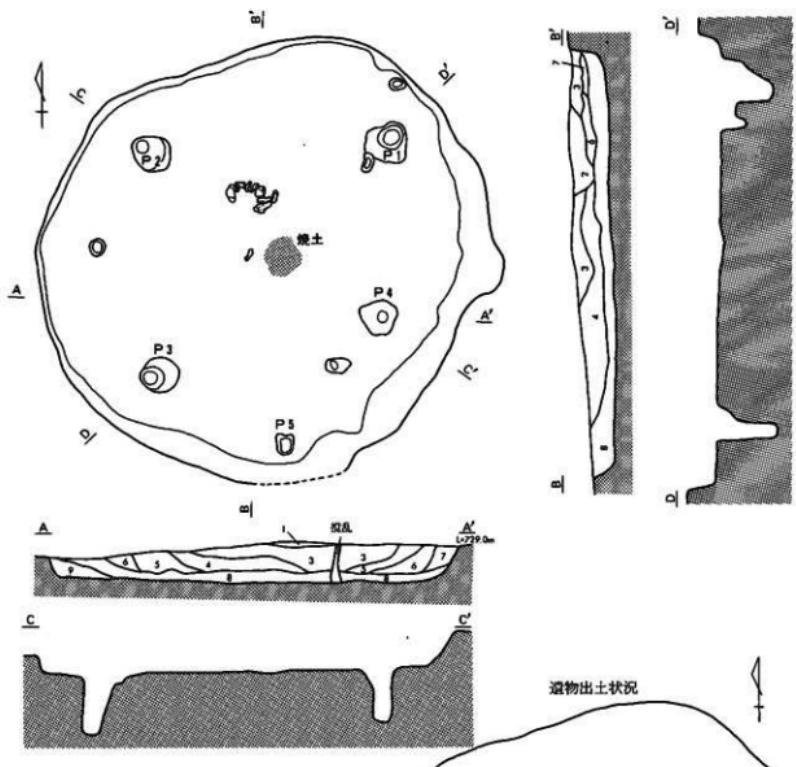
第5図 東1号住居跡実測図

のピットについては性格不明であるが、P 5は出入口部の特殊なピットかもしれない。

**炉 址** 正確な位置は不明であるが、ほぼ中央に円形の焼土と、その南西近くに最大20cmの礫を含む集石が検出された。焼土は床面より2 cm程度の凹面である。

**特殊施設** 検出されなかった。

**出土遺物** 土器は第44図3~8と多数の土器片が出土した。石器については、打製石斧2点、



東2号住居土

- 1 : 7.5 YR 2/2 黒褐色 しまり・粘性なし 1 mm 程のローム粒含む
- 2 : 10 YR 3/2 黒褐色 しまり強 粘性なし 1 mm 程のローム粒含む
- 3 : 7.5 YR 3/2 黒褐色 しまり・粘性弱 1 mm 程のローム粒多く含む わずかに炭化物含む
- 4 : 7.5 YR 2/2 黒褐色 しまり・粘性なし わずかにローム粒含む 炭化物含む
- 5 : 7.5 YR 2/3 黒褐色 しまり・粘性弱 1 mm 程のローム粒・炭化物含む
- 6 : 7.5 YR 3/3 増褐色 しまり・粘性ややあり
- 7 : 7.5 YR 4/4 褐色 しまり弱 粘性あり ローム主体の堆積層
- 8 : 7.5 YR 3/3 増褐色 しまり・粘性ややあり 1 cm程のロームブロック含む
- 9 : 10 YR 3/3 黒褐色 しまり・粘性あり ローム粒を含む



第6図 東2号住居跡実測図

凹石3点、磨石1点等が出土している。これらの遺物は中央部に集中したような状況で出土し、多数の礫を含む覆土中であった。

時期 出土土器より、中期中葉III期（藤内I式）の古い段階に廃棄されたものと考えられ、中期中葉II期（新道式）の土器も見られるので、構築時期は若干先行するものと考えられよう。

### 3) 東3号住居跡

位置 東側調査区のはば中央に位置する。東4号住居跡に接する。

形状 ほぼ円形を呈し、規模は5.9m×6.2mをはかる。壁高は最大25cmをはかり南西側では15cmしかなく、削平を受けたものと思われ明確な形状は把握できなかった。

覆土 9層に分層でき、自然流入による堆積と考えられる。

床面 掘り込んだローム面を床面としている。床面は平坦で硬化面は見られなかった。

柱穴 実に多くのピットが検出された。P1～P13が主柱穴であったと考えられるが、5本柱であったと考えられ、立て替えなどによる主柱穴の移動があったものと考えられよう。また、この主柱穴を結ぶように10cm程度の深さをもつ溝が掘り込まれている。このほか北西側、南西側、南東側の壁際にも溝が検出された。P14～P17は出入口に関係するピットであろう。P18は出入口と関係を持つ特殊なピットであった可能性がある。他の壁に近い小ピットは正確不明なものが多いが、壁面に接しているものについては土留め用の柱穴かもしれない。P19～P24については袋状を呈し、この形状から判断して貯蔵穴であったかもしれない。特にP22・P23の覆土上には焼土がみられ、比較的古い段階のピットである。

炉址 中央奥よりに位置する方形の石囲い炉である。炉底は赤く変質していた。

特殊遺構 検出されなかった。

出土遺物 土器は深鉢（第45図11～13）3点とミニチュア土器（第44図10）1点、少量の土器片が出土した。また土製品として三角墻土製品（第57図17）が出土している。石器は、石鎌（第58図2・3）3点、石錐（第58図20）1点、打製石斧1点、石匙1点等が出土した。

時期 出土土器及び炉形態から中期中葉III期と考えられる。

### 4) 東4号住居跡

位置 東側調査区のはば中央に位置し、東3号住居跡に近接する。

形状 隅丸方形を呈し、規模は東西4.1m×南北4.2mをはかる。壁高は14cmから36cm程度とばらつきがあり、削平を受けているものと思われる。

覆土 5層に分層でき、自然堆積によるものと考えられるが、多量に炭化物を含み、炭化材が見られる。一部にスプリンクラーの配管による搅乱を受けている。

床面 床面は平坦なもの、小ピットが無数に存在している。

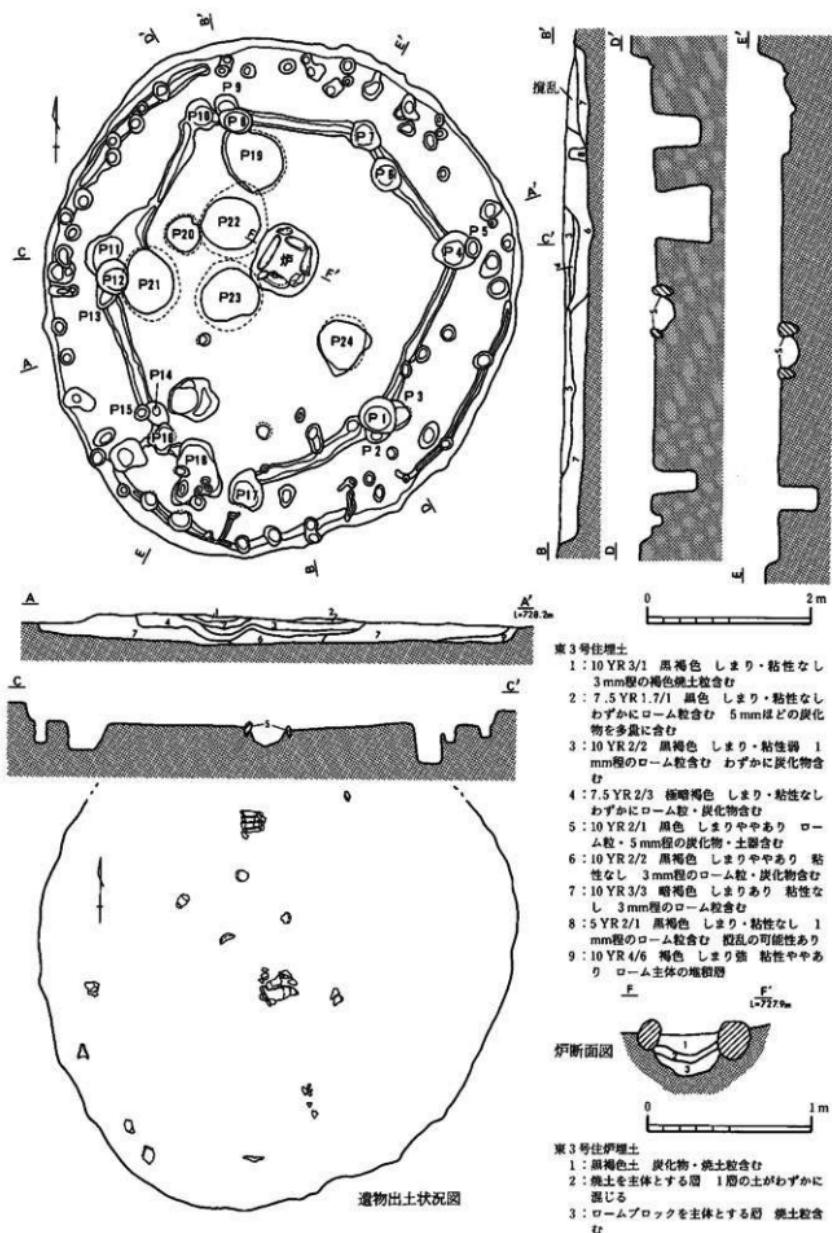
柱穴 P1とP2の2箇所のみであった。これらが主柱穴であったものと思われる。

炉址 ほぼ中央に位置し、楕円形を呈する。炉面は焼土化していた。

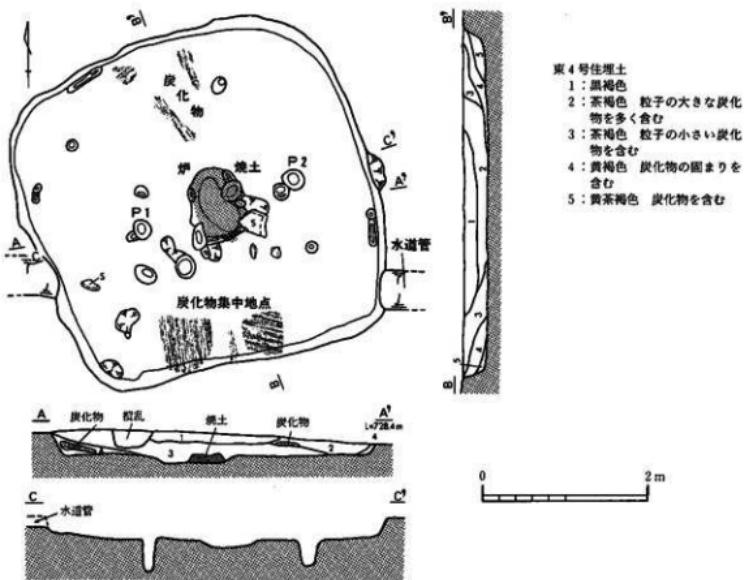
特殊施設 検出されなかった。

出土遺物 中越式の土器片と、炉に接するようにして平板状の石皿が1点、石鎌（第58図4・5・19）6点、石匙（第59図30）、削器がそれぞれ1点出土した。また、搅乱土中から玦状耳飾（第60図54）が採集された。

時期 出土土器より、前期I期と考えられよう。



第7図 東3号住居跡実測図



第8図 東4号住居跡実測図

### 5) 東5号住居跡

**位置** 東側調査区中央南端に位置し、東4号住居跡の南西側5mの位置にある。

**形状** 北東—南西方向を長軸とする楕円形である。規模は4.5m×5.8m、壁高は20cmから40cmとばらつきがあり、北東側で低くなる傾向が見られる。また、北東側では壁が垂直に近いのに対し、南西側ではやや緩やかな斜面となっている。入り口と炉を結ぶ主軸方向は南西を指す。

**覆土** 黒褐色土を中心にして6層に分層され、それぞれにローム粒、炭化物を含み、自然流入による堆積と考えられる。

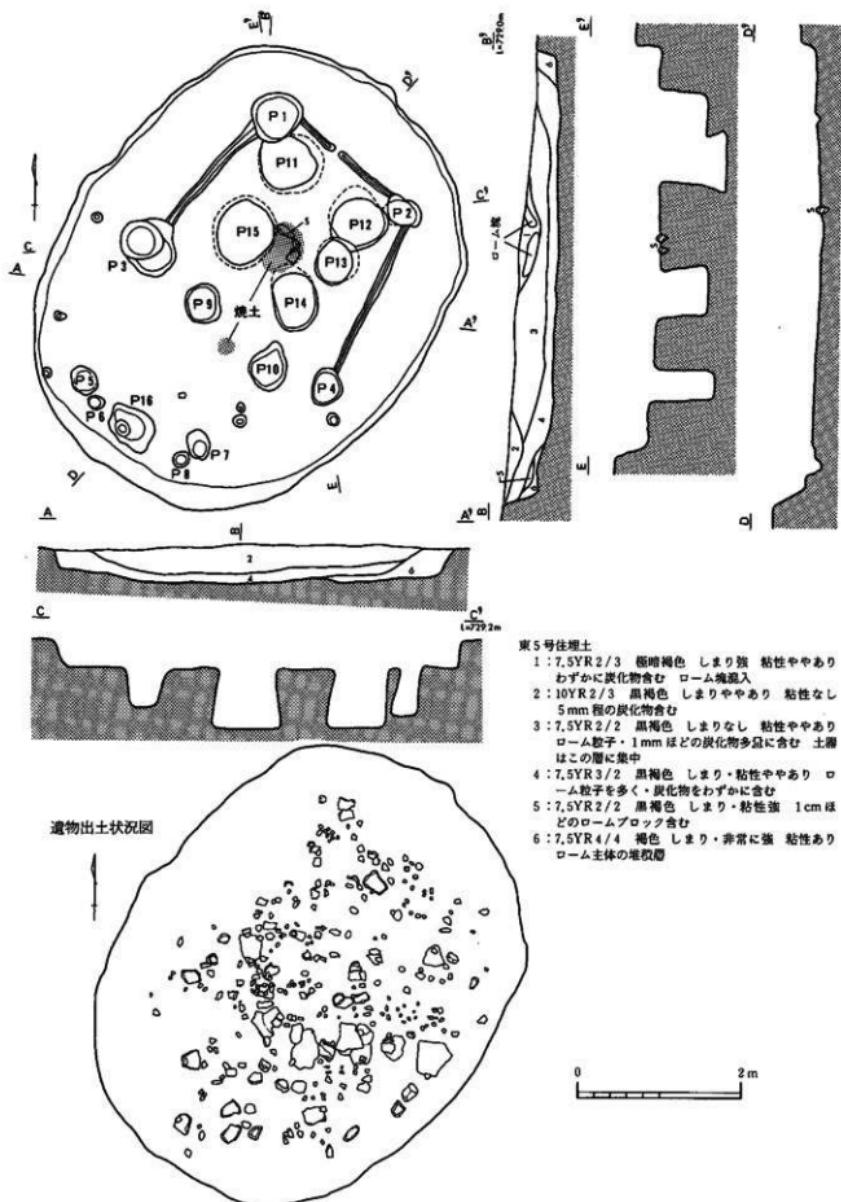
**床面** 平坦なローム面で、硬化面は見られない。

**柱穴** P1～P15まで15箇所にピットが検出された。P1～P4が主柱穴と考えられ、P1とP3、P2とP4を結ぶように溝が掘られている。また、P1とP2間に掘られた溝は途中で切れている。P5～P8は出入口に関係する柱穴と考えられる。またP11～P15の形状は底の方が広くなる袋状を呈しており、貯蔵等のピットと考えられよう。

**炉址** 検出時点の炉は中央やや奥よりに位置していたが、これより南西側に赤く変色した焼土が見られ、移動後のものと考えられる。

**特殊施設** 南西出入口部に皿状のピット(P16)が検出された。出入口部の施設として考えられ、埋甕的な機能を持つ可能性があろう。

**出土遺物** 覆土中から多量の土器片、石器が出土し、いわゆる廃棄場の様相を呈していた。土器は、完形に近いものだけでも9点(第45図14～17、第46図18～22)、土偶4点(第56図1・8・9・11)、土鈴(第57図18)等が出土している。石器は小型磨製石斧1点が出土したほか、石鏃5



第9図 東5号住居跡実測図

点、打製石斧 5 点、凹石 2 点、砥石 1 点が覆土中より出土している。

時期 出土土器より、中期中葉III期に廃棄されたものと考えられ、構築時期は若干これに先行するものと考えられよう。

#### 6) 東 6 号住居跡

位置 東側調査区の中央やや西より、東 7 号住居跡北東 3 m の位置にある。

形状 不整形な円形状を呈する。規模は 6.5m × 6.8m をはかる。壁高は 5 cm から 50 cm とばらつきがあり、やはり北側にいくほど削平が深くまで及んでいる。出入口と炉を結ぶ主軸は北東—南西方向である。

覆土 11 層に分層され、自然堆積によるものと考えられる。

床面 堀り込んだローム面を床面とし、平坦であるが硬化面は見られない。

柱穴 実に多くのビットが検出された。P1～P13までが主柱穴と考えられ、2回もしくは3回の拡張があったものと考えられる。溝も主柱穴を結ぶような形で存在するものと、壁ぎわに沿つたものがある。他のビットは不明な点が多いが炉址付近にある比較的大型のビットは貯蔵用かもしれない。

炉址 中央からやや奥に位置し、比較的浅く、円形に近い石囲い炉である。炉石の一部は石皿（第64図98）から転用されたものであった。また、住居内床面 2箇所に熱によると思われる変色が見られ、拡張による炉の移動もうかがえる。

特殊施設 特に検出されなかったが、出入口部の皿状ビットは何らかの意味を持つものと考えたい。

出土遺物 優かな土器片と井戸尻III式期の深鉢（第46図23）が出土した。また、土偶の胸部（第56図11）が出土している。石器は比較的多く、石鎌（第58図9） 1点、小型の石匙（第59図33）1点、石錐（第58図21） 2点、削器（第60図45） 1点、打製石斧（第61図57・58） 8点、磨製石斧（第62図76・78） 2点、凹石（第63図87・88） 3点、磨石 1 点が出土した。特に注目されるのはヒスイの原石 3 点と剥片 8 点が覆土中およびビット覆土中より出土した点である。

時期 不明な点も多いが中期中葉VI期（井戸尻III式）に廃棄されたものと考えられ、構築時期は若干これに先行するものと考えられよう。

#### 7) 東 7 号住居跡

位置 東側調査区の西よりに位置し、東 8 号住居跡および東 3 号土壙に近接する。

形状 不整形な円形状を呈し、規模は 5.4m × 5 m をはかる。壁高は 10 cm ～ 40 cm とばらつきがあり、削平を受けている。出入口と炉を結ぶ主軸は北東方向である。

覆土 黒褐色土で 4 層に分層できた。堆積の薄い所もあり確実とはいえないがおそらく自然堆積によるものと考えられる。

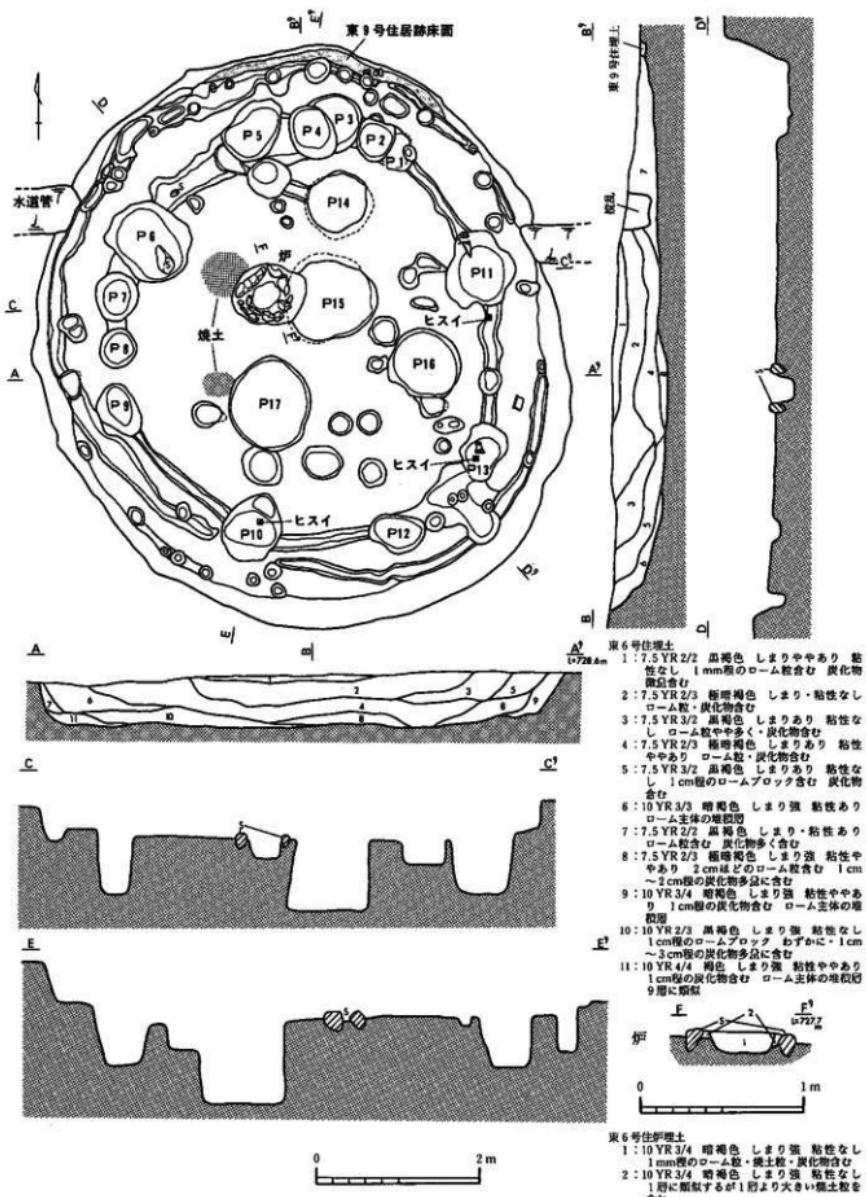
床面 硬化面は見られないが平坦な床である。

柱穴 P1～P6 が主柱穴と考えられる。また、壁際の小ビットは土留め用の柱穴と考えられよう。

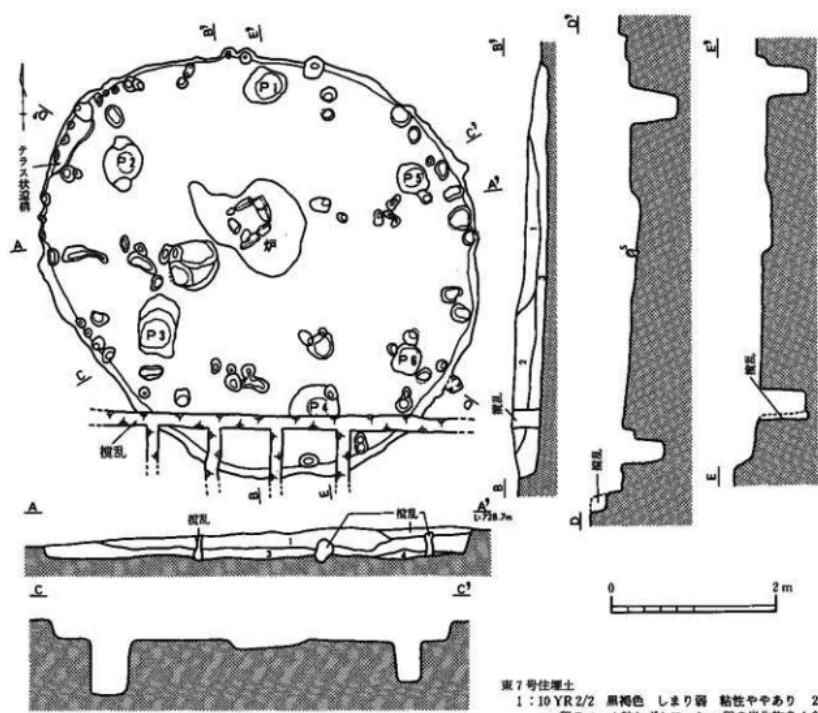
炉址 中央やや奥よりに位置し、掘り方は不整形であるが小型の方形石囲い炉である。

特殊施設 特に検出されなかった。

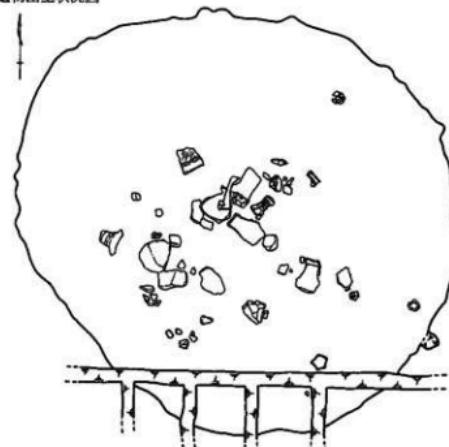
出土遺物 内部に朱の付着が見られる小型の有孔鍔付土器（第46図24）が出土したほか、小型



第10図 東6・9号住居跡実測図



遺物出土状況図



東7号住居土

1 : 10 YR 2/2 黒褐色 しまり弱 粘性ややあり 2 mm程のローム粒わずかに・1cm程の炭化物多く含む

2 : 10 YR 2/3 黒褐色 しまり・粘性ややあり 1mm ~ 1cm程のローム粒含む 1cm程の炭化物わずかに含む

3 : 10 YR 3/3 暗褐色 しまり強 粘性ややあり 1mm程のローム粒多く・1mm程の炭化物わずかに含む

4 : 10 YR 4/6 棕褐色 しまりややあり 粘性あり ロームと黒褐色土が混ざる堆積層 (ローム主体)

東7号住居土

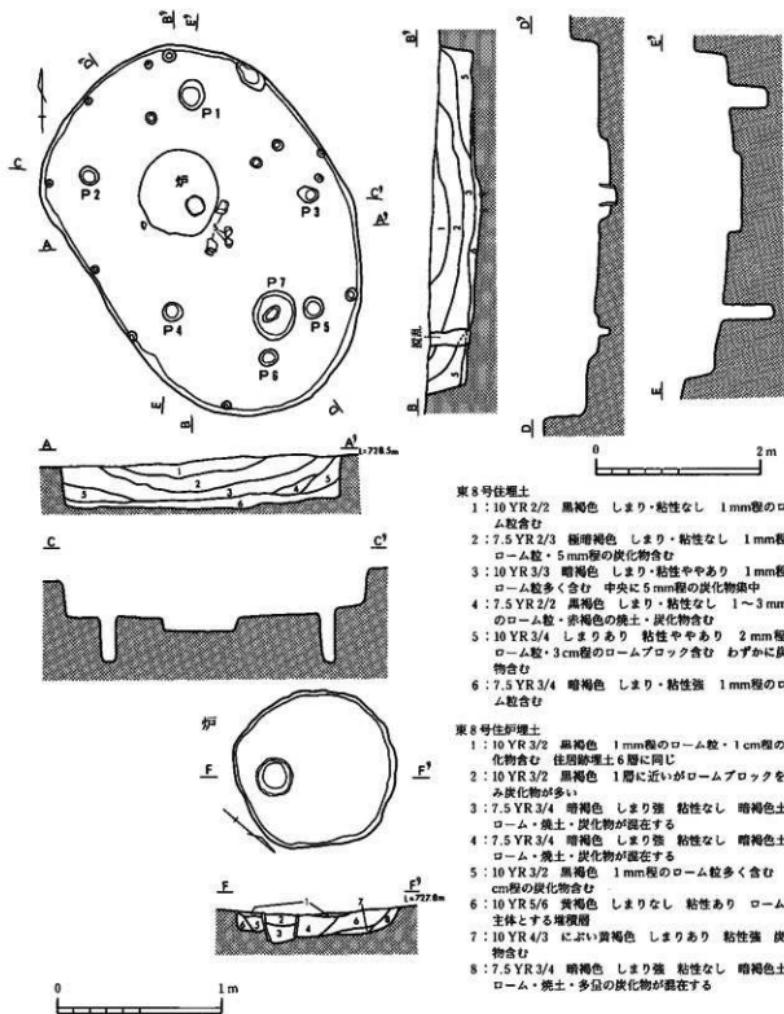
7.5 YR 2/2 黒褐色 しまり・粘性なし ローム粒・焼土粒・炭化物含む



第11図 東7号住居跡実測図

深鉢（第46図26）1点、深鉢（第46図25・27・28、第47図29・30）5点と焼町式の深鉢1点が出土した。石器は、石錐1点、凹石（第63図89）1点が出土したにとどまる。

時期 中期中葉III期段階に廃棄されたものと考えられ、炉形態からも構築時期は若干これに先行するものと考えられよう。



第12図 東8号住居跡実測図

### 8) 東8号住居跡

位 置 東側調査区西よりに位置し、東側に東7号住が近接する。

形 状 北西—南東方向を長軸とする長楕円形を呈する。規模は長軸4.6m×短軸3.3mをはかり、壁高は40cmとやや深い。

覆 土 黒褐色あるいは暗褐色でローム粒、炭化物を含み、6層に分層できた。堆積の状況は自然流入によるものと思われる。

床 面 挖り込んだローム面を床面とし、硬化面は見られなかった。床面は、炉に向かって僅かに傾斜しているがほぼ平坦である。

柱 穴 主柱穴はP1～P4と考えられ、P5・P6は出入口部に關係する柱穴であろう。また、壁際に小ピットが検出された。

炉 址 中央部に位置し、深鉢の胴部を転用した埋甕炉である。掘り方と考えられる部分は埋設した土器に比べかなり大きく、直径1mをはかり、上面はローム土による貼り床状になっていた。覆土は黒褐色あるいは暗褐色土で、多量の炭化物とローム焼土粒が含まれている。

特殊施設 出入口部に皿状のピットが検出され、皿状ピットの中央部はさらに深く掘られている。いかなる機能を持っていたかまったく不明であるが、出入口部であることを考えるならば、今後盛んに行われるようになる埋甕的な性格をもつかもしない。

出土遺物 多くの出土物はなく、埋甕（第47図31）、土器片数点、磨製石斧（第62図80）1点が出土している。埋甕はいわゆる平出III類A群の土器である。

時 期 埋甕である平出III類A群の土器が、地文に縄文をもっていることから、中期中葉II期（新道式）と考えられよう。

### 9) 東9号住居跡

位 置 東側調査区の中央やや西よりに位置し、大部分を東6号住居跡に切られている。

形 状 不明であるが、僅かに残った壁面から推察して円形状と思われる。

覆 土 壁高が僅か5cmしかなく不明。

床面・柱穴・炉址・特殊施設 ともに不明。

出土遺物 土器片5点、磨製石斧（第62図81）1点が出土した。

時 期 出土土器より、前期I期と考えられよう。

### 10) 東10号住居跡

位 置 東1号住居跡の北西側に位置する。

形 状 覆土がすべて削平されており不明。

覆 土 不明。

床 面 不明であるが、炉上面を床面とすれば、ほぼ平坦なものとして考えられる。

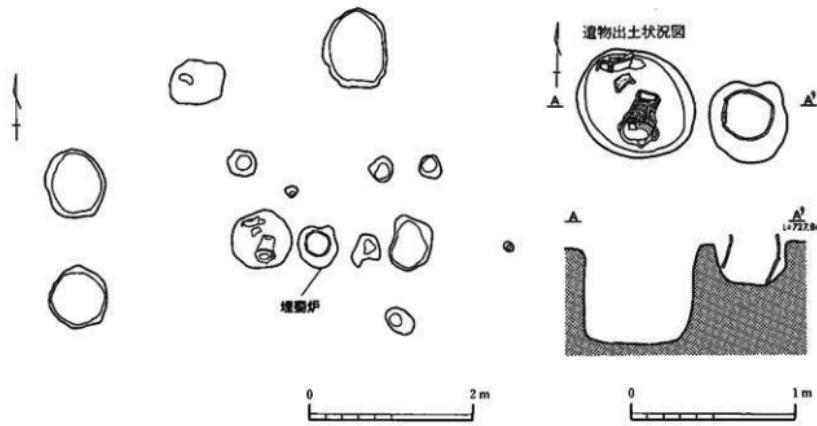
柱 穴 不明であるが、炉の周辺に存在するピットはこの住居跡に帰属するものと考えられる。

炉 址 位置関係は不明であるが、大型の深鉢胴部を転用した埋甕炉である。周囲の掘り方部分はやや赤く変色していた。

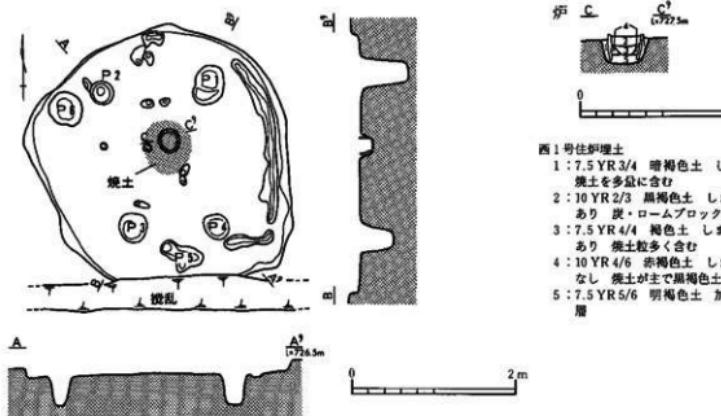
特殊施設 不明。

出土遺物 炉付近のピット埋土上部よりほぼ完形の深鉢（第47図33）が出土した。

時 期 炉の埋設土器より、中期中葉IV期（藤内II式）と考えられる。



第13図 東10号住居跡実測図



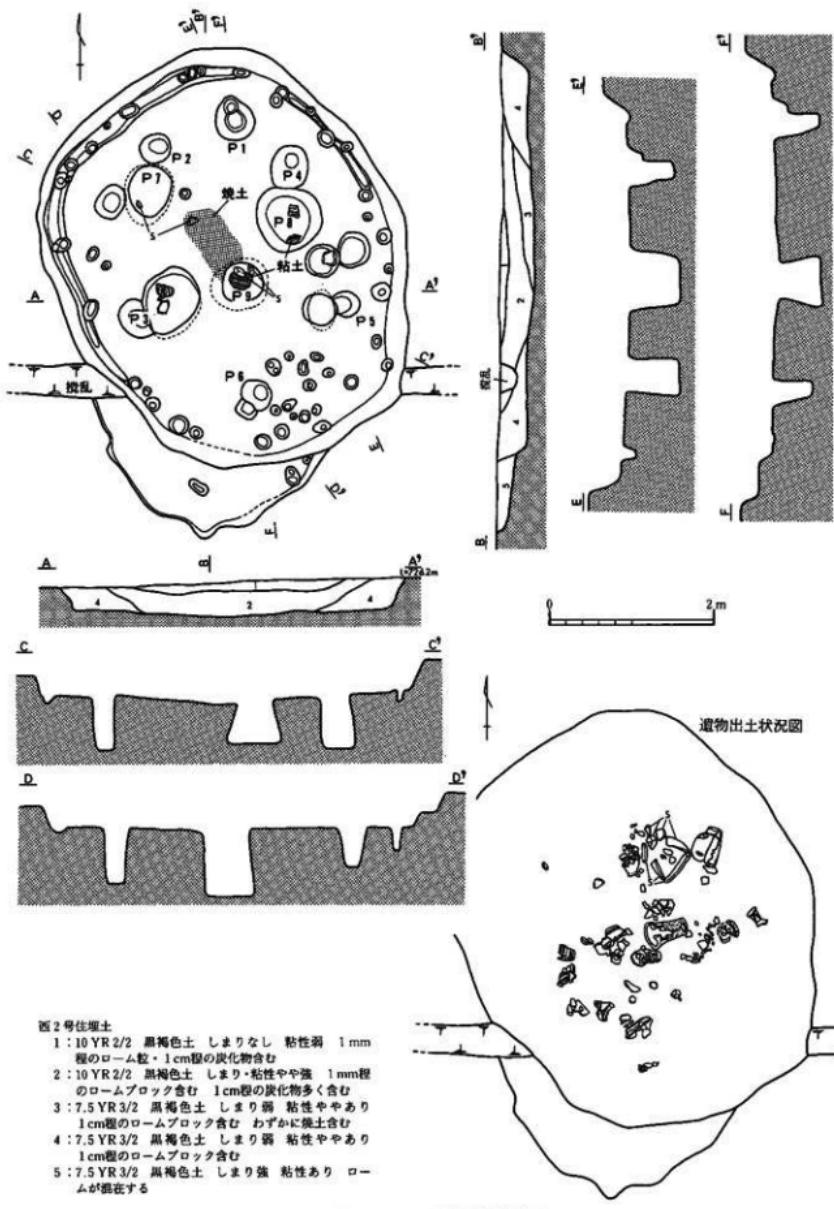
第14図 西1号住居跡実測図

### 11) 西1号住居跡

**位 置** 西側調査区東端に位置する。

**形 状** 不整形な円形を呈するものと思われるが、南側を搅乱により削られ、しかも全体に削平を受けており、確実なものではない。現存する規模は3.2m×3.1mをかり、壁高は10cm程度である。主軸はややずれるものの南を指す。

**覆 土** 覆土が薄いため堆積状況は不明である。



第15図 西2号住居跡実測図

- 床面** 平坦で炉付近がやや硬化している。東側壁際のみ周溝がみられる。
- 柱穴** P1～P4が主柱穴と考えられる。P6は時期について不明であるがこの住居跡に伴わない土壤と考えられる。
- 炉址** 中央部に位置する。深鉢の胴部を転用した埋甕炉（第47図34）である。炉の周辺20cmは焼土になっている。
- 特殊施設** 入口部に浅目の不整形なピットが検出された。
- 出土遺物** 埋甕以外に遺物の出土はなかった。
- 時期** 炉に埋設された土器より中期中葉Ⅰ期（貉沢式）に構築されたと考えられる。

#### 12) 西2号住居跡

- 位置** 西1号住居跡の西側約6mの所に位置する。南西側で浅い掘り込みを切っている。
- 形状** 北西—南東を長軸とする楕円形状を呈する。規模は4.3m×5mをはかる。壁高は30cm前後である。
- 覆土** 4層に分層でき、不自然な堆積が見られた。
- 床面** 掘り込んだローム面を床面とし、平坦で全体的に硬くしまっている。南側壁際に周溝が見られる。
- 柱穴** 主柱穴はP1～P4と考えられ、P5・P6は出入口に關係する柱穴と考えらえる。P7～P9は貯蔵穴と考えられようか。他のピットについては性格不明である。
- 炉址** 中央部から奥よりにかけて焼土化した部分が見られ、おそらくこれが炉址と考えられる。掘りが浅く不明な点も多いが炉を移動したものと思われる。また床面から覆土を挟んで石囲い炉が検出されており、異なる住居跡の存在が予想され調査を行ったが、その明瞭な床面および壁面は検出することができなかった。
- 特殊施設** 検出されなかった。
- 出土遺物** 覆土中より多くの土器が出土し、ある程度復元できた深鉢（第48図35～38）が4点ある。石器は石鏃（第58図10）2点、打製石斧5点、小型磨製石斧（第60図48）1点が検出された。また土偶（第56図4・7）の頭部と胴から脚にかけての部分が出土している。
- 時期** 覆土中の土器は、中期中葉Ⅲ期の様相を呈する。

#### 13) 西3号住居跡

- 位置** 西側調査区の北端に位置し、一部調査区域外にまで及ぶ。西5・7号住居跡を切り、西9号住居跡と接する。
- 形状** 北側が調査区域外にあるため確実ではないが、楕円形を呈するものと考えられる。現存する壁高は20cm前後と浅い。
- 覆土** 4層に分層でき、自然堆積によるものと判断できる。
- 床面** 掘り込んだローム面を床面とし、平坦ではあるが硬化面は見られない。壁際に溝が掘り込まれている。
- 柱穴** P1～P5が、この住居跡に伴う柱穴と考えられる。他のピットについては、覆土中よりの掘り込みやローム土による貼りが見られ、この住居跡に属さないものと考えられる。
- 炉址** 中央部に位置し、西側で炉石の抜き取り痕が見られ、大型の石を用いた方形石囲い炉である。炉底まで30cm余りと深く、その中央部には土器底部を転用した埋甕が見られる。全体が焼

土化していた。

特殊施設 檜出されなかった。

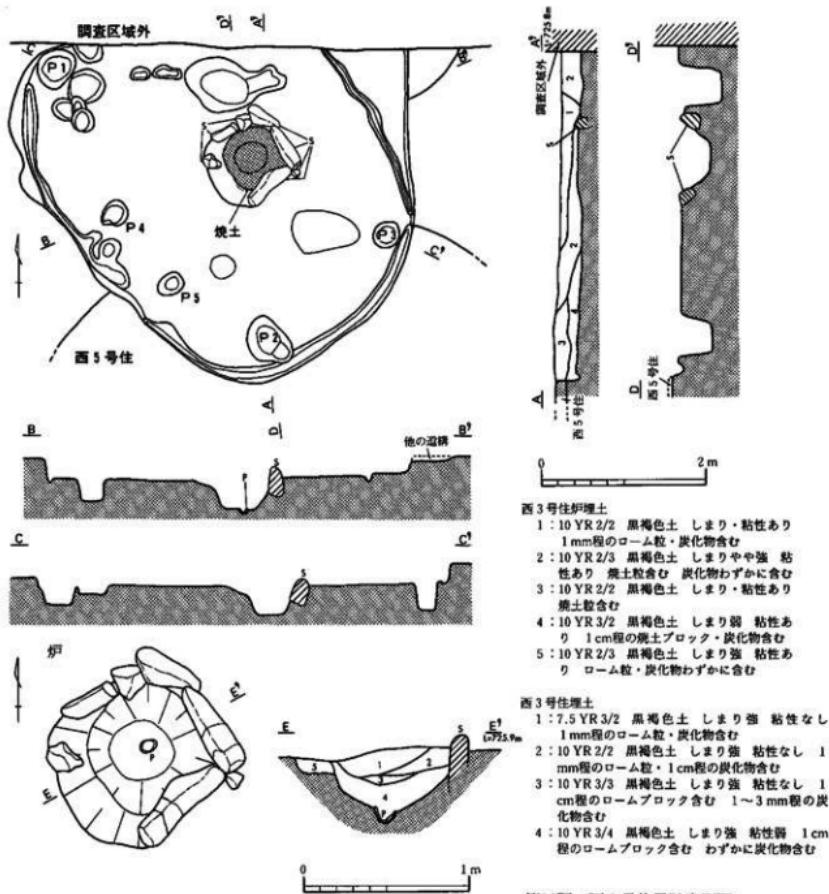
出土遺物 覆土中より土器片と深鉢（第48図39）、石錐（第58図11・12・16・17）5点、打製石斧（第61図59・61）7点、石錐（第58図22）1点、小型磨製石斧（第60図49・50）2点、凹石（第63図90・93）4点、磨石1点が出土した。

時期 爐に埋設された土器より中期後葉III期に構築されたと考えられる。

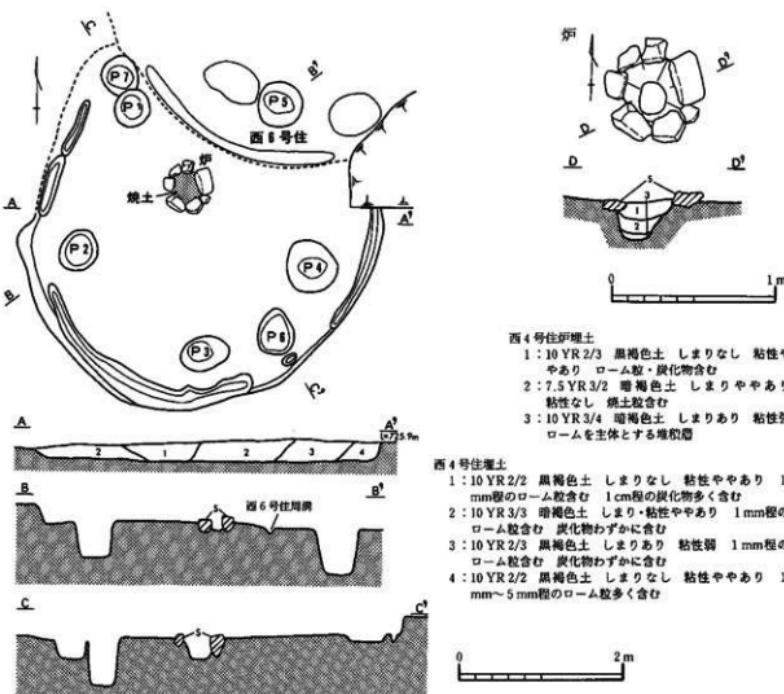
#### 14) 西4号住居跡

位置 西側調査区中央東よりに位置し、西6号住居跡に切られている。

形状 ほぼ円形を呈し、現存する形状から推測される規模は4.3m×4.5mをはかる。壁高は



第16図 西3号住居跡実測図



第17図 西4号住居跡実測図

22cmをはかり、削平のため北側の壁は失われている。

**覆土** 4層に分層できたが、この付近は削平を受けており不明な点が多い。

**床面** 平坦で炉付近は堅く締まっていた。壁際にはとぎれとぎれに溝が検出された。

**柱穴** 主柱穴はP1～P5にあたるものと考えられ、P5は西6号住居跡内に存在する。P3・P4は出入入口部に關係を持つ柱穴と考えられる。他のピットに関しては不明であるが、P6は覆土中からの掘り込みが観察されたので、この住居跡には直接伴わないだろう。

**炉址** ほぼ中央に位置し、小型の円形石囲い炉である。炉面は熱による変色が見られる。

**特殊施設** 検出されなかった。

**出土遺物** 覆土中より土器片と深鉢（第48図41）、石錐（第58図23）が出土している。

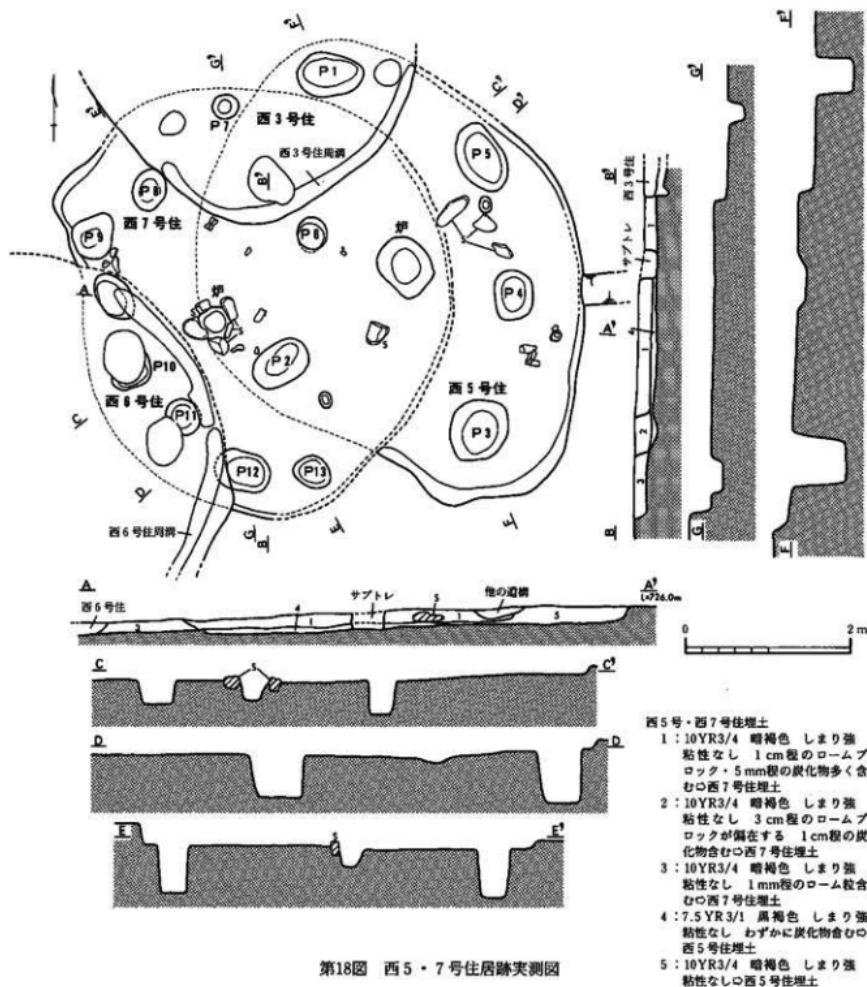
**時期** 中期中葉V期（井戸尻I式）に廃棄されたと考えられる。

### 15) 西5号住居跡

**位置** 西3・7号住居跡に切られている。

**形状** 他の住居跡との切り合いが激しいため確実には判断できない。

**覆土** 壁高が10cmと浅く、把握が困難であるが、4・5層が西5号住居跡の覆土にあたる。  
**床面** 平坦であるが、硬化面は見られない。



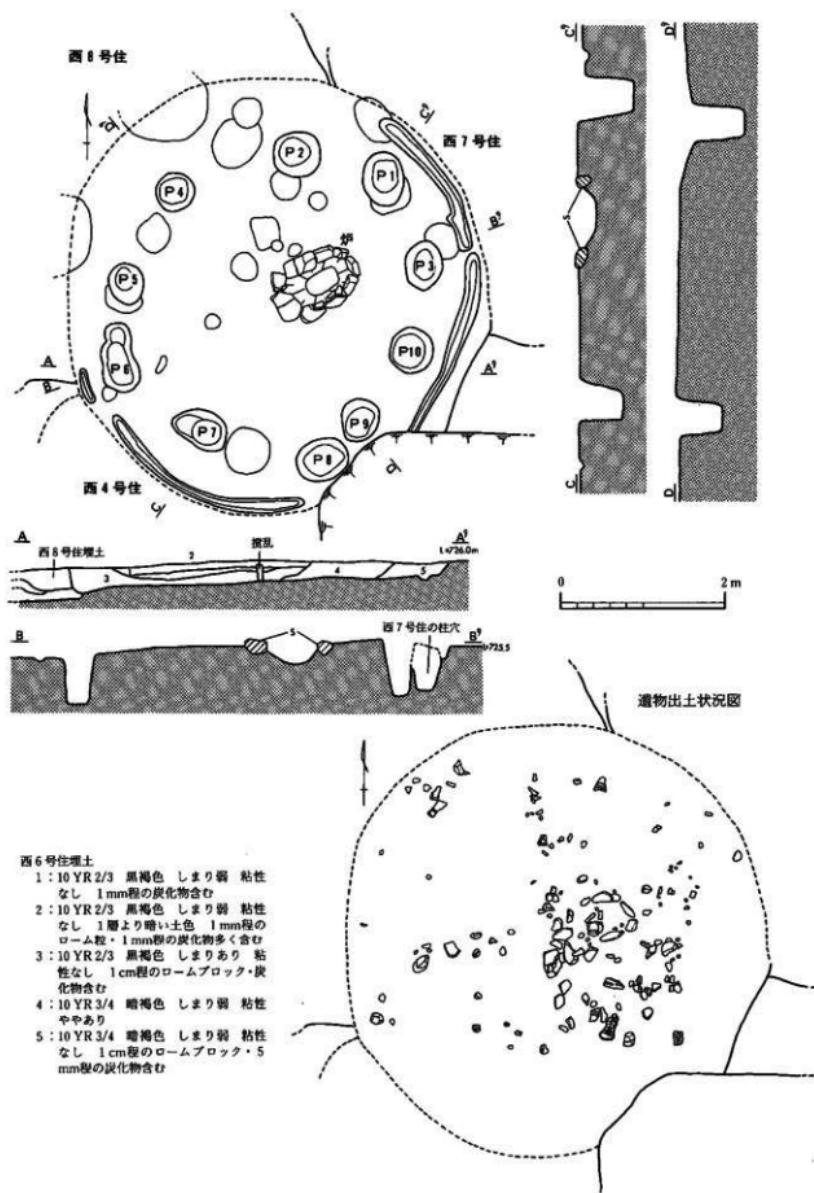
第18図 西 5・7 号住居跡実測図

**柱穴** P1～P5までが本住居跡に伴うもので、これらが主柱穴と考えられる。掘り方は、他の住居跡には見られないような橢円形状を呈している。

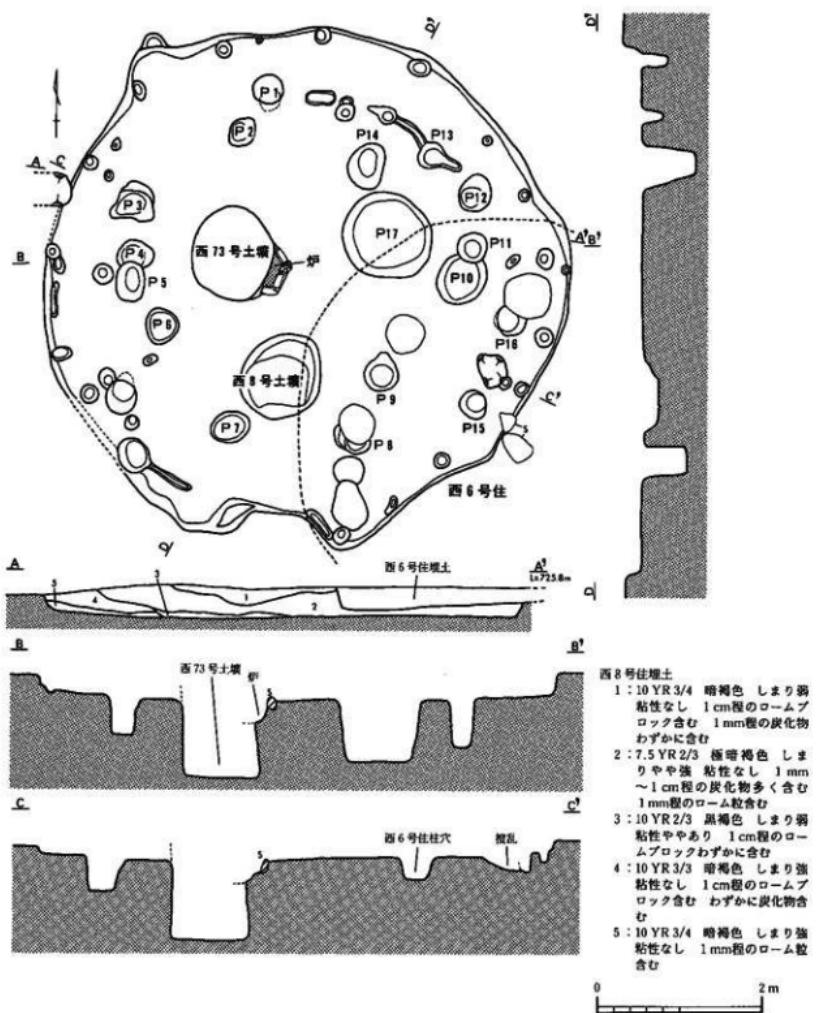
**炉址** おそらく中央部に位置しているものと思われる。炉石の抜き取り痕が見られることや附近から抜き取られたと考えられる炉石が出土していることから、本来は石囲い炉であったと考えられる。

**特殊施設** 検出されなかった。

**出土遺物** 土器片と打製石斧 1 点が出土している。



第19図 西6号住居跡実測図



第20図 西 8 号住居跡実測図

時 期 出土土器および切り合い関係から中期中葉III～IV期に廃棄されたものと考えられる。

#### 16) 西 6 号住居跡

位 置 西 4・7・8 号住居跡をそれぞれ切っている。

形 状 他の住居跡と重なり合い形状を確実には判断できないが、周溝と柱穴の並びなどから

判断してほぼ円形状を呈するものと考えられる。

**覆 土** 上部が削平されていたが、4層に分層された。

**床 面** 平坦で炉を中心にやや硬化した部分が見られる。周溝は北東側から南西側にかけて掘り込まれていた。

**柱 穴** P1～P9までが本住居跡に伴う柱穴と考えられ、P6・P7は出入口に関係するものだろう。他の柱穴は主柱穴に該当するであろう。

**炉 址** 中央部やや奥よりに位置し、長楕円形を呈する石囲い炉である。床面から15cm余りの掘り込みとなっており浅目であるが、全体に赤く変色している。

**特殊施設** 検出されなかった。

**出土遺物** 覆土中より多数の土器と石器、礫などが出土しているがこの住居跡に伴うものとは判断できない。深鉢（第48図42・43、第49図44～46）5点、有孔鍔付土器（第49図47）1点がある。また、多くの土偶（第56図2・3・10・12・13）が出土したが様々な部位が見られ、3・12・13は同一個体だろうか。石器は石鎌（第58図18）1点、打製石斧4点、凹石（第64図94）2点、ヒスイの剝片1点が出土している。

**時 期** 出土土器より、中期後葉II期に廃棄されたものと考えられ、構築時期はそれより若干前と考えられる。

### 17) 西7号住居跡

**位 置** 西側調査区の北壁中央より4mほど南に位置し、西3号住居跡と西6号住居跡にそれぞれ切られ、西5号住居跡を切っている。また西8号住居跡に近接する。

**形 状** 切り合い関係が複雑で住居跡の原形を止めていないが不整形な円形状を呈すると思われる。壁も10cm程度と低く残存状況はよくない。

**覆 土** 薄く確実な状況はつかめなかった。

**床 面** 若干の凹凸が見られるが、ほぼ平坦であったものと考えらえる。

**柱 穴** ピット上へのローム貼り床やピットの切り合い関係から、P6～P13が本住居跡に伴うものと考えられる。しかし複雑な並びであり、主柱穴を特定することはできなかった。

**炉 坂** 西6号住居跡の壁に接する位置にある。小型の円形石囲い炉で、床面から炉底まで20cmほどをはかり深い。

**特殊施設** 検出されなかった。

**出土遺物** 土器片数点と、蛇を象ったと思われる獸面把手付土器（第49図48）が出土している。

**時 期** 住居跡との切り合い関係および出土土器より、中期中葉VI期に廃棄されたものと考えられる。

### 18) 西8号住居跡

**位 置** 西側調査区の住居跡が最も重なり合う場所の中央に位置し、西7・9・10号住居跡と接し、西6号住居跡に切られている。

**形 状** 西6号住居跡に切られているが、西8号住居跡の床面の方が深い位置にあり良好に残存していた。不整形な円形状を呈し、規模は6.5m×6.2mをはかる。やはり削平により壁高は10cmから25cmまでのばらつきが見られ、南側が高くなっている。主軸は南東方向を示す。

**覆 土** 5層に分層され、やや不自然な堆積状況にあるが覆土が浅いため、確実な状況は把握

できなかった。

**床面** 挖り込んだローム面を床面とし、平坦で中央部付近はやや堅く締まるが、壁に向かって軟化する傾向にある。

**柱穴** 多数のピットが検出された。P1～P17までが本住居跡に伴う柱穴と考えられ、P13～P16は住居

拡張に伴う柱穴と考えられる。またP9とP11は拡張前の、P15とP16は拡張後の出入口に関係する柱穴であろう。更に壁際にある小ピットは土留めなどの柱穴であろう。またP17の所在ははっきりしないが、炉址を切っている遺構（西73号土壙）とその南のピットは本住居跡には伴わないものと考えられる。

**炉址** 中央やや奥よりに位置し、西73号土壙によって切られている。石囲い炉で半分ほど現存している。

**特殊施設** 検出されなかった。

**出土遺物** 覆土中から多数の出土があった。主な土器は、深鉢（第49図49・51・53、第50図55・56）5点、浅鉢（第49図50）、台付鉢（第49図52）1点、ミニチュア土器（第49図54）1点などがある。石器は、石鎌（第58図13）1点、石匙（第59図31・32・34）3点、打製石斧（第61図60・62・63・74）9点、小型磨製石斧（第60図51）1点、凹石2点が出土し、特に打製石斧74は大型のものである。またヒスイの剝片6点が出土している。

**時期** 出土土器および切り合い関係から中期中葉IV期に廃棄されたものと考えられ、構築時期はこれに若干先行するものと思われる。

### 19) 西9号住居跡

**位置** 西側調査区北端の中央に位置し、北側半分が調査区域外におよぶ。また西3・8・10号住居跡に接している。

**形状** 現存形状から想像してほぼ円形状を呈するものと思われる。

**覆土** 堆積状況が浅く判断できなかった。

**床面** ほぼ平坦と見て良いと考えられ、北西側の壁際に周溝が検出された。また北壁際に溝があり異なる住居跡の存在が予想されたがその確かな根拠はえられなかった。

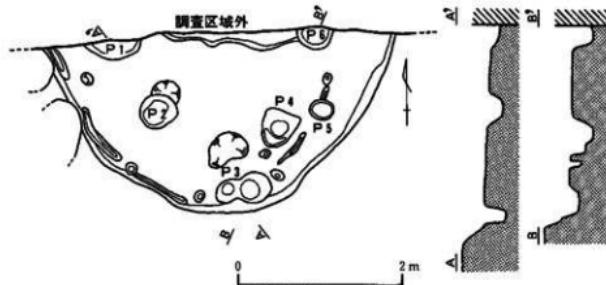
**柱穴** ピットはP1～P6までが検出された。詳細については確実な判断がえられなかった。

**炉址** 現況では検出できなかった。おそらく調査区域外に存在すると思われる。

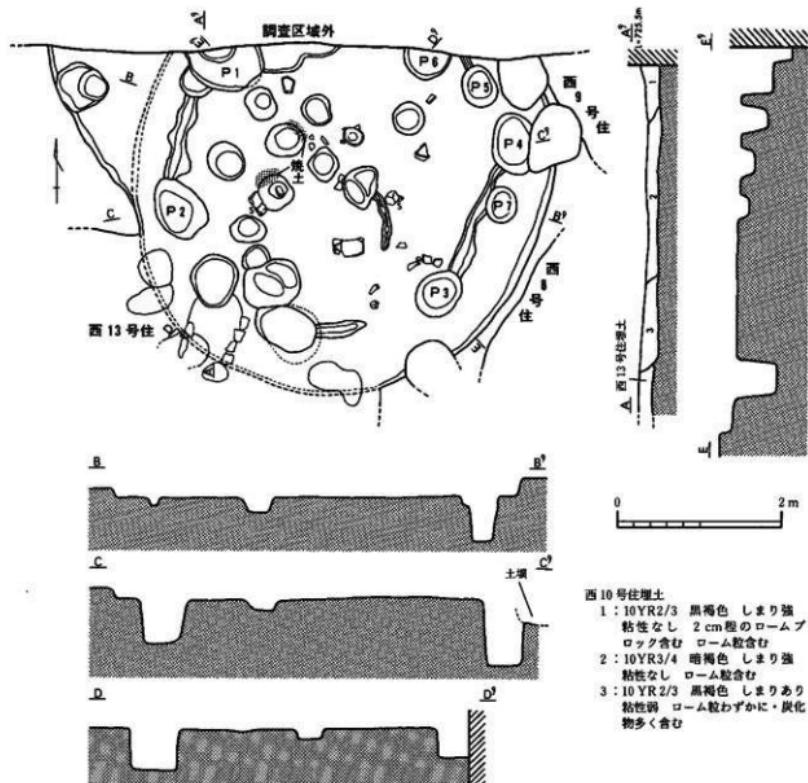
**特殊施設** 特に検出されなかった。

**出土遺物** 覆土中より土器片などが若干出土した。

**時期** 出土土器から中期後葉I期に廃棄されたものと考えられる。



第21図 西9号住居跡実測図



第22図 西10号住跡実測図

## 20) 西10号住跡

**位置** 西9号住跡が東に近接し、西13号住跡を切る。

**形状** 詳細については不明であるが、円形状を呈するものと思われる。

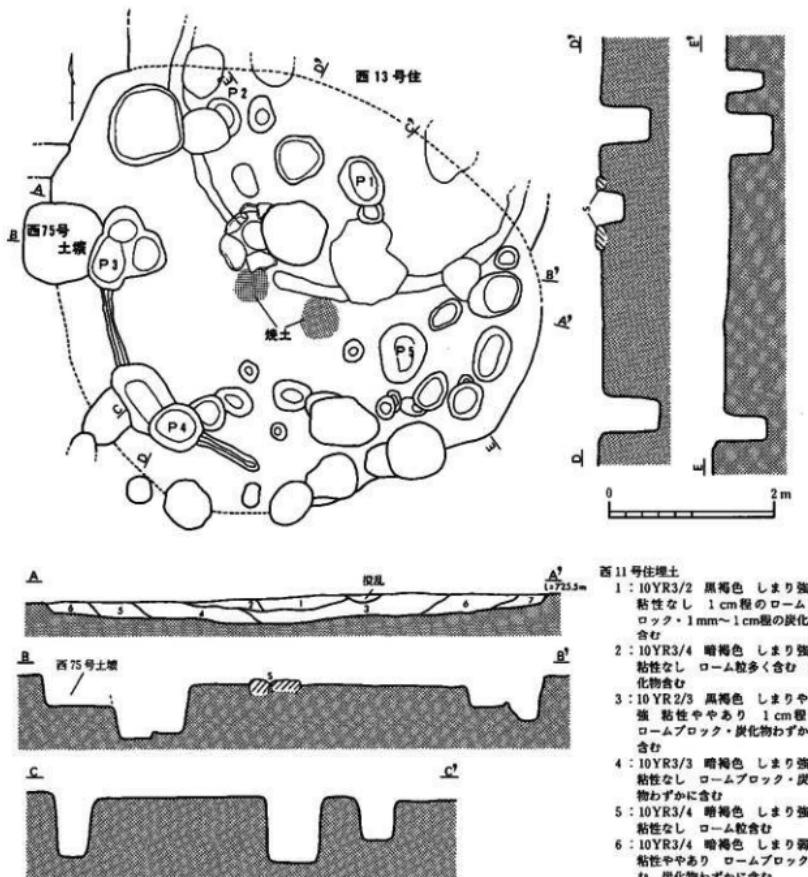
**覆土** 浅いため不明な点が多く確実ではないが、住居壁の立ち上がりが南東側において観察された。

**床面** 平坦面で北側がやや堅く締まる傾向にある。

**柱穴** 多数検出され複雑な様相を呈する。P1～P7が本住跡に伴う柱穴と考えられるが確実とはいえない。ピットの並びから西13号住跡のほかに最大3件の住跡が切り合っている可能性があるが確かな根拠を得るに至らなかった。

**炉址** この住跡に伴うものは判断できなかったが、焼土が2ヵ所に見られ、うち一方には炉石も見受けられた。

**特殊施設** 不明。



第23図 西11号住跡実測図

**出土遺物** 覆土中より若干の土器片と石錐1点、凹石2点が出土している。

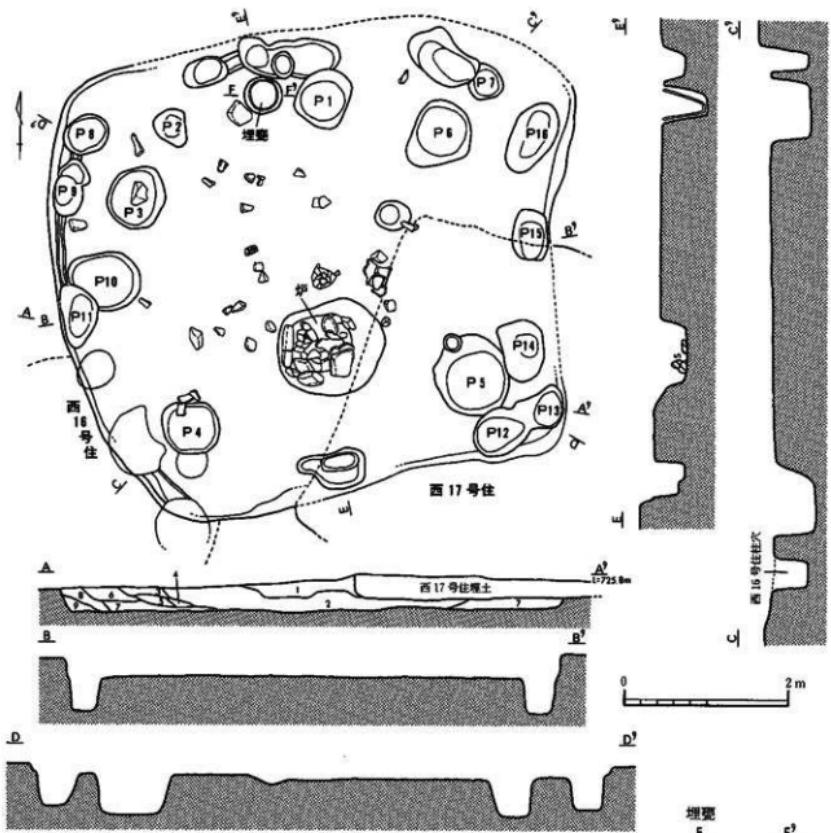
**時期** 出土土器及び切り合ひ関係から、中期後葉I期に廃棄されたと考えられる。

## 21) 西11号住跡

**位置** 西13号住跡を切り、南側には西12号住跡が近接する。

**形状** 炉址が検出されたことから本住跡を確認したが、壁が削平されており不明である。

**覆土** 最大で20cmほどの覆土があったが、実に複雑な堆積状況で、いくつかの住跡が重なり合っていたのかもしれない。



#### 西12号住埋土

- 1 : 10 YR 2/3 塔褐色 しまり強 粘性なし 1 mm程のローム粒・1mm~1cm程の炭化物含む
- 2 : 10 YR 2/3 塔褐色 しまりやや強 粘性ややあり 1 cm程のローム粒多々含む
- 3 : 10 YR 3/3 塔褐色 しまり強 粘性ややあり 1 mm程のローム粒多々含む
- 4 : 10 YR 3/3 塔褐色 しまり強 粘性ややあり 1 cm程のロームブロック・1cm程の粘土塊含む
- 5 : 10 YR 3/3 塔褐色 しまり強 粘性ややあり ロームブロック含む
- 6 : 10 YR 3/3 塔褐色 しまり強 粘性ややあり 1 mm程のロームブロック・5mm程の炭化物含む
- 7 : 10 YR 3/3 塔褐色 しまりあり 粘性ややあり 1 mm程のロームブロック・5mm程の炭化物わずかに含む
- 8 : 10 YR 3/3 塔褐色 しまりあり 粘性ややあり 1 mm程のロームブロック・5mm程の炭化物わずかに含む
- 9 : 10 YR 2/3 黒褐色 しまり弱 粘性ややあり 5mm程のロームブロック・1cm程の炭化物含む

#### 西12号住埋窓土

- 1 : 10 YR 3/3 塔褐色 しまりなし 粘性ややあり ローム粒含む
- 2 : 10 YR 3/3 塔褐色 しまりなし 粘性ややあり ローム粒含む (1層に比べ色調が明るい)
- 3 : 10 YR 4/4 塔色 しまりなし 粘性ややあり ロームを多く含む
- 4 : 10 YR 3/3 塔色 しまりなし 粘性ややあり しまりの弱いローム主体の堆積層

第24図 西12号住居跡実測図

**床面** 若干の凹凸も見られるがほぼ平坦で、全体に堅く締まっていた。

**柱穴** 炉を中心にも多数のピットが検出されたが、どれが本住居跡に伴うものかは判断がつかない。

ない。また多数の土壤とも切り合っている。

**炉 址** 土壤に切られてはいるものの、円形の石囲い炉を確認した。床面から炉底まで30cm近くをはかり比較的深い。また付近から熱によって変色した焼土痕が検出された。

**特殊施設** 検出されなかった。

**出土遺物** 土器片と石鐵2点、打製石斧（第61図68）2点、石匙1点、凹石3点が出土した。

**時 期** 中期中葉VI期と考えられる。

## 22) 西12号住居跡

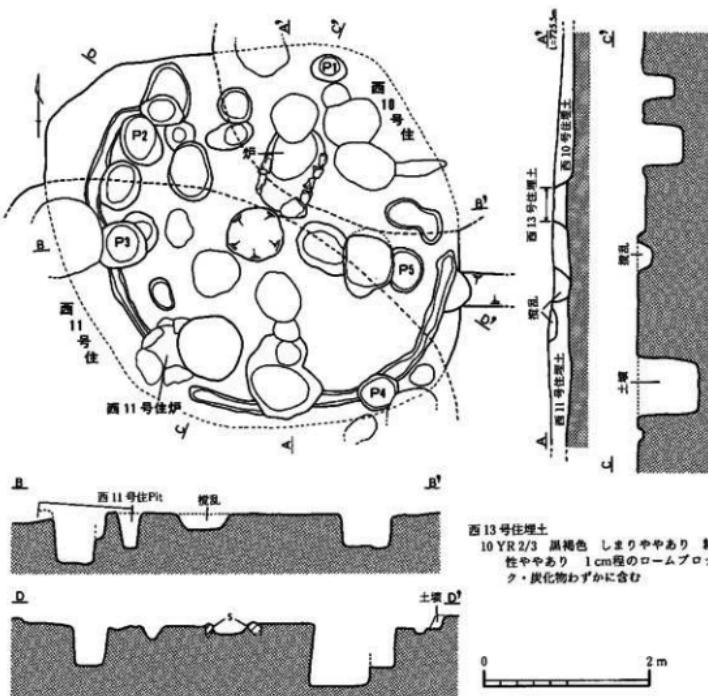
**位 置** 西側調査区のほぼ中央に位置し、西17号住居跡に切られ、西16号住居跡を切り、北側で西11号住居跡と接続する。

**形 状** 圓丸方形を呈し、規模は6.2m×5.6mをはかる。壁は0cmから30cm程度残存する。

**覆 土** 9層に分層され、壁際で複雑な堆積状況を示していた。また東側は西17号住居跡に切られているため不明である。

**床 面** 平坦で炉を中心にしてその付近がやや硬化している。

**柱 穴** P1～P16まで多数のピットが検出された。P1とP2は出入口に関係する柱穴であり、



第25図 西13号住居跡実測図

P3～P6が主柱穴と考えられる。主柱穴は比較的大きな掘り方をもつ割に深さが50cm程度と浅くなっている。他のピットについては立て替えなどによる2次的な柱穴と思われる。

**炉址** 中央奥よりに位置する大型の石窯である。炉石のほとんどは炉の中に埋没しており、何らかの破壊行為があったものと思われる。炉底まで30cm程あり炉面は変色し焼土化している。また炉中より打製石斧（第61図65）1点が出土している。

**特殊施設** 北側壁に埋甕（第50図57）1基が検出された。口縁部と胴部下方の一部が欠損しているのみで正位に埋設されていた。掘り方は埋設土器よりやや大きめに掘り、褐色土を一括して埋め戻している。また埋設土器内の埋土は締まりもなく自然流入土と観察される。

**出土遺物** 多数の土器片と石器類が覆土中より検出されたが、本住居跡に伴うかは疑わしい。図示した土器は深鉢（第50図58）1点と埋甕（第50図57）1点である。石器は他の住居跡に比べ打製石斧が17点と多く、凹石（第63図91）7点も比較的多い。また砥石が2点出土した。

**時期** 埋甕より、中期後葉IV期に営まれたと考えられる。

### 23) 西13号住居跡

**位置** 西10・11号住居跡に切られる。

**形状** 壁を確認できたのが僅かで、高さも20cmと低い。周溝などから判断して不整形な円形状になると思われる。

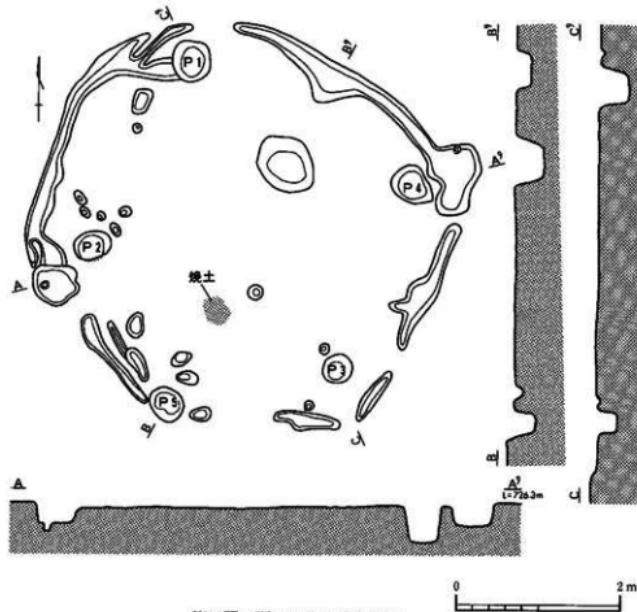
**覆土** 黒褐色土の単一層のみしか残存せず、堆積状況を把握できなかった。

**床面** 硬化面は見られないものの平坦であった。

#### 柱穴

住居跡の切り合いがあり、住居跡域内には多くのピットが検出されたが、本住居跡に伴う柱穴はP1～P5と思われる。

**炉址** 中央付近に位置する。ピットとの切り合いがあり炉石の欠落する部分もあるが残存状況か



第26図 西14号住居跡実測図

ら判断すると長楕円形を呈する石囲い炉である。炉底面は部分的に焼土化している。

特殊施設 検出されなかった。

出土遺物 覆土中より、土器小片が数点出土した。

時期 遺物が少ないため判断に苦しむが、中期中葉VI期～後葉I期頃であろう。

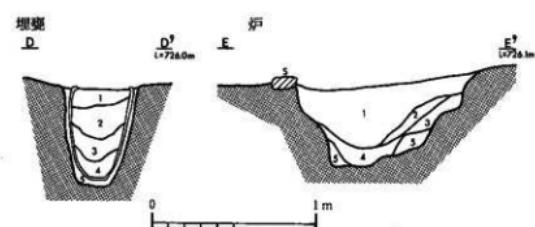
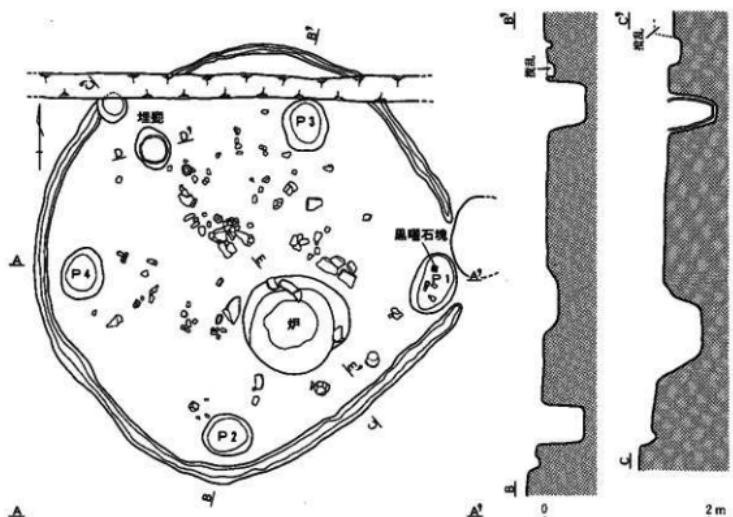
#### 24) 西14号住居跡

位置 西側調査区南東端に位置し、他の住居跡から離れている。

形状 壁はすべて削平されているが、周溝の形状から判断して円形であろう。

覆土 覆土が薄く判断できない。

床面 植物根による攪乱のため凹凸があるが、もとは平坦であったと考えられる。



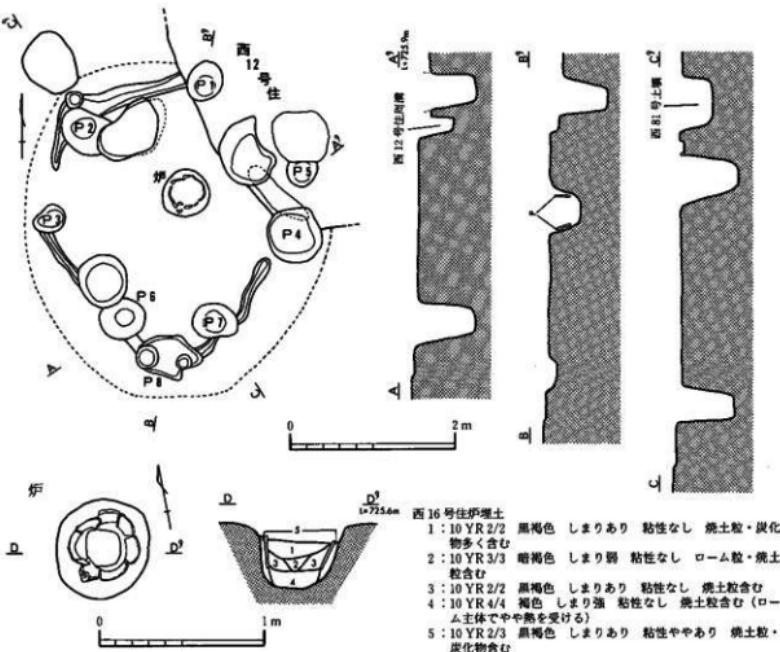
第27図 西15号住居跡実測図

- 西 15号住居埋土  
1 : 10 YR 2/3 黒褐色 しまり弱 粘性やあり ローム粒・焼土粒・炭化物多く含む  
2 : 10 YR 3/3 黒褐色 しまり強 粘性やあり ローム粒・焼土粒・炭化物多く含む(1層より量が多い)  
3 : 10 YR 5/6 にびい黄褐色 ロームが熱をうけた層  
4 : 5 YR 4/8 赤褐色 しまり強 粘性なし ローム焼土  
5 : 10 YR 4/6 海色 ロームブロックの集合体層
- 西 15号住居壁埋土  
1 : 10 YR 2/2 黒褐色 しまりなし 粘性ややあり ローム粒含む  
2 : 10 YR 3/3 黑褐色 しまりなし 粘性あり ローム粒多く含む  
3 : 10 YR 3/4 黑褐色 しまりややあり 粘性あり わずかにローム粒を含む  
4 : 10 YR 3/4 黑褐色 しまり・粘性あり わずかにローム粒を含む  
5 : 10 YR 3/4 黑褐色 提煉炭時に細削した土を埋め戻した層

- 柱穴** 主柱穴はP1～P5と考えられ、その他については性格不明である。
- 炉址** 中央奥よりに炉と考えられるピットが存在するが、炉石や焼土が検出されず位置的な判断による所が多い。また反対側の床面上に焼土が検出されている。
- 特殊施設** 検出されなかった。
- 出土遺物** なし。
- 時期** 遺物の出土が皆無のため不明である。

### 25) 西15号住居跡

- 位置** 西側調査区の中央よりやや南側に位置する。
- 形状** 壁高は10cm程度で、北東側は失われている。形状は隅丸方形状に近く北西側がやや張り出す。炉と入口を結ぶ主軸は北西方向を指し、規模は5m×5.1mをはかる。
- 覆土** 堆積が薄く判断できなかった。
- 床面** 平坦に整えられ中心部付近がよく縮まり、炉から南東側はたたき状の硬く縮まった床で、この付近は周囲に比べやや盛り上がっている。周溝は東で一部切れている以外は全局する。
- 柱穴** 主柱穴はP1～P4までの4本柱と考えられ、柱穴の掘り方はやや横円形を呈する。
- 炉址** 中央奥によりに位置する。不整形な掘り方であるが炉石の一部抜き取り痕が確認されており、本来は大型方形石窯い炉であったと考えられる。また炉石の一部は付近に散乱している。炉



第28図 西16号住居跡実測図

底は直径60cm程度の円形状を呈し、深さも60cm程度と深いが、焼土痕は一部にしか観察されなかつた。

**特殊施設** 出入口部の壁よりやや離れた位置から埋甕1基が検出された。埋設された土器（第51図62）は完形で、器高58cmをかる大型のものであった。埋甕内には暗褐色土が縦まりなく堆積しており、自然流入したと判断できる。また埋甕内より土器底部の半欠損品が出土した。このほかに特殊施設か判らないが、炉から南東側の壁にかけて盛り上がりが見られ、ここから胴部より下部が欠損した土器（第50図60・61）2点が並んで床面上に伏せた状況で出土している。

**出土遺物** 埋甕（第51図62）と床面設置土器（第50図60・61）2点のほかに、覆土中より土器片多数、石鎌1点、スクレイバー類（第58図27、第60図43・44）4点、石匙（第59図37）1点、打製石斧（第61図66）3点、凹石（第63図92）3点、磨石・敲打石それぞれ1点が出土している。

**時期** 埋甕と床面設置土器から中期後葉III期に営まれたと考えられる。

## 26) 西16号住居跡

**位置** 西側調査区のほぼ中央に位置し、西12号住居跡に切られている。

**形状** 壁がごく一部残るのみで、現存規模は3.8m×3.9mと小型で、不整形な円形状を呈する。主軸は南を指し、僅かに西へふれる。

**覆土** 堆積が薄く把握できない。

**床面** 平坦であるが、硬化面は特に見られない。柱穴を結ぶようにして周溝が見られる。

**柱穴** 主柱穴と推定されるのはP1～P5で、P6・P7は出入口部に関係する柱穴と思われる。この他に3つのピットが検出された。

**炉址** 中央やや奥よりに位置する円形の埋甕炉である。埋設土器（第51図63・64）は2個体からなり、胸部中ほどから口縁部にかけてのものである。それぞれ土器は縦に割られて埋設されていた。炉の掘り方のプランはやや大きめであるが、底はテラス状であり、埋設土器は炉面にほぼ接している。特に焼土は観察されなかつた。

**特殊施設** 出入口部にあるP8は、特別な意味を持つものとして考えたい。

**出土遺物** 炉の埋設土器のみであった。

**時期** 埋設土器より中期中葉III期に営まれたものと考えられる。

## 27) 西18号住居跡

**位置** 西16号住居跡と西19号住居跡の間に位置し、それぞれに接している。

**形状** 明確な壁は検出できず、埋甕が検出されたことから住居跡の存在を確認できたにとどまる。

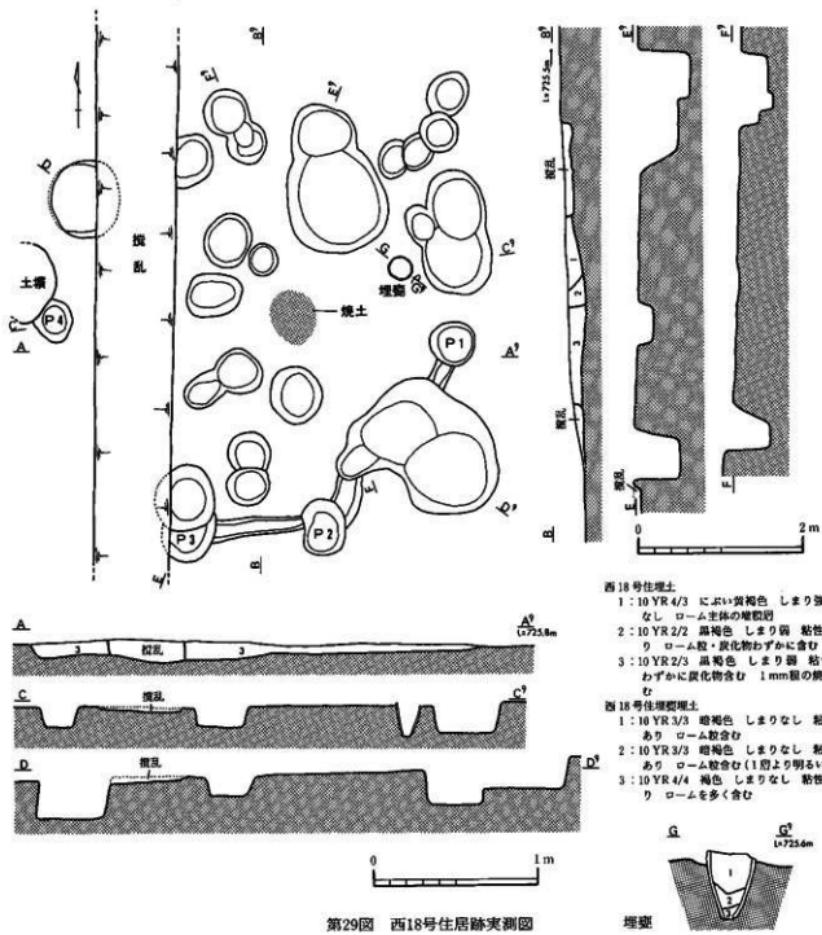
**覆土** 僅かに見られたのみで、詳細に把握することができなかつた。

**床面** 平坦であるが、西側でやや低くなる。

**柱穴** 埋甕の位置と周溝やピットの並びから判断できる柱穴はP1～P4であり、本来6本柱であったが、2本は土壤に切られ消失してしまったのではなかろうか。また他のピットを柱穴と考えられれば、本住居跡以外に最低2軒の住居が重なり合う可能性もある。

**炉址** 床面に円形状の焼土が検出されているが、本住居跡に伴うものか判断できない。

**特殊施設** 埋甕1基が検出された。埋設された土器（第52図65）は口唇部と底部を欠き、正位に埋められていた。掘り方はほぼ埋設土器と一致し、土器内には褐色土が堆積していたが、自然流入土と思われる。



- 西18号住居土  
 1 : 10 YR 4/3 に由る黄褐色 しまり強 粘性なし ローム土含む  
 2 : 10 YR 2/2 黄褐色 しまり弱 粘性ややあり ローム粒・炭化物わずかに含む  
 3 : 10 YR 2/3 黄褐色 しまり弱 粘性なし わずかに炭化物含む 1 mm程の焼土粒含む
- 西18号住居埋理土  
 1 : 10 YR 3/3 咸褐色 しまりなし 粘性ややあり ローム粒含む  
 2 : 10 YR 3/3 咸褐色 しまりなし 粘性ややあり ローム粒含む (1層より明るい色調)  
 3 : 10 YR 4/4 黄色 しまりなし 粘性ややあり ロームを多く含む

**出土遺物** 埋甕 (第52図65) と把手土器 (第52図66) が出土した他、石器は石錐 (第58図24) 1点、搔器 (第58図28) 1点、凹石 2点、打製石斧10点が出土している。

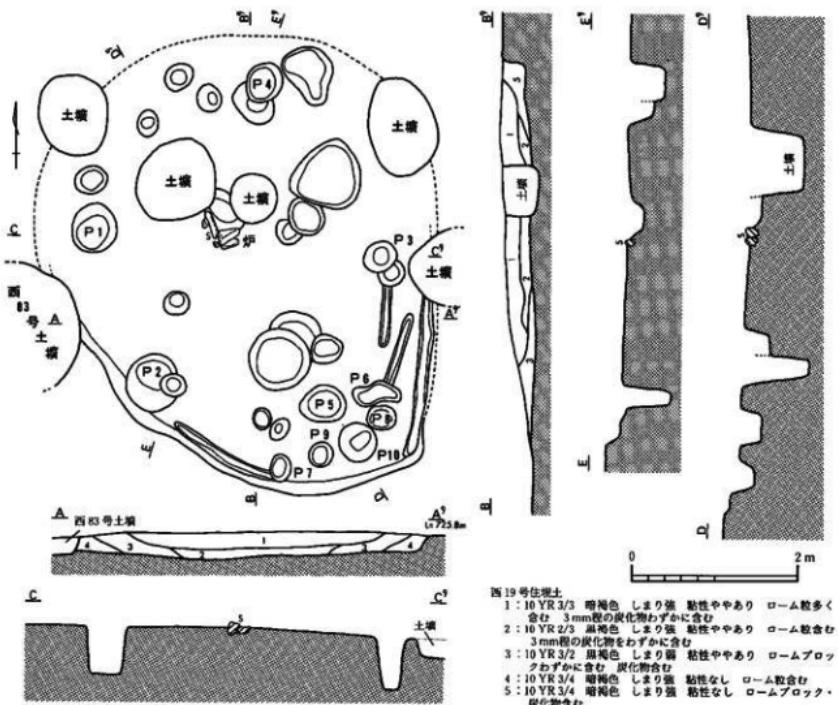
**時期** 埋甕から中期後葉III期に営まれた住居である。

## 28) 西19号住居跡

**位置** 西18号住居跡と西25号住居跡の中間に位置する。

**形状** 南側で20cm程度の壁が存在するのみであるが、出入口部の張り出した不整形な円形状を呈すると思われる。

**覆土** 5層に分層され、やや不自然な堆積を示す。第1層は他の遺構の堆積とも考えられた



第30図 西19号住居跡実測図

が、明確な根拠は得られなかった。

**床面** 硬化面は見られないが平坦である。南部で部分的に周溝が検出された。

**柱穴** 多数のピットが検出され、主柱穴と思われるものはP1～P4である。またP6～P8は出入口部に関わるピットと思われる。他のピットは不明であるが、大型のものは本住居跡に伴わないであろう。

**炉址** 中央部付近にある2つの土壙に切られて位置する。一部に炉石が残っており本来は石囲い炉であったろう。

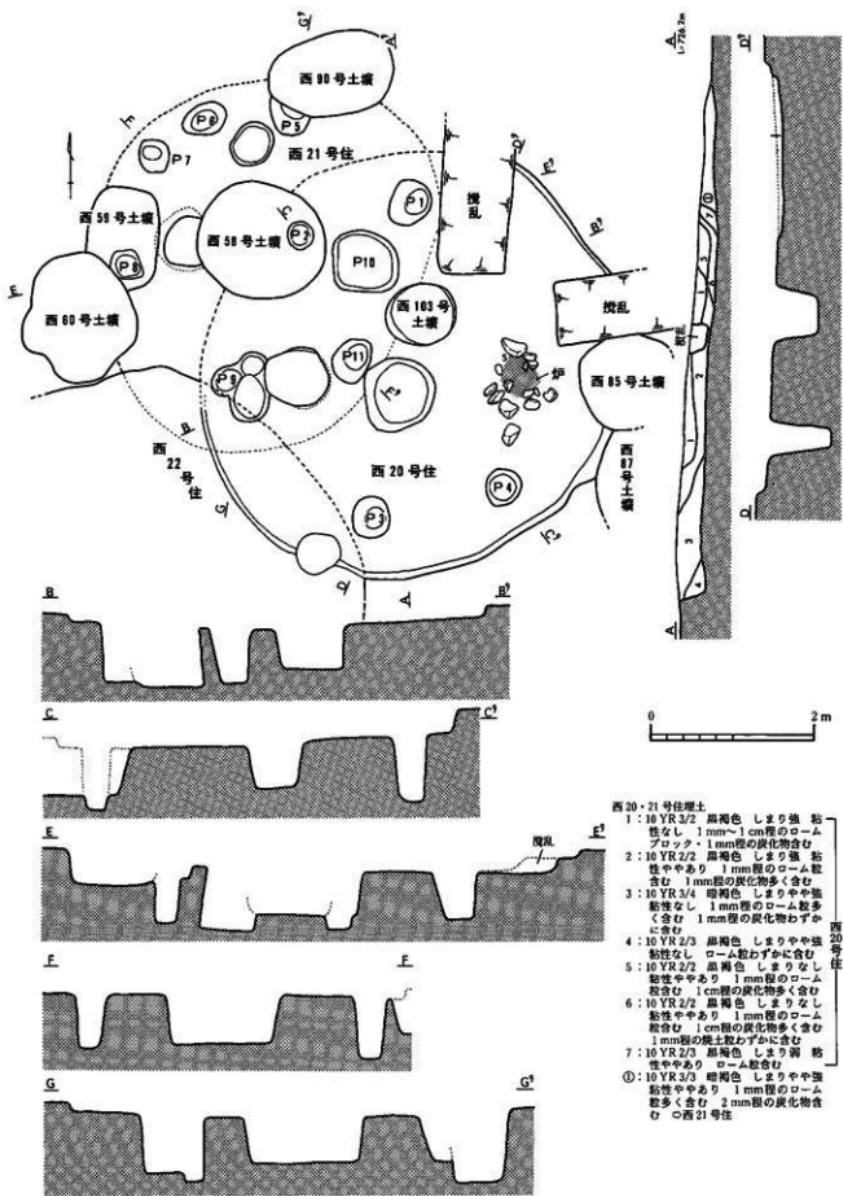
**特殊施設** 検出されなかった。

**出土遺物** 覆土中より若干の土器片と打製石斧（第61図69）3点、磨製石斧（第62図82）2点、凹石1点、石錐（第64図96）1点が出土している。また炉を切る西側の土壙より石錐1点、打製石斧（第61図64）1点、石錐（第64図95）1点が出土した。

**時期** 出土土器より中期中葉V期に廃棄されたと考えられる。

## 29) 西20号住居跡

**位置** 西側調査区中央部付近から南西側に位置し、西21号住居跡と、西22号住居跡に切られ



第31図 西20・21号住居跡実測図

ている。

**形 状** 撮乱により壁が損失しているが、残存形態から円形状を呈すると思われる。規模は $5.3m \times 5.2m$ をはかる。炉と柱穴の並びから西側に出入り口があったと考えられよう。

**覆 土** 黒褐色土を中心に8層に分層でき、複雑な堆積状況を示している。

**床 面** 全体的に締まりがあるものの硬化面ではなく、平坦であった。

**柱 穴** 本住居跡に伴うと考えられる柱穴はP1～P4であるが、配列による判断のためP1については確実でない。

**炉 址** 奥よりに焼土が見られ、疊が散乱していることから石囲い炉だろう。

**特殊施設** 検出しなかった。

**出土遺物** 若干の土器片と平出III類A群の土器（第52図68）、石匙（第59図35・36）2点、打製石斧7点、磨製石斧（第62図79）1点などがそれぞれ覆土中から出土している。

**時 期** 切り合い関係から中期中葉IV期には廃棄されたと考えられる。

### 30) 西21号住居跡

**位 置** 西20号住居跡の北西側に位置し、西20号住居跡を切り、西22号住居跡に切られる。

**形 状** 削平により壁が検出されず不明であるが、ほぼ円形状を呈するものと考えられた。

**覆 土** 堆積が薄く把握できなかった。

**床 面** 多くの部分に他の遺構が存在しているが、残存する部位は平坦であった。

**柱 穴** 本住居跡の北側には多くのピットが検出されており、不確実な部分もあるが、配列から判断できる柱穴はP5～P10までのピットである。

**炉 坂** 検出されなかった。おそらく中央部にある遺構によって破壊されたものと思われる。

**特殊施設** 検出していない。

**出土遺物** 深鉢2点（第52図70・71）と三耳広口壺（第52図67）、石匙（第59図38・40）2点、打製石斧2点、凹石2点がそれぞれ覆土中より出土した。

**時 期** 切り合い関係から中期後葉I期に廃棄されたものと思われる。

### 31) 西22号住居跡

**位 置** 西20号住居跡と西21号住居跡の南西側に位置し、西20号住居跡と西21号住居跡を切っている。

**形 状** おおむね隅丸方形を呈するものの、北側出入口がやや張り出す。規模は $5.5m \times 5.2m$ をはかり、やや大型である。壁は0～10cm程度と残存状況が良くない。

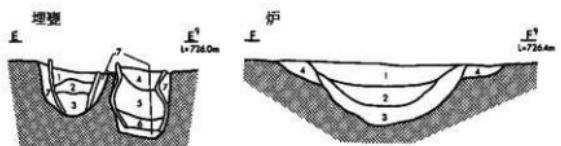
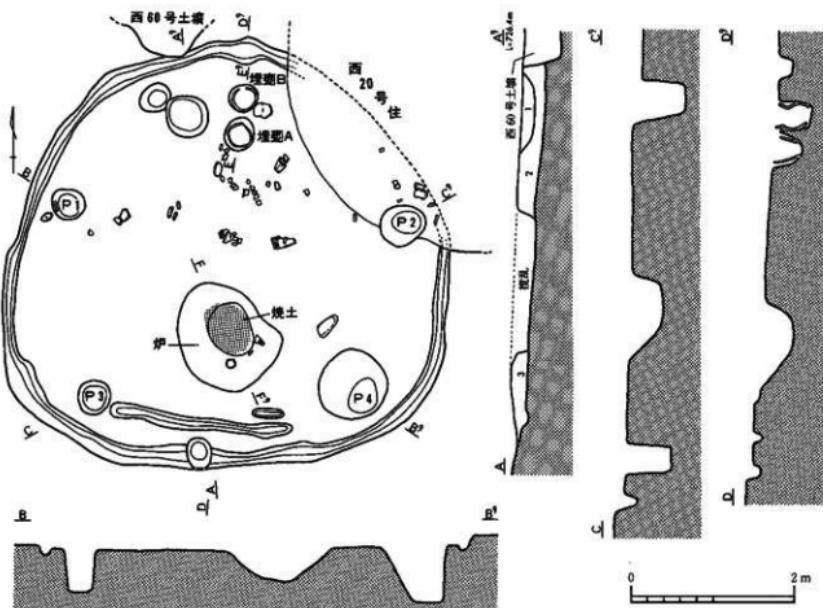
**覆 土** 土壌や撮乱があり堆積状況は把握できない。

**床 面** 平坦に整えられ、中心部付近は締まりが強く、炉址から南壁までの床はたたき状をなし硬化していた。壁に沿って周溝が巡り、南側の一部は2重もしくは3重になっている。西20号住居跡と切り合う部分は暗褐色土による貼り床が見られたが溝の検出はできなかった。

**柱 穴** 主柱穴はP1～P4までの4本と考えられる。出入口付近の2つのピットは本住居跡に伴わない遺構の可能性がある。

**炉 坂** 中央よりに位置する。不整形なテラス状の掘り方と炉石の抜き取り痕が見られ、本来は大型の石囲い炉であったと考えられる。

**特殊施設** 2基の埋甕が検出された。埋甕A（第52図69）は、無文の土器の胴部のみを正位



西22号住居埋壙上  
 1 : 10 YR 4/4 黒色 しまりややあり 黏性あり  
 ローム主体混じる  
 2 : 10 YR 4/4 黒色 しまりややあり 黏性あり  
 ローム主体混じる (1より色濃い)  
 3 : 10 YR 3/2 黒褐色 しまりややあり 黏性なし  
 4 : 10 YR 2/3 黑褐色 しまりなし 黏性ややあり  
 5 : 10 YR 2/3 黑褐色 しまりなし 黏性ややあり  
 ロームをわずかに含む  
 6 : 10 YR 3/3 墓内色 しまりややあり 黏性なし  
 7 : 10 YR 4/4 しまり強 黏性あり ローム、黒褐色土の複合層

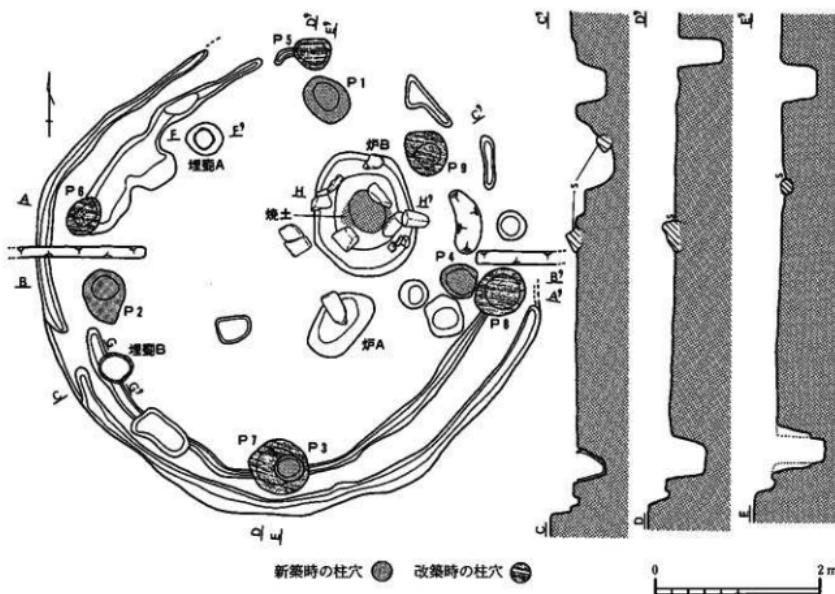
西22号住居埋壙上  
 1 : しまりあり 硬化物多く含む  
 ロームをわずかに含む 1 mm程の炭化物含む  
 2 : 10 YR 2/3 黑褐色 しまり強 黏性なし  
 ロームをわずかに含む 1 mm程の炭化物や多く含む  
 3 : 10 YR 3/3 黑褐色 しまり非常に強 黏性なし ロームを多く含む 2 mm程の  
 ワームブロック含む 1 mm程の炭化物わずかに含む

第32図 西22号住居跡実測図

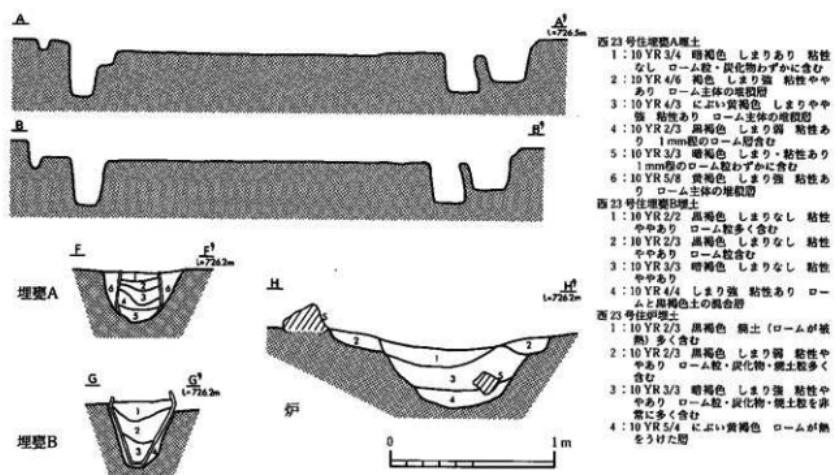
に埋設しており、土器内には褐色土が自然堆積していた。埋壙B（第53図73）は、胸部下半以下を欠き、やはり正位に埋設されていた。土器内部は黒褐色土を中心とした自然堆積状況を示していた。また掘り方の部分にはローム混じり土を一括して埋め戻している。

**出土遺物** 埋壙2点の土器と深鉢（第52図72、第53図74）2点、小型鉢（第53図75・76）2点が出土し、石器は石鏃1点、打製石斧（第61図70・71）7点、凹石5点、小型磨製石斧（第60図52）1点、砥石2点が出土している。なお72の深鉢は混入品だろう。

**時期** 埋壙から中期後葉III期に営まれた住居である。



新築時の柱穴 ( ) 改築時の柱穴 ( )



第33図 西23号住居跡実測図

### 32) 西23号住居跡

位置 西側調査区中央部付近の調査区南端に位置し、西22号住居跡の南にある。

形狀 壁が20cm程度から削平された部分まであり、不明確ではあるが、周溝から判断してお

おむね隅丸方形状を呈すると考えられる。主軸は北西方向と南西方向を指し、出入口を大きく変える改築があったものと思われ、埋甕Bが内側の周溝を切って設置されているため、埋甕Aから埋甕Bへの前後関係が見てとれ、北西方向から南西方向へ出入口が移動する改築があったものと思われる。

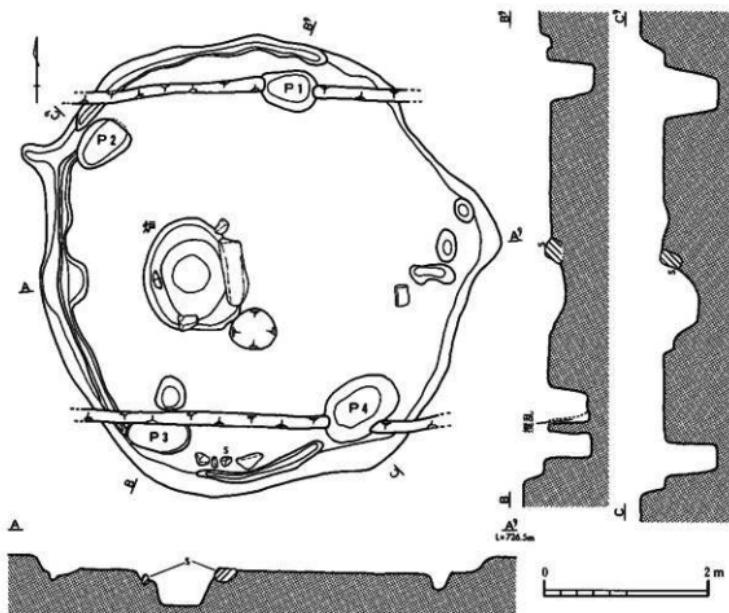
**覆 土** 堆積が薄く把握できなかった。

**床 面** 平坦に整えられ、特に硬化面は観察されなかったが、壁から中心部に向かって硬く縮まる傾向にあった。周溝は2重に検出され、内側の周溝埋土はやや締まりをもっていた。

**柱 穴** 13個のピットが検出された。配置からはP1～P4までが構築時の主柱穴と考えられ、拡張による出入口移動によって、P5～P9が主柱穴になったと考えられる。他のピットについては性格不明である。

**炉 址** 2基検出された。炉址Aは埋甕Aと結ぶ北西方向を出入口とする時のものと考えられ、この時点では中央奥よりに位置する。10cm程度の皿状に掘り込まれ、焼土は観察されなかった。覆土はよく締まっていた。炉址Bは埋甕Bと結ぶ南西方向を出入口とする時のものと考えられ、やはり中央奥よりに位置する。炉石の抜き取り痕、炉中や付近に炉石が散乱していることから、本来は大型の方形石囲い炉だったと考えられる。炉底までは45cmをはかり、炉面のやや広いすり鉢状を呈する。炉面を中心に赤く焼土化している。

**特殊施設** 埋甕2基が検出された。埋甕A(第54図82)は大形深鉢の脇部以下を欠き、割れ口を平坦に整えて逆位に埋設されていた。埋設土器内は埋土が充填し、上層ではローム主体の土で



第34図 西24号住居跡実測図

縊まりがあり、埋め戻されたものと考えられる。埋甕 B (第53図77) は完形の大形深鉢を正位に埋設している。掘り方はほぼ土器形態と一致し、土器と掘り方の間にはローム土を充填している。埋設土器内は黒褐色土を中心に自然流入による堆積が見られた。

**出土遺物** 埋甕 (第54図82、第53図77) 2点をはじめ、覆土中から土器片と深鉢 (第54図81) 1点、土偶の脚部 (第57図14) 1点、石鐵 2点、打製石斧 7点、凹石・敲打石・ヒスイ剝片が各 1 点出土している。

**時期** 埋甕から中期後葉II期に営まれた住居である。

### 33) 西24号住居跡

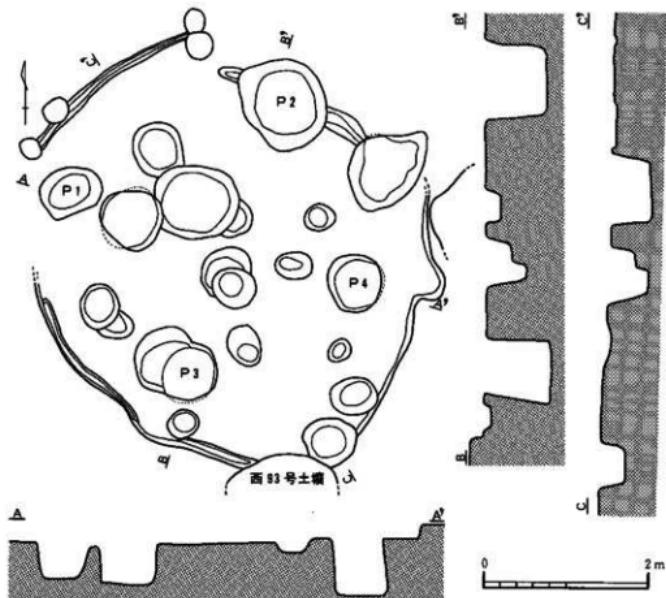
**位置** 西側調査区中央部の南端近くに位置し、西22号住居跡の南にある。

**形状** ほぼ偶丸方形状を呈し、やや長方形状に近く、出入口部が舌状に張り出す。規模は  $5.5m \times 5.7m$  をはかる。出入口と炉址を結ぶ主軸は東を指し、やや北に傾くものと思われる。壁高は 30cm から 10cm ほどあり南側で高くなる。

**覆土** 暗褐色土を中心とする自然堆積状況を呈していた。

**床面** 平坦に整えられ、硬く締まっていた。周溝は出入口付近で見られないほかは、壁際に検出された。

**柱穴** 主柱穴と考えられるピットは P1～P4 の 4箇所である。比較的大きな掘り方を見せ



第35図 西25号住居跡実測図

る柱穴である。他のピットについては不明であるが、出入口部の小ピットは埋蔵的性格をもつたであろうか。

**炉 址** 中央奥よりに位置する。炉石の一部が残り、炉石の抜き取り痕も検出されたことから、大形の方形石囲いの炉と考えられる。また、炉石の一部は南壁際に置かれていた。炉底までは50cmをはかり、炉の底面は広いもののすり鉢状である。著しい変色は観察されなかった。

**特殊施設** 出入口部に小ピットが検出された。

**出土遺物** 覆土中より、土器片と深鉢（第53図78・79・80）3点が出土し、石器は石匙（第59図39）1点、打製石斧1点、凹石4点が出土している。

**時 期** 出土土器より中期後葉II期に廃棄されたものと考えられる。

#### 34) 西25号住居跡

**位 置** 西19号住居跡の西側に位置する。

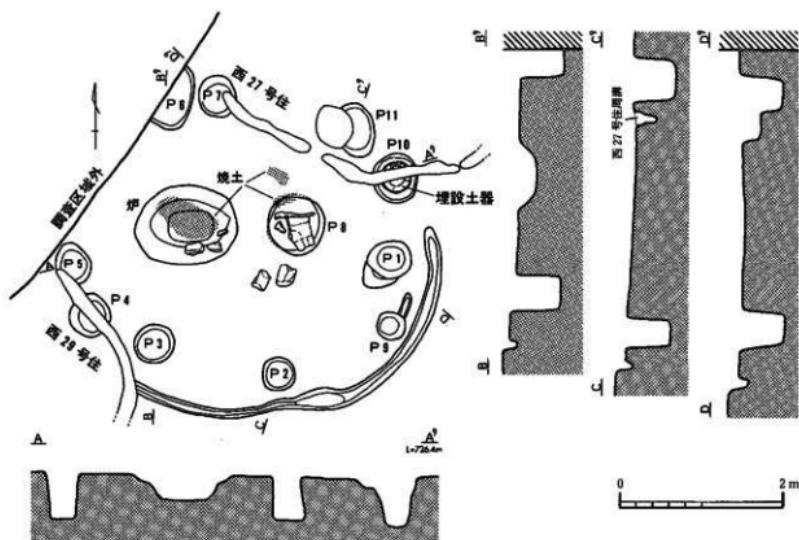
**形 状** 壁がほとんど失われているため把握できないが、周溝の形状から不整形な円形を呈するものと思われる。

**覆 土** 堆積が薄く把握できなかった。

**床 面** 多くの土壤とピットによって切られていたため、正確にはつかめないが平坦と見て良いだろう。また硬化面は認められなかった。部分的にはあるが周溝が見られる。

**柱 穴** 多数のピットあるいは切り合う遺構があるため確定することは難しい。周溝の内側や外側に焼土があり、いくつかの住居跡が重なっている可能性がある。

**炉 坂** 不明。



第36図 西25号住居跡実測図

特殊施設 検出されなかった。

出土遺物 覆土中より土器片と打製石斧1点が出土している。

時期 土器から中期中葉IV～V期だろう。

### 35) 西26号住居跡

位置 西側調査区の西端に位置し、一部調査区域外におよぶ。北側で西27号住居跡に切られ、南西側で西28号住居跡に切られている。

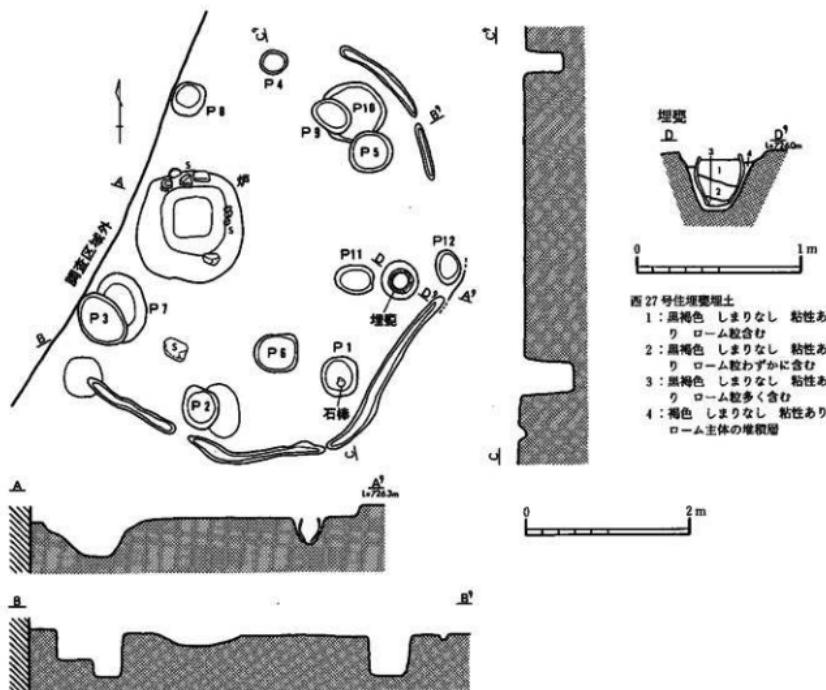
形状 住居跡上部をほとんど削平されているため確実ではないが、周溝と柱穴の並びから円形状を呈するだろう。

覆土 堆積が薄く、把握不可能であった。

床面 平坦であり、炉址付近は他の場所に比べ硬化していた。溝は南側で見られ、西側でとぎれている。

柱穴 主柱穴と考えられるピットは、P1～P3・P5・P7・P11の6カ所で、一部は調査区域外に存在するであろう。P6はローム土による埋め戻しが見られ、P8・P10からは土器が出土している。他のものについては不明である。

炉址 柱穴の配置から考えると中央奥よりに位置している。掘り方は梢円形状を呈し、炉石



第37図 西27号住居跡実測図

の抜き取り痕が見られることから、大形の石囲い炉であったと思われる。炉底は平坦で赤く焼土化している。またP8北側にも焼土が観察された。

**特殊施設** P10から埋設土器（第54図83）が出土している。胴部下半から底部までを欠き、現存部位は完存である。これが正位に埋められていた。埋甕の一種と思われるが、床面から口縁部までの深さが約25cmあり、この点が他の埋甕とは大きく異なる。

**出土遺物** 埋設土器（第54図83）と覆土中から若干の土器片、磨製石斧（第62図85）1点、打製石斧1点が出土している。またP8の覆土中から深鉢（第54図84）1点が出土している。

**時期** 出土土器より中期後葉I～II期に廃棄されたものと思われる。

### 36) 西27号住居跡

**位置** 西側調査区西端に位置し、一部調査区域外に及ぶ。南側で西26号住居跡を切る。

**形状** 壁が僅かにしか残っておらず確実性に乏しいが、一部の壁と溝から隅丸方形状を呈するものと予想される。また出入口部が若干張り出している。主軸方向は南東を指し、やや北にずれている。

**覆土** 堆積が薄く把握できない。

**床面** 平坦面で一部のピット上面はローム土による貼り床が見られた。

**柱穴** 多数のピットが検出され、P6～P9の上面はローム土による埋め戻しがみられ、改築前の主柱穴と考えられる。P1～P5のピットが改築後の主柱穴と考えられる。一部の柱穴は調査区域外に存在するものと思われる。P11・P12はかなり浅いものであり、P10を含め性格は不明である。

**炉址** 中央奥よりに位置し、不整形な掘り方を呈するが、炉石の抜き取り痕が検出され、大形の方形石囲い炉であったものと考えられる。炉底まで約40cmと深く、炉底は方形状をなす平坦面で、赤く焼土化していた。

**特殊施設** 埋甕1基を検出した。埋設された土器（第54図85）は底部を欠き、正位に埋められていた。土器内は黒褐色土の自然堆積状況であると判断された。

**出土遺物** 埋甕（第54図85）の他に若干の土器片と石鏃1点、打製石斧2点、凹石1点、磨石2点が出土している。またP1の覆土中から石棒の頭部（第64図97）が出土している。

**時期** 埋甕から中期後葉II期に営まれたものであろう。

### 37) 西28号住居跡

**位置** 西29号住居跡の南に近接する。

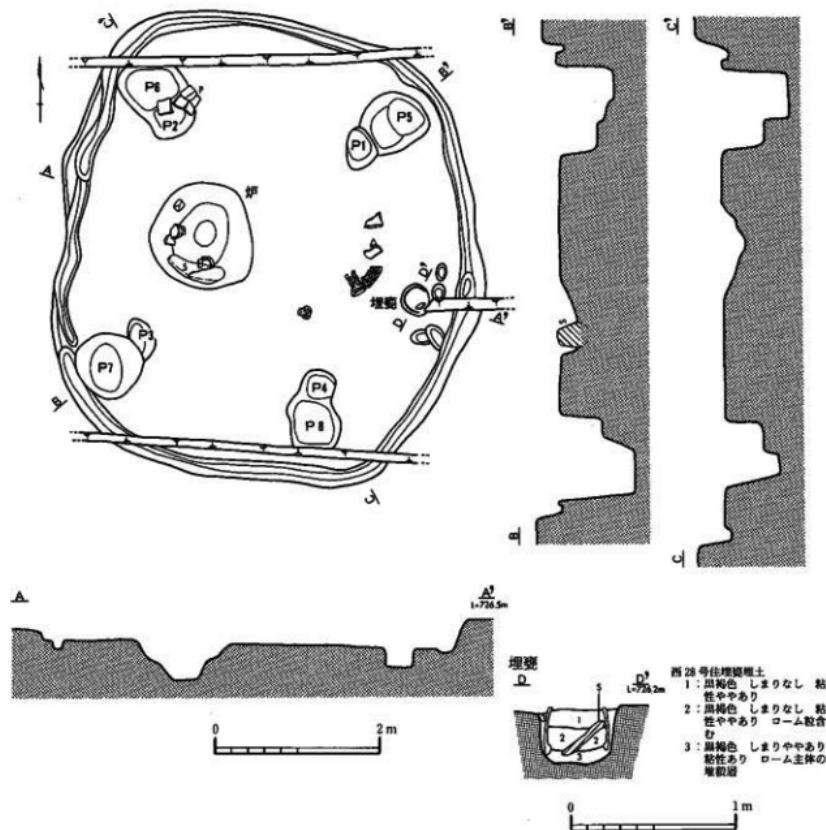
**形状** 隅丸方形状を呈し、出入口部が僅かに張り出している。規模は5.5m×5.2mをはかる。出入口と炉址を結ぶ主軸はやや南にずれているものの、西方向を指す。現存状況が他の住居跡の比べて良く、20～30cmの壁高を計る。

**覆土** 黒褐色土もしくは暗褐色土の自然流入による堆積と判断された。

**床面** 硬化面は見られなかったが、平坦に整えられていた。炉址の奥と中心部がやや締まりをもっている。周溝は壁際を全周している。

**柱穴** P1～P4までが拡張前の主柱穴であり、P5～P8までが拡張後の主柱穴と考えられる。P1～P4は直径が小型で60cm程度の深さに達し、P5～P8は大形で1m近い深さがある。

**炉址** 方形石囲い炉で、中央奥よりに位置し、大形の炉石以外は抜き取られていた。



第38図 西28号住居跡実測図

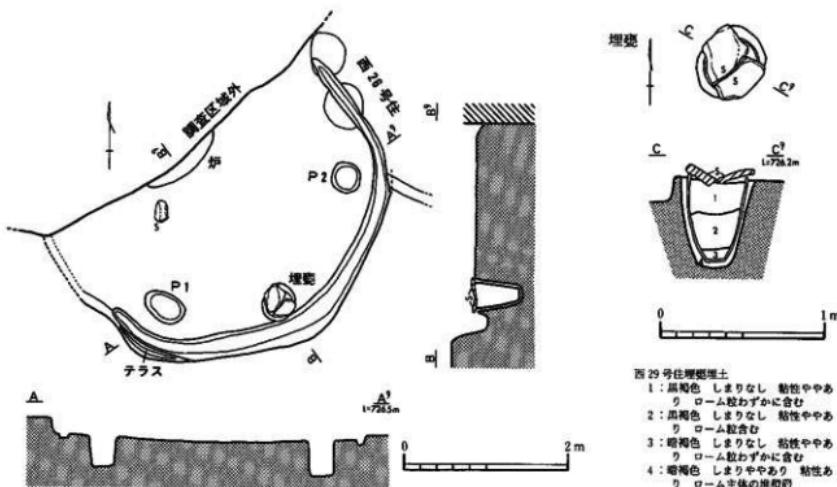
**特殊施設** 埋甕1基が検出された。土器（第55図88）は深鉢で胴部から口縁部にかけて逆位に埋設されていた。土器内に平板状の石が落ち込んでおり、石蓋であったと考えられる。埋土は自然流入によるものと判断した。

**出土遺物** 埋甕（第55図88）と深鉢（第54図86、第55図89）2点、小型の壺（第54図87）が出土した他、覆土中から石槍（第58図26）1点、石錘1点、打製石斧7点、磨製石斧（第62図84・97）2点、凹石7点、砥石2点が出土している。

**時期** 埋甕及び出土土器より中期後葉II～III期に営まれたのであろう。

### 38) 西29号住居跡

**位置** 西側調査区の西端に位置し、一部は調査区域外にのびている。北東側で西26号住居跡を切り、南に西28号住居跡が近接する。



第39図 西29号住居跡実測図

**形 状** 詳細には把握できなかったが、僅かに残る壁と周溝から隅丸方形状と考えられ、出入口部が張り出している。主軸は南東方向を指す。

**覆 土** 暗褐色土であったが詳しくは把握できなかった。

**床 面** 平坦に整えられ、中心部がやや硬く締まっている。

**柱 穴** 主柱穴と考えられるピットはP1とP2で、他の主柱穴は調査区域外に存在するだろう。

**炉 坪** 住居跡の半分が調査区域外にあり、炉石の抜き取り痕を僅かに検出したにとどまる。

**特殊施設** 埋窓1基を検出し、中央部で割れている平板状の石蓋があった。埋設した土器（第55図90）は、口縁部と底部付近の一部を欠く以外は完形であり、これを正位に埋めている。土器内の埋土は自然堆積土と判断した。

**出土遺物** 埋窓（第55図90）の他は、覆土中より若干の土器片と打製石斧1点、凹石1点が出土地している。

**時 期** 埋窓より中期後葉III期に営まれたと考えられ、西28号住居跡より新しい。

### 39) 西30号住居跡

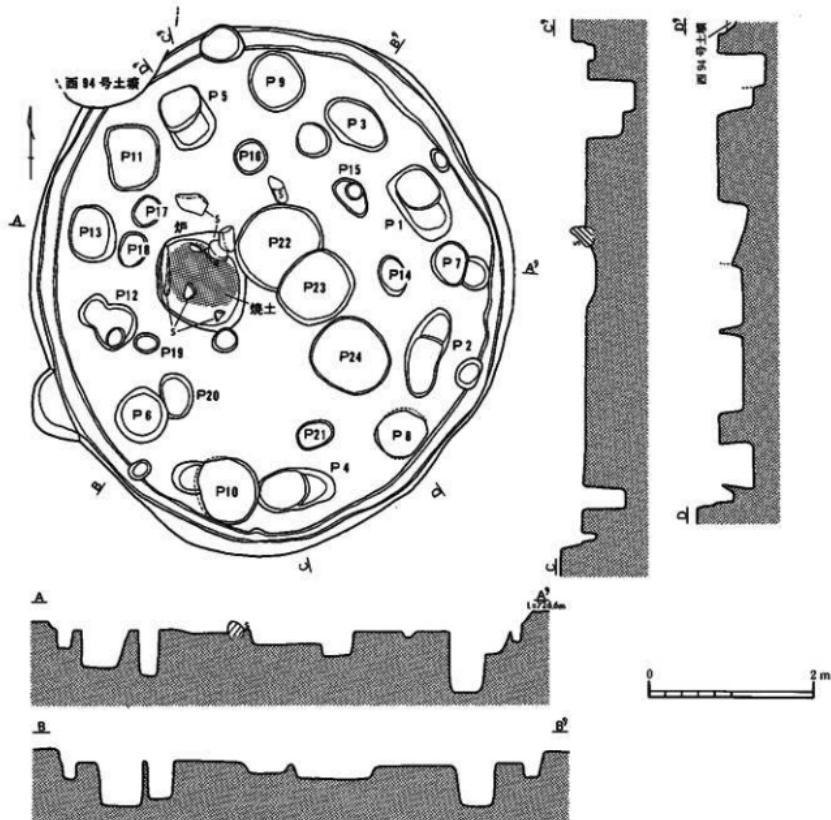
**位 置** 西側調査区の最西端に位置する。

**形 状** 円形状を呈し、規模は6m×6.3mをはかる。出入口部は炉の位置から東側と思われる。壁は20cmほど残存しており、他の住居跡に比べ残りが良い。

**覆 土** 黒褐色土と暗褐色土による自然堆積によるものであった。

**床 面** ピットと土壤が相当数検出され、全容を把握できないが、平坦と見て良い。硬化面は確認されなかった。

**柱 穴** 24箇所と多くのピットを検出した。P8・P9・P11・P15～P18については、ローム



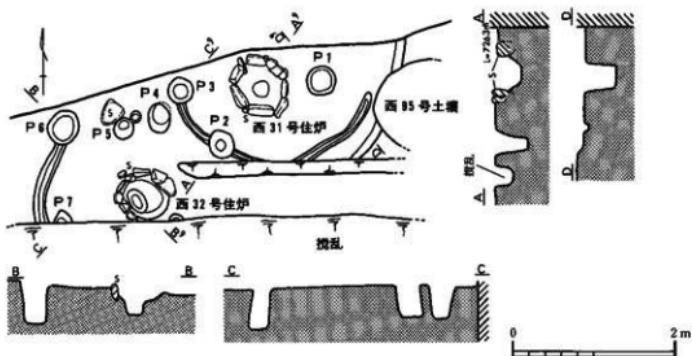
第40図 西30号住居跡実測図

土による貼り床の痕跡が埋土上部で確認されたので、複数回の立て替えが行われたことを示唆している。P14～P21までが最初の主柱穴であり、P7～P12が改築した際の主柱穴と思われる。その後さらなる改築が行われ、P1～P6が最終段階における主柱穴であったと考えられるが、柱のわずかな移動があったかもしれない。住居跡中央部にあるピットはこの住居跡には関係のない遺構であろう。

**炉 坪** 中央寄りに位置し、炉石の一部が残っており、大形の方形石囲い炉であったと考えられる。炉の底までは20cmと浅く、底の広い形状を有している。底面は赤く焼土化していた。

**特殊遺構** 特に検出されなかった。

**出土遺物** 覆土中より土器片と深鉢（第55図91～93）が出土し、打製石斧（第61図72）9点、磨製石斧（第62図82）1点、小型磨製石斧（第60図53）1点、凹石8点、磨石2点、砥石3点が出土している。



第41図 西31・32号住居跡実測図

**時期** 出土土器より中期後葉II期に廃棄されたと考えられる。

#### 40) 西31号住居跡

**位置** 西30号住居跡の北側に位置し、北側の大部分が調査区域外にのびている。西32号住居跡に切られる。

**形状** 周溝とわずかに残る壁から円形状を呈すると予想される。

**覆土** 把握できなかった。

**床面** 詳細については判らないが、検出範囲は平坦であった。周溝は南側に確認され、ピットによって切られている。

**柱穴** 主柱穴と予想できるのはP1～P3の3箇所であるが、P2は西32号住居跡の柱穴である可能性もある。

**炉址** 円形の石囲い炉が検出された。深さは30cm程をはかり、すり鉢状を呈する。炉壁は赤く焼土化していた。

**特殊施設** 検出されなかった。

**出土遺物** 覆土中から土器片数点と、打製石斧1点が出土した。また床面に食い込むようにしてスプーン状を呈する土製品（第57図16）が出土した。

**時期** 出土土器から中期後葉I期と思われる。

#### 41) 西32号住居跡

**位置** 西30号住居跡の北に位置し、西31号住居跡を切る。また北側の大部分が調査区域外に存在する。

**形状** 北側が調査区域外に存在し、南側が搅乱を受けていたため確認できなかった。

**覆土** 暗褐色土に覆われていたが、堆積が薄いためその全容は把握できない。

**床面** 現存範囲は平坦であった。また西側の一部には周溝が存在した。

**柱穴** 柱穴と考えられるのはP4～P7であるが、確実性に乏しい。

**炉址** 円形を呈する石囲い炉で、炉石の一部が抜き取られている。炉底は中心からずれて

掘り込まれていた。顯著な焼土は観察されなかった。

特殊施設 検出されなかった。

出土遺物 若干の土器片と深鉢（第55図94）、打製石斧（第61図73）2点、磨製石斧（第62図75）1点が出土した。

時期 出土土器より中期後葉III期に廃棄されたものと考えられる。

## 2 土 壤

本遺跡からは、東側調査区で78基、西側調査区で131基の土壙が検出された。そのほとんどが繩文時代に属するものと考えられるが、確実に時代を把握できるのはわずかである。土壙の分布を見ると（第3図）、東側調査区では東6号住居跡の北西側に集中している。西側調査区では西2号住居跡の南東側と西14号住居跡の西側、西19・25号住居跡の周辺にそれぞれまとまりが見られる。なかでも西19・25号住居跡周辺の土壙は、農業基盤整備事業による圃場整備によって上部が削平された住居跡の柱穴が残った可能性も考えられる。ここでは不明瞭な土壙を除き、特徴的なものについてだけ簡単に述べたい。

### 1) 東3号土壙

東7号住居跡のすぐ北側に位置し、かなり大形で2.6m×2.4m程の円形状のプランで、深さ90cmをはかり、鍋底状を呈する。土壙内は黒褐色土を中心に堆積しており、12層に分層された。堆積状況は複雑な状況を示し、ロームブロックを主体とする層も見られ、早い時期に埋め戻された可能性がある。出土遺物は覆土中から土器片数点が出土したのみで、時期は中期中葉III期にあたるものと考えられる。この遺構の性格、機能については不明である。

### 2) 西2号土壙

西側調査区の南東側に位置し、直径1.1m程の円形プランを呈する。深さは周辺の土壙と同様に浅く20cm程度で、鍋底状を呈する。堆積状況は浅く把握しきれなかった。土壙の底から10cm程度上の覆土中から土器片が集中して検出された。土器片は中期中葉III期のものであった。

### 3) 西73号土壙

西8号住居跡内に位置する。西8号住居跡の覆土中に掘り込まれ、互いの覆土が極めて近似していたため、全体像を明らかにすることできなかった。しかし西8号住居跡の床面下約15cmにまで掘削が及んでいる。その形状は直径1m程の略円形で北東側の壁は緩やかに傾斜している。覆土中から3点の土器（第42図）



第42図 西73号土壙出土土器 (1:S=1/6 2:S=1/4)

が出土している。中期後葉II期だろう。

#### 4) 西90号土壤

西21号住居跡の北側に接するようにして位置する。本土壤のプランは $1.6m \times 1m$ をはかり、本遺跡で検出された土壤で唯一、方形状プランを呈する。深さは80cmで、底中央部はやや盛り上がっている。構築時期、性格は不明である。

#### 5) 西103号土壤

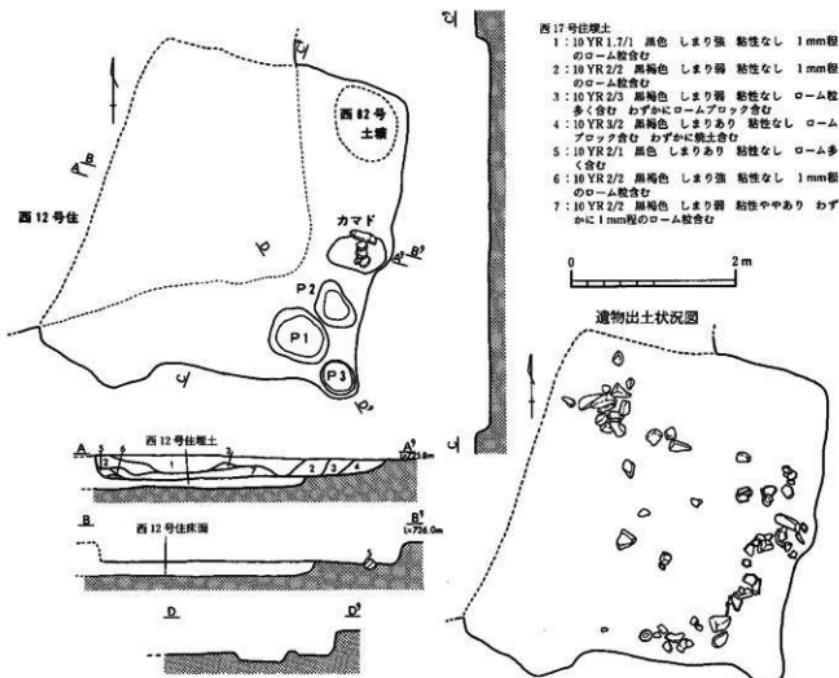
西20号住居跡内の中央部に位置する。80cm程の円形で、西20号住居跡の床面下46cmにまで及ぶ。形状は底部がわずかに広がる袋状を呈する。土壤の底中央部に倒置した状況で小型の完形土器2点と半完形の土器1点が出土している。出土土器は中期中葉V期にあたり、西20号住居跡の構築時期より新しいと考えられる。

### 第2節 平安時代の遺構

#### 1) 西17号住居跡

位置 西側調査区の中央に位置し、西12号住居跡を切る。

形状 西側で大きな搅乱を受けていたため、全体像を把握できなかったが、残存状態から判



第43図 西17号住居跡実測図

断して方形状を呈していたと考えられる。推定で、3.8m×3mをはかり、壁高は20cmで垂直に立ち上がる。東壁の中央にかまどが構築され、主軸方向は東よりやや南を指す。

**覆 土** 黒褐色土を中心にして7層に分層された。複雑な堆積状況だが、自然流入と考えられよう。

**床 面** 床面は平坦で、掘り込んだローム面をそのまま床面としている部分と、西側の大部分は西12号住居跡内に該当するため、その覆土をそのまま床面としている部分がある。

**柱 穴** 上屋を支えたと思われる柱穴はない。南東壁際に8~13cm程度の浅いピットが検出された。

**カマド** 東壁の中央に作られており、東壁の外側へやや張り出す。既に破壊を受けており、石組みはわずかに残る程度であったが、石組み粘土カマドであったものと思われる。火床はわずかにくぼみがあるだけで焼土化している。煙道は検出できなかった。

**出土遺物** カマド付近から南壁にかけて集中的に出土した。灰釉陶器皿（第57図102）1点、黒色Aの土師器塊（第57図95・96・98）3点、黒色Aの土師器坏（第57図97・100・101）4点、黒色Bの土師器塊（第57図99）1点、土師器甕（第57図103）、土師器小型甕（第57図104）、短頸壺（第57図105）、小瓶（第57図106）等が出土している。また95~97の外面、106の底部にはそれぞれ墨書の文字が見られる。

**時 期** 出土遺物から平安時代9世紀末の住居跡であろう。

## 第4章 遺物

遺物については、調査終了後の作業が最終段階に至っておらず、遺構に伴う主な出土遺物の提示にとどめざるを得ない。出土遺物の十分な整理が終了しておらず、各遺構についてもある程度の時期を想定しているが、厳密な分析結果ではない点をお断りしなければならない。以下簡単にその概要を記し、顔面及び獸面把手付土器のみ特例として紹介したい。

### 1 総括

まず、予想だにしなかった縄文前期前葉の中越式土器の出土が特記されよう。標式となった上伊那郡宮田村中越遺跡や型式分類の基準を作った諏訪郡原村阿久遺跡など、天竜川上流域を主な分布域とした中越式であったが、その後南信各地で新資料の報告が続き、昭和60年代に入ってやや離れて大町市長平遺跡で良好な資料が発掘され奇異な感じを受けたが、諏訪・伊那と大町の中間地帯ともいるべき本遺跡から中越式土器が出土したことは、該式土器が松本平全域を分布域とするのを確定したといえよう。今後、住居跡の構造や土器の更なる分析を通じて、中越式期のより詳細な解明が必要となろう。

本遺跡の主体となる縄文中期土器については、殿村遺跡で詳細な分析が行われ、松本平における該期土器編年基礎ができている。本遺跡は今の段階では殿村遺跡とほぼ同じであり、両者の差を指摘することはできない。縄文中期遺跡が櫛比する北アルプス西麓の遺跡群ー北から三郷村東松原、梓川村荒海渡、波田町麻神、山形村三夜塚・殿村、朝日村熊久保等、発掘調査された各遺跡は、ほぼ中期の全般を満たす土器が出土している。しかし、まだ厳密な分析はしていないが、中期前半と後半のある時期にピークがあるらしい。後半のピークは曾利II～III式であることは問題ない。この期はほとんどの遺跡で10軒前後の住居が作られ中南信地域がもっとも人口を要した時期といえる。ところが前半のピークが何処にあるのか、前半でもはじめ頃の九兵衛尾根式・猪沢式はさほど住居も多くない。やはり次段階の新道・藤内・井戸尻各時期といった中期中葉であろうか。この中で詳細な分析はまだ問題が残っている。一例として地域的特性の抽出ー諏訪地方の編年体系と違った松本平の独自性という様相が指摘できるかどうかがある。ちなみにこの時期はいわゆる“吹上パターン”という多量の土器の一括廃棄の例が多く、數型式の土器が含まれていて問題も残っている。今後は既出資料の再検討を通して、縄文時代最末期の実態を解明したいものである。なお後半の曾利式については、殿村で一項を設け分析されているので参照されたい。

土器以外の土製品について触れておこう。土偶が欠損品のみだが14点出土している。頭部6、胴部3、脚部3、胴～脚部2である。殿村遺跡では5点しかないのに比べると多い方であるが、全国的に見てもこの期の土偶が最も多い松本平南部では当然といえよう。中期特有の形態のものばかりである。このほか土製円盤、スプーン状土製品、三角墻土製品、土鈴が各1点出土している。

石器の出土量も多い。338点あるが、磨石などは取り上げ時のミスがあったかもしれない。以下器種別に出土数を掲げる。

石鎌35、石匙15、横刃形石器1、石槍2、石錐7、削器8、搔器4、  
敲打器4、打製石斧124、磨石11、凹石65、石皿1?、磨製石斧10、

砥石12、小型磨製石斧7、石刀2、石鎌4、石棒1、ヒスイ剝片17、  
ヒスイ原石3、不明1

縄文前期の住居跡が3軒あるので、まずそれを見ると石鎌8、石匙2、磨石・磨製石斧が各1点づつで比較的少ない。石鎌が8点というのは該期として当然だが、石匙が少なすぎるようである。なお、東4号住から玦状耳飾が1点出土している。

中期の石器としては、圧倒的に打製石斧・磨石・凹石が多いのは他の遺跡と変わらない。ただ打製石斧と同じ土掘り具や土かき具的用法と考えられる横刃形石器（粗大石器）類が殿村の場合は40点余あるのを見ると少なすぎ、分類上再検討が必要かもしれない。他の石器では削器・搔器・石錐・石匙・小型磨製石斧などの小型切断具や木工用具が少ない点は注意して良い。またヒスイの原石とヒスイ剝片が検出されたのは本遺跡でその加工が行われた証拠として特記されてよいだろう。石器の細かな形態分類なども殿村遺跡報告書に詳しいので参照されたい。

平安時代の住居跡が1軒検出されたが、出土遺物について特記すべきものはない。

## 2 装飾把手付土器について

今回の調査においては、顔面把手付土器・獸面把手付土器が各1点づつ出土した。名称のとおり把手部に顔・獸（蛇）が表現されている土器であるが、実際には把手としての機能はなく宗教的意味を持った装飾と考えられている。ここでは殿村遺跡から出土した未発表資料も加えて紹介したい。

顔面把手付土器は、西20・21・22号住居跡が互いに切り合う付近の床面から浮いた覆土中から出土したため、どの住居跡に属するのか不明である。土器は口縁部が「く」の字状にきつく屈曲し、胴部上半でくびれており、それ以下は欠損しているものの、肩がつよく張る器形を呈すると思われる。口縁部には無文帯がひろがり、くびれ部には隆帯が配されている。残存部が把手から胴部上半のみであり、顔面もその一部を欠いている。口径が16cmに復元できる小型の深鉢であり、時期は中期中葉V期になろう。

顔面把手付土器は現在まで村内において5例確認されている。今回の資料に加え、殿村遺跡で出土した未発表資料を数えると7例となる（表参照）。顔面把手付土器については吉本洋子・渡辺誠氏による「人面・土偶装飾付土器の基礎的研究」において資料集成されているが、淀の内・殿村遺跡から出土した4個体はいずれもこの論文中でIV類（典型的な人面装飾付土器であり、大型化・立体化し中空になっているもの）に分類されるものである。IV類は東京都・神奈川県・山梨県・長野県を中心分布しているが、山形村を含む松本平南域はその分布の縁辺部とされている。ここに紹介した殿村遺跡例（表6番・写真2）は残念ながら顔面を欠損しているが、顔面の高さ・幅ともに13cmを越えるA類（先述の論文による）で、このA類と呼ばれる大型化が顕著に進んだ地域は、伊那谷・八ヶ岳西南麓・甲府盆地・東京都西部から山梨県南部地城とされ、顔面把手付土器が多く出土する発達地域であるという。松本平では、顔面のサイズが小さいC類（顔面の高さ・幅が共に13cm以下）が多く、A類の出土はなかったが、この資料は松本平における大型顔面把手付土器の初例であり、注目に値するものであろう。

獸面把手付土器は西7号住居跡から出土した。口縁部がゆるく内湾し、胴部上半にかけてはややくびれる深鉢形を呈する。口縁部には隆帯が瘤目状に付され、胴部には半肉彫り的な幾何学的文様が配され、口縁部から胴部上半にかけては粘土紐をひねったものを斜めに貼り付けている。把手は蛇が土器の中からかま首を持ち上げて土器の外側を伺っているようであり、頭頂部には渦巻き状に線刻がされ、目はなく大きな口はすばんんでいる。口径10.4cmに復元できる小型深鉢で、文様構成は

中期中葉VI期から中期後葉I期の様相を示す。

蛇をあしらったと言われる土器は、顔面把手と向き合う位置に蛇を配した岡谷市櫻垣外遺跡のものや、顔面把手の頭上に蛇を配した伊那市南福地遺跡、上伊那郡南箕輪村浅間塚遺跡例や、口縁部に蛇がはっているようである茅野市藤内・尖石・棚畠遺跡例などに代表されるものなど多数存在する。しかしながら、本例のようにこれほど忠実に蛇のみを把手として表現したものは類を見ない稀なものではないかと思われる。

いずれもこれまでの通例から外れる資料であったが、資料の紹介のみで考察まで至っていない。今後当分野の研究にいくらかでも寄与できればと思う。なお、本文中で「顔面把手付土器」・「人面装飾付土器」両方の名称を使っているが、本書では「顔面把手付土器」を用い、吉本・渡辺氏の論文を引用した部分では「人面装飾付土器」を用いた。

#### 参考文献

- 吉本洋子・渡辺誠 1994 「人面・土偶装飾付土器の基礎的研究」『日本考古学』第1号
- 青沼博之ほか 1987 「殿村遺跡」山形村遺跡発掘調査報告書第6集
- 渡辺誠 1996 「よみがえる繩文人」
- 辰野町郷土美術館 1980 「信濃の土偶」
- 藤沢宗平ほか 1971 「長野県東筑摩郡山形村洞遺跡緊急発掘調査報告書」



1 淀の内遺跡顔面把手付土器



2 殿村遺跡顔面把手付土器



3 淀の内遺跡顔面把手付土器

山形村出土顔面把手付土器一覧表

( )付は現存値 [ ]付は復元値

番号	遺跡名	タイプ	サイズ	時期	高さ	幅	所蔵者
1	殿村	IVC	C	井戸尻I～II	(5, 5)	[10, 4]	山形村教育委員会
2	殿村	IVC	C	井戸尻I	(4, 1)	(7, 3)	山形村教育委員会
3	三夜塚	IVC	C	藤内～井戸尻	(7, 1)	(9, 2)	松本市立日本民俗資料館
4	下原	III A		中期前半			松本市立日本民俗資料館
5	松木原?	II A					所在不明
6	殿村	IVC	A	井戸尻	13, 1	(12, 3)	山形村教育委員会
7	淀の内	IVC	C	井戸尻I	5, 3	(9, 1)	山形村教育委員会

\*表は文献1のものに準じている。

## 第5章 まとめにかえて

松本平の典型的な縄文中期集落跡であることが判明した本遺跡であったが、遺跡全体図で分かるように遺跡範囲の半分にも満たない調査面積であったといえる。また諸般の事情で調査を打ち切った部分もある。緊急発掘調査が抱える“諸般の事情”を本遺跡でも避けることができなかつた。

そこで永久に消滅した住居跡・土壌などの遺構についてのみその大要を報告し、遺物については後日を期して略報程度にとどめるという方向で、本書の編集・刊行に踏み切ることにした。以下簡単なまとめを記してここでの一応の責任を果たしておきたい。

今回の調査より8年前の昭和59年から61年までの3ヶ年、村内にある殿村遺跡が調査されている。県営圃場整備に伴う緊急発掘調査であったが、調査体制・予算措置が本調査に比べて格段の差があり、その結果は本文233頁、写真図版90頁の大冊となって昭和62年に刊行されている。

殿村遺跡と淀の内遺跡は約2km離れているが、その主体が縄文中期集落跡であり、種々の面で同じ様相を呈している。本遺跡のすぐ西側は昭和45年に発掘調査された洞遺跡があり、古くから同一時期の大規模な遺跡として認識されていたので、今回の調査にあたっては、洞・殿村両遺跡の成果が大変参考となつた。特に洞遺跡とは対面する位置にあり、住居の移動による2箇所の住み分けなど今後検討すべき課題が残されている。まとめてみよう。

### ① 縄文前期

本遺跡の始まりが縄文前期はじめ頃の「中越式」期であったのは、大きな成果であった。標式となった上伊那郡宮田村中越遺跡や該期の文化解明を前進させた諏訪郡原村阿久遺跡など、天竜川中・上流域を分布域とした中越式であったが、近年、松本平北端の大町市長平遺跡、最近調査された北安曇郡松川村濁橋付近遺跡で良好な同期資料が出土し、分布域の拡大が判明してきた。わずか3軒の住居跡ではあったが、本遺跡で中越式に伴う小集落が発見されたことは、間違いなく南信から中信への流れがあり、中越式文化圏の広がりが証明されたといえる。出土遺物が少ないので残念だが、山形村・波田町境の唐沢遺跡では中越式より1、2段階古い西日本系土器を中心とした集落が存在しており、今後両者の比較を通じて該期の様相究明が課題となろう。

### ② 縄文中期

本遺跡の主体は縄文中期である。大きくは前半と後半に大別できるが、その内容は先述した洞・殿村両遺跡と大差ない。この縄文中期は県域、特に中南信で遺跡が急増し、その盛んなさは日本全国でも一番激しく、その繁栄を「縄文王国」とさえ表現したことがあった。中心は天竜川上・中流域の諏訪や伊那谷であるが、松本平南半・塩尻市・松本市・朝日村・山形村・波田町・梓川村・三郷村・堀金村・穂高町一もその分布圏の北辺をなっている。北アルプスや鉢盛山地を背景に広々とした山形村は発掘された遺跡も多く、その一部しか公表されていないが、三夜塚遺跡出土土器はか

つて考古学者故藤森栄一が激賞したほどであり、松本平南半の中核地域と言って過言ではない。

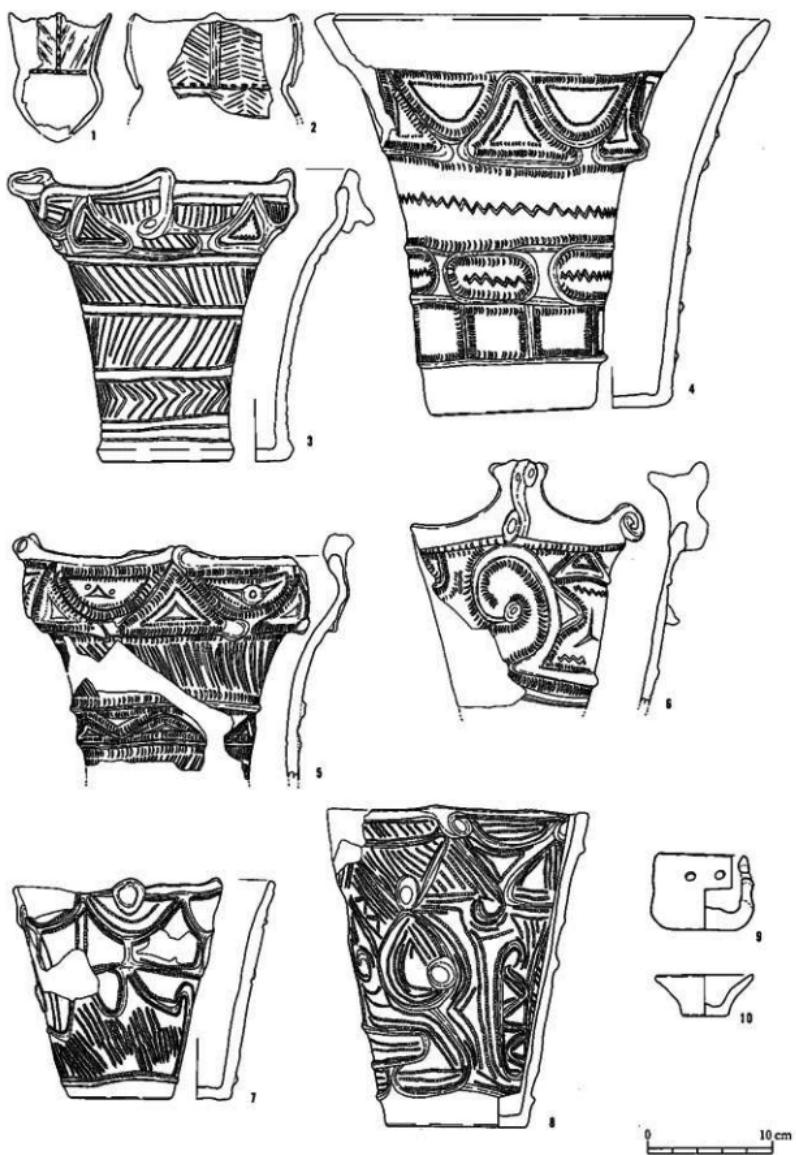
本遺跡では28軒の住居跡と多数の土壙が発見された。大きく見ると傾斜の高い部分－東地区に前半期の古いものがあり、それが傾斜の低い西地区へ次第に移動し、後半になると西地区へ一挙に集中する傾向が読み取れる。前半期の住居に重複例が少なく、後半は対照的に多くなる例は松本平では一般的で、その背景に人口増加に伴う住居の新築・改築などの多さが読み取れよう。

前半期の住居は相互が距離（約10m～30m）をおいて「散在的」であり、そこに規則性を見いだせない。これに対し西地区西半にかかる後半期の住居は「列状」ないしは「弧状」に展開する。西地区西北端が未調査に終わっているが、西19号・西25号住居跡付近に多い土壙などから想定して、未調査部分はいわゆる環状・馬蹄形集落の中央広場として機能した部分であろう。もちろん後半期住居も数段階に細分できるので、この環状（馬蹄形）集落も一世代ごとに輪切りすれば數軒程度の時やもっと多く10軒程度まで増加した時期もあったであろう。殿村遺跡も調査範囲内の住居分布を細分すると同じ傾向が指摘されており、洞遺跡はトレンチ調査であったがまったく同一の結果が読み取れる。各住居跡の所属時期を明確にし、集落の変遷を分析する必要があろう。

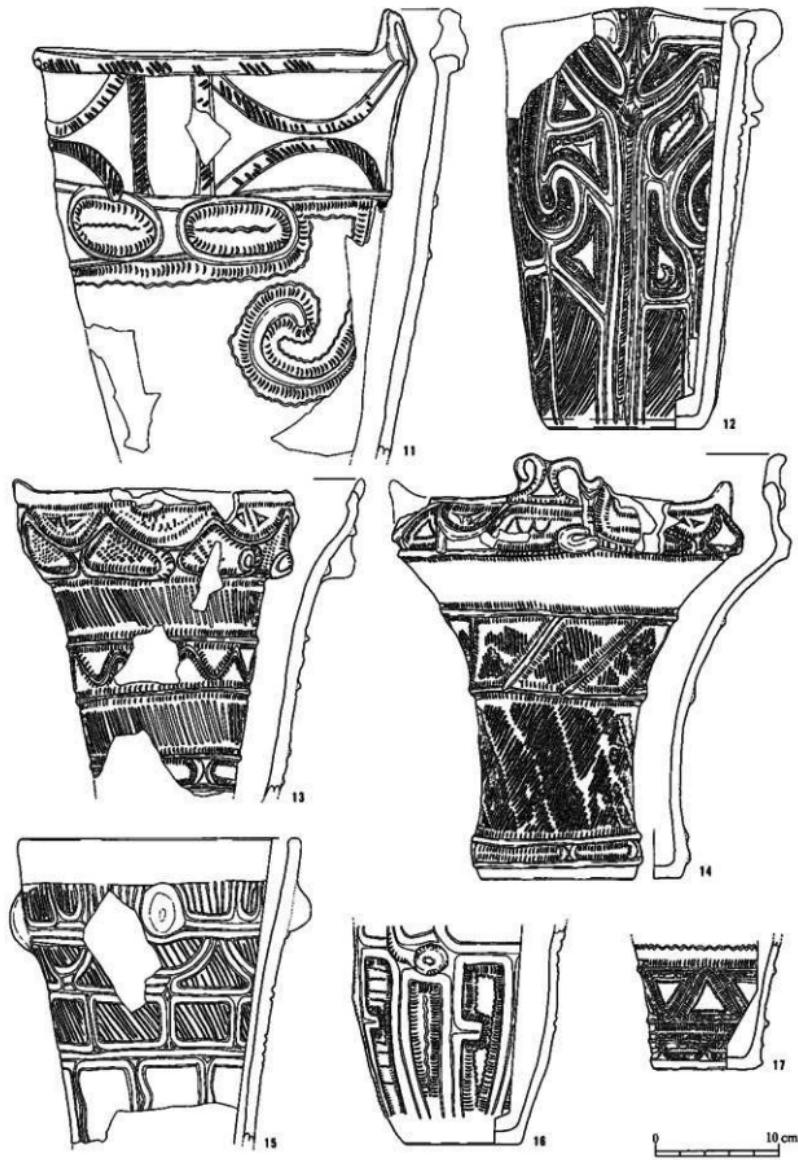
### ③ 平 安 時 代

わずか1軒だけだったが平安時代の住居跡が検出された。殿村では13軒、洞では4軒の住居跡が発掘されている。殿村では4期に細分され、一時期ごとに2～4軒づつが生活していたと分析している。未調査部分を考えても、松本平中央部で発見されている集落跡と比較するとさほど大きな集落跡ではなかったといえよう。本遺跡ではたまたま1軒のみであったが、近辺にもう少しあったと想定していいだろう。ただ、山形村など北アルプス山麓に散在するこういった平安期の小集落をどのように解釈すべきかという課題が残る。住居跡自体の規模は平野部のものと差ではなく、所有する遺物もあまり差はない。地形的に見て山形村など山麓の小集落ではとうてい「コメ」づくりに主体をおくことは難しい。すると他の基盤となる生業に何を求めるべきか。それも発見された住居跡数が数軒と言うと、少なくとも血縁関係以上の人々の集団ではなかっただろう。この集団の中に子供の数を考えると、実際に生業に携わる者は更に少なくなる。アワ、ヒエ等の雑穀や野菜類の栽培のほか、特定産物、たとえばアサ、コウゾ等を主力とした特有の職業を専らにした集団なのか。塩尻市片丘内田原遺跡の焼失家屋からは、農耕具よりも織紡関係の鉄製品・紡錘車や製品（編布やむしろ状のもの）が出土している。山形村と同じ山麓に占地した内田原遺跡等を参考にしながら、平安期のこのような小集落の実態究明を更に進展させねばならないと感じる。なお、本遺跡調査の折に、1軒だけの平安時代住居のあり方に後世の“出作り小屋”的住居としての機能も一応考慮したが、この点も視野に入るべき部分かもしれない。

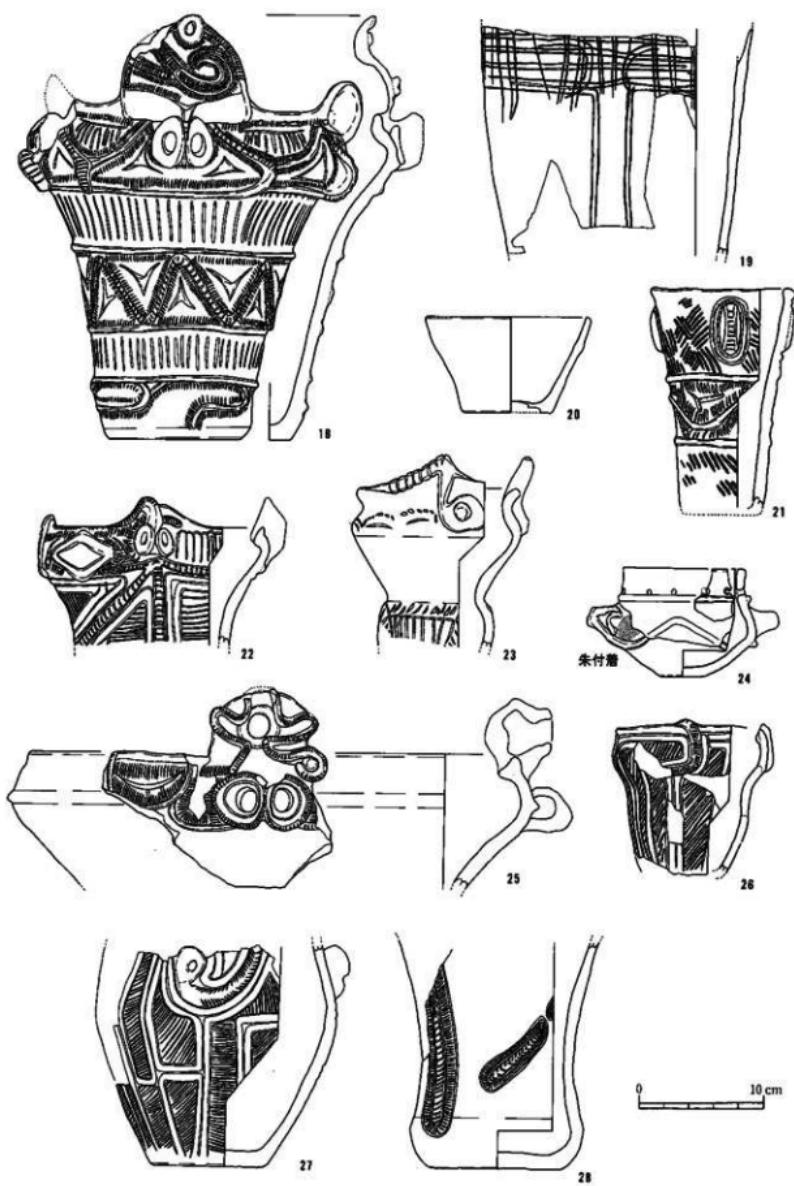
本遺跡調査の中心となった長崎君は平成5年3月まで整理作業に従事したが、4月より遠隔地に就職し、ほとんどその後の作業は停滞状況となった。それでも図面・写真・記録類の整理と、原稿の一部執筆などは勤務時間外に実施してくれた。平成7年4月から勤務した和田君は、発掘調査には全く関与しなかったにもかかわらず、資料整理にあたり本書刊行の中心となった。“諸般の事情”があるとはいえ、こうした報告書刊行にあたり、発掘に従事された地元の有志の方々をはじめ、長崎・和田両君、それに今日まで常に裏方の仕事に徹して苦労された村当局や、山形村教育委員会関係の皆様と、事業主体者となった（財）長野県住宅供給公社に心からお礼を述べまとめてしたい。



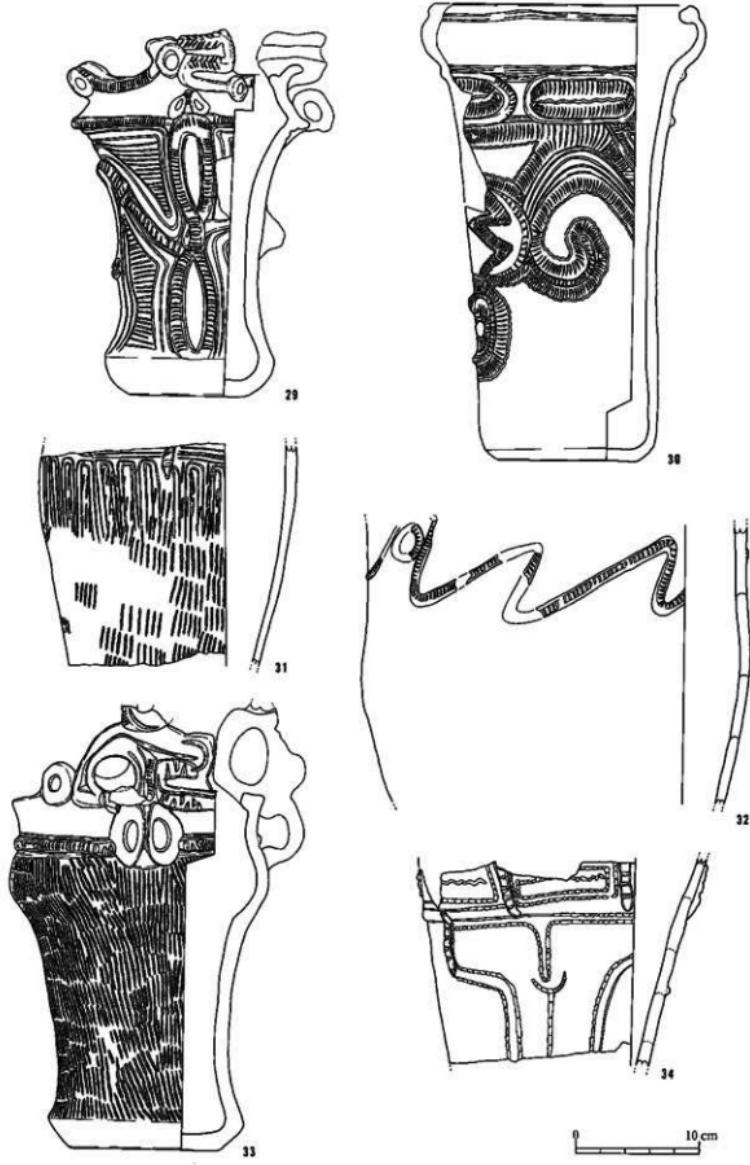
第44図 繩文土器実測図(1)



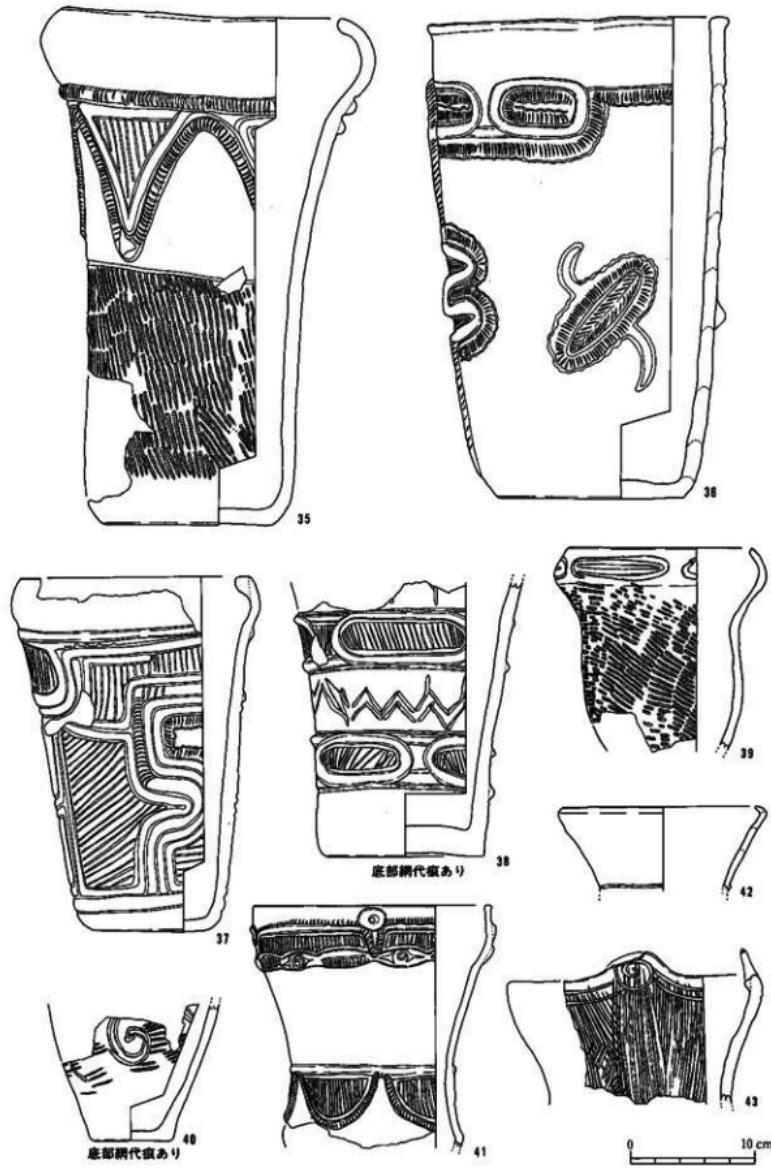
第45図 繩文土器実測図(2)



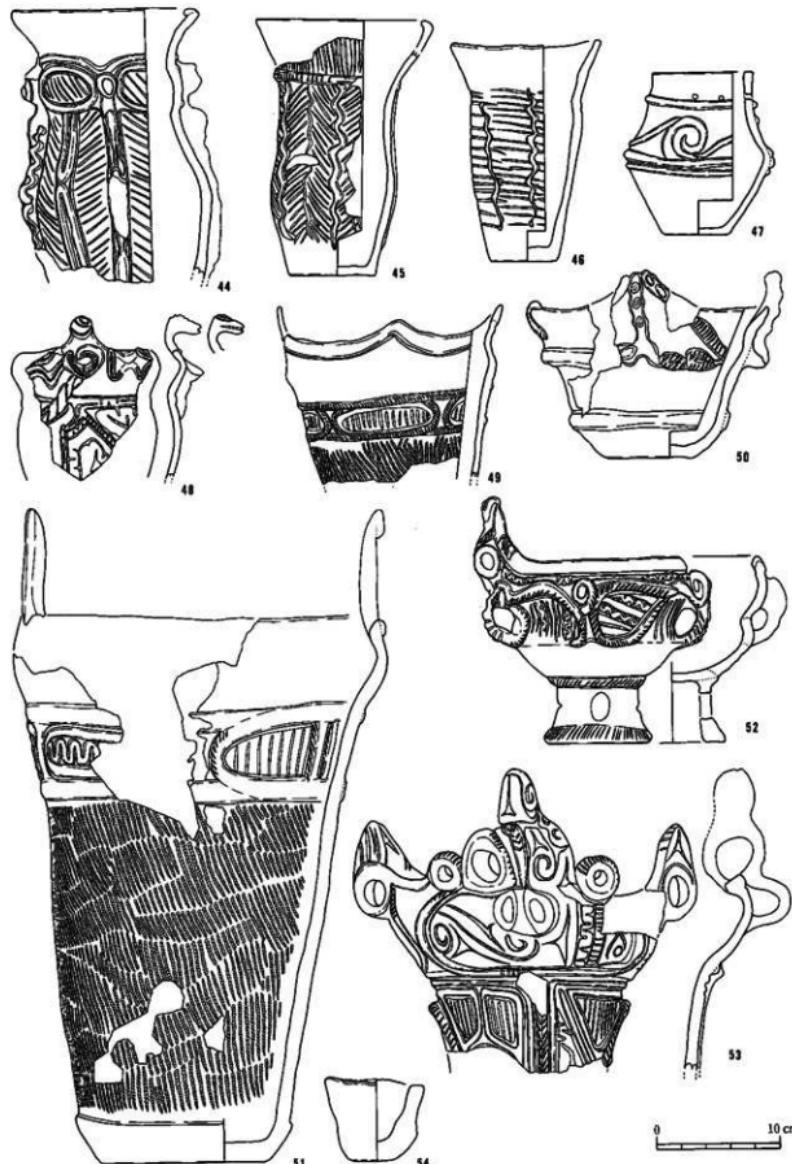
第46図 繩文土器実測図(3)



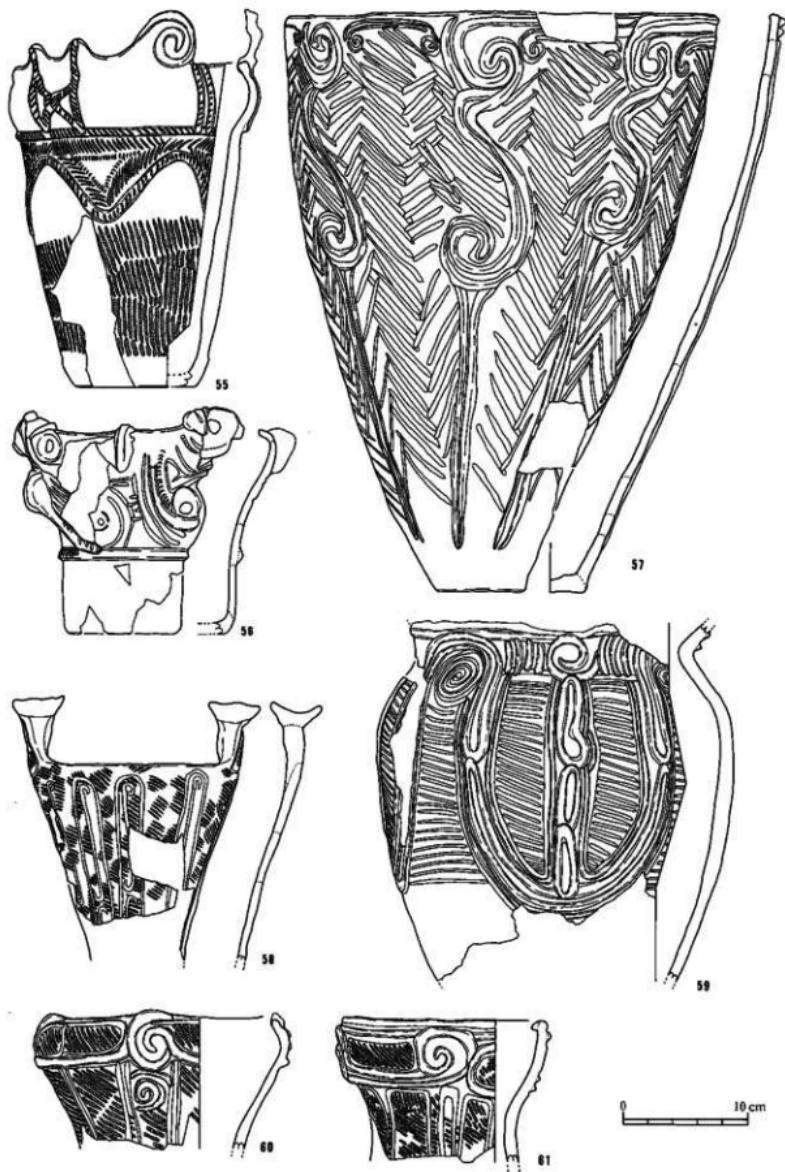
第47図 繩文土器実測図(4)



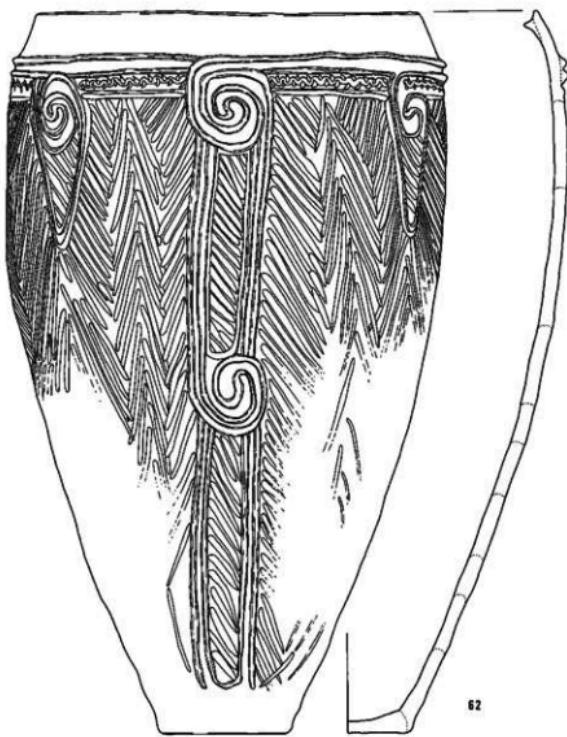
第48図 繩文土器実測図(5)



第49図 繩文土器実測図(6)



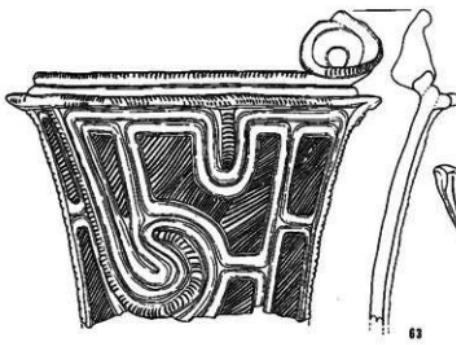
第50圖 繩文土器実測図(7)



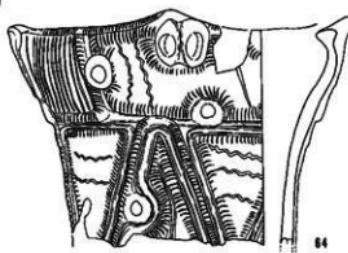
62

0

10 cm

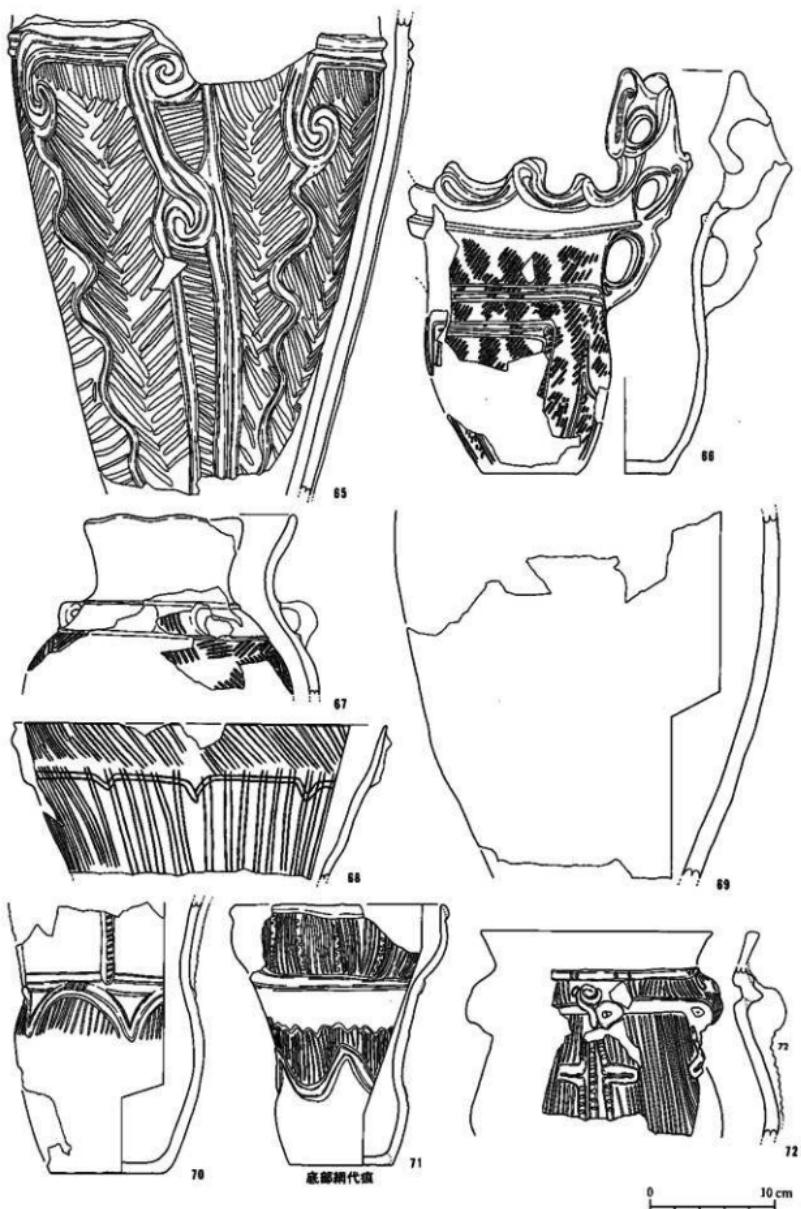


63

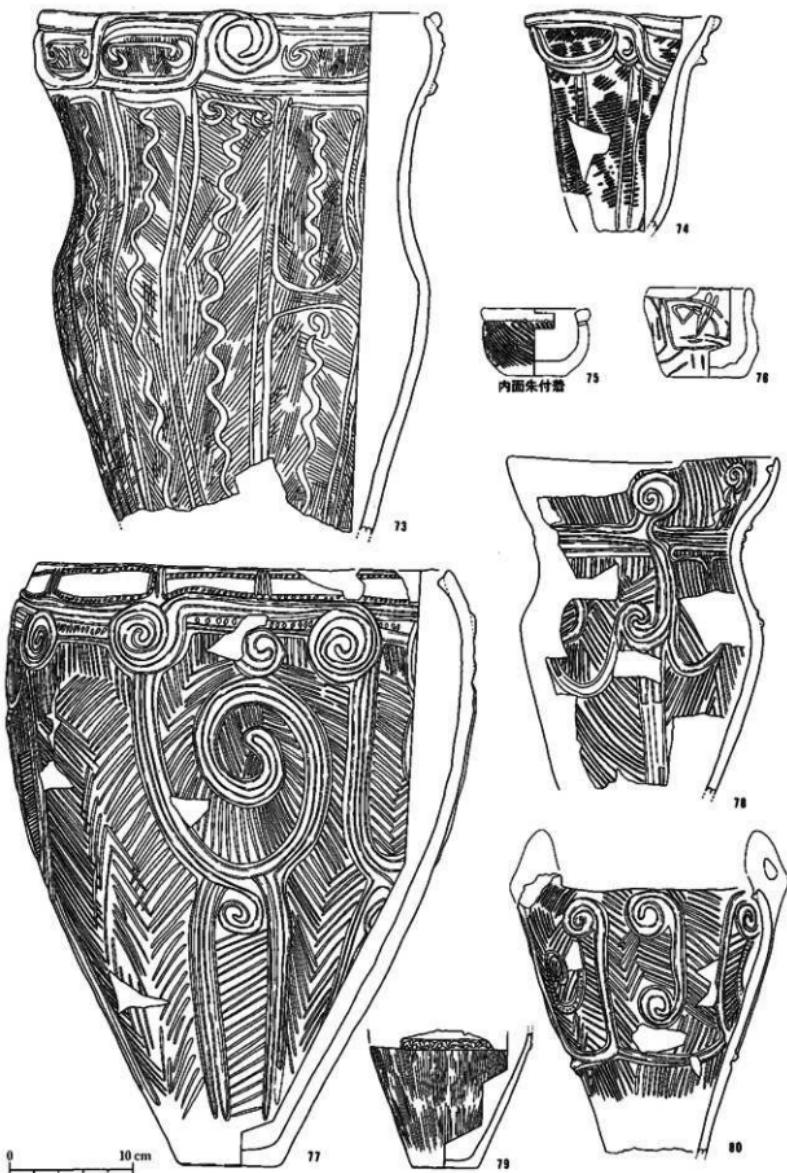


64

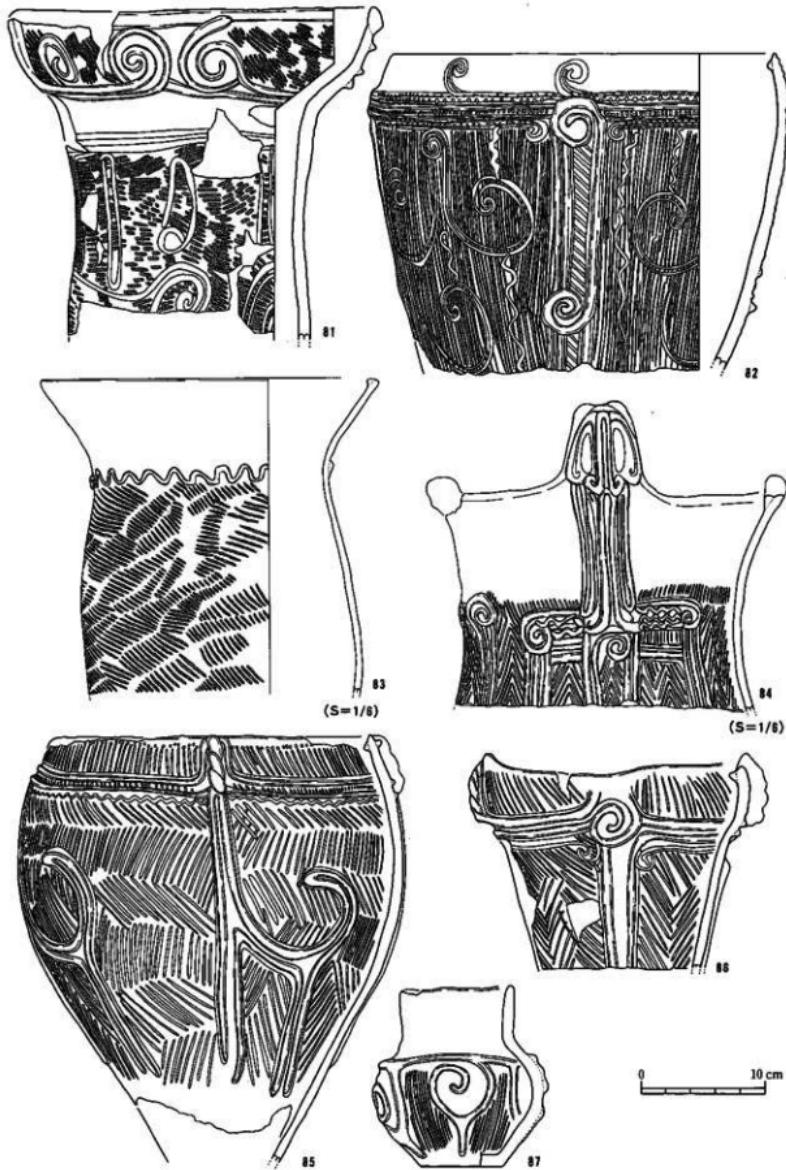
第51図 繩文土器実測図(8)



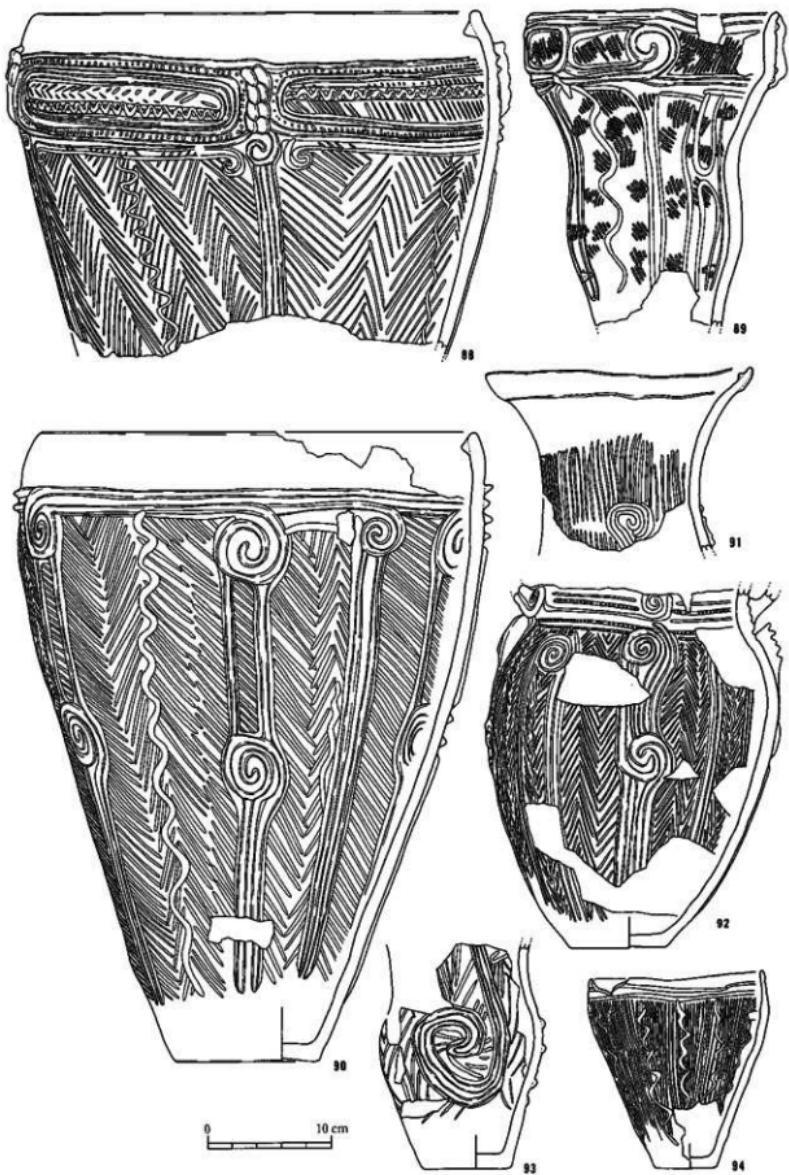
第52図 繩文土器実測図(9)



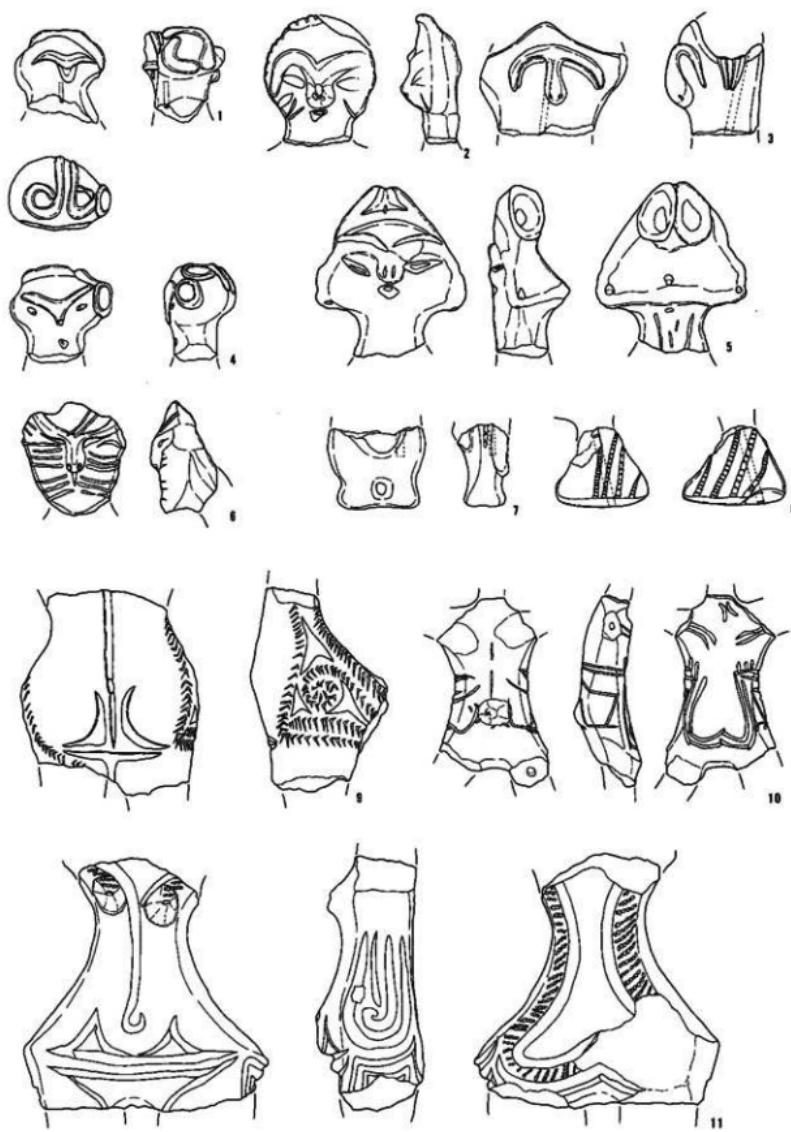
第53図 繩文土器実測図(1)



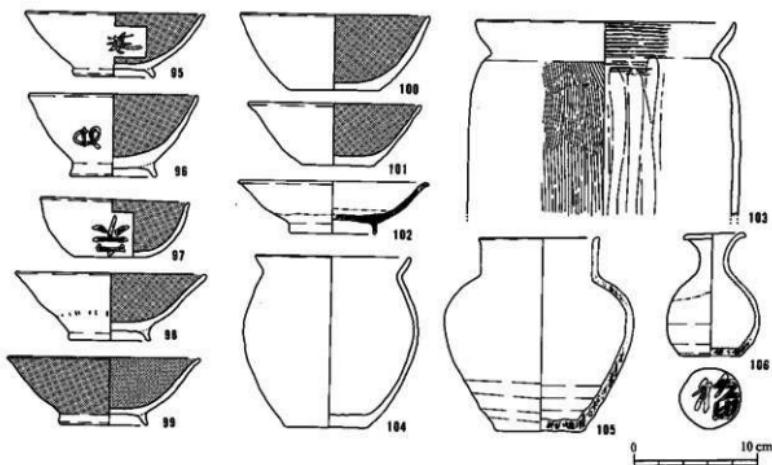
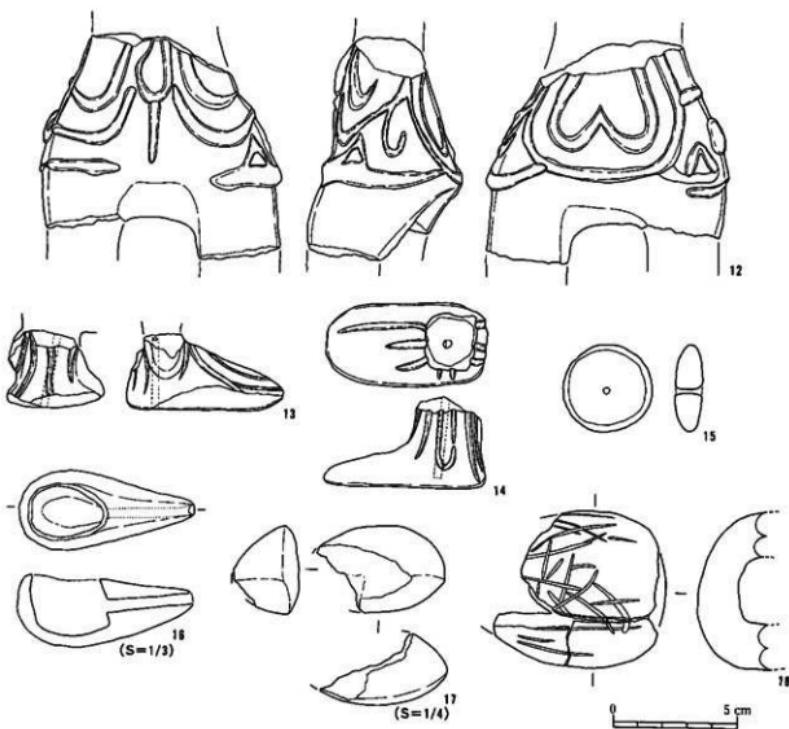
第54図 繩文土器実測図(1)



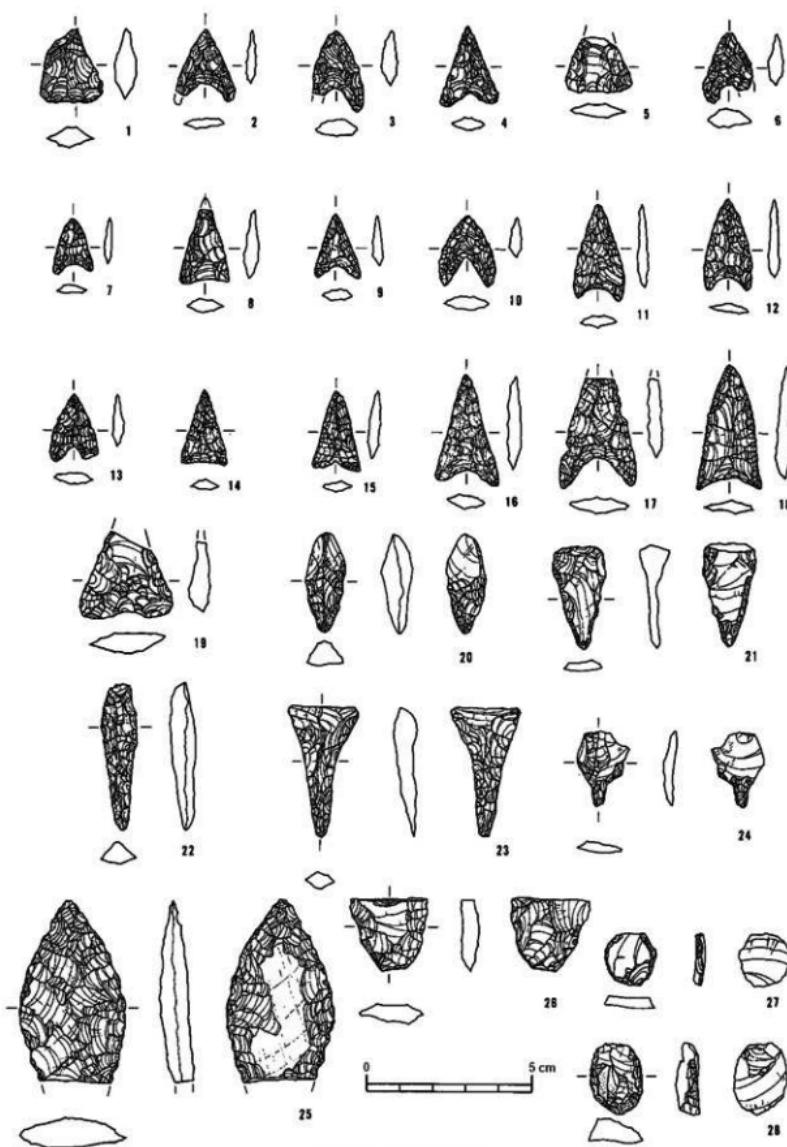
第 55 図 繩文土器実測図(2)



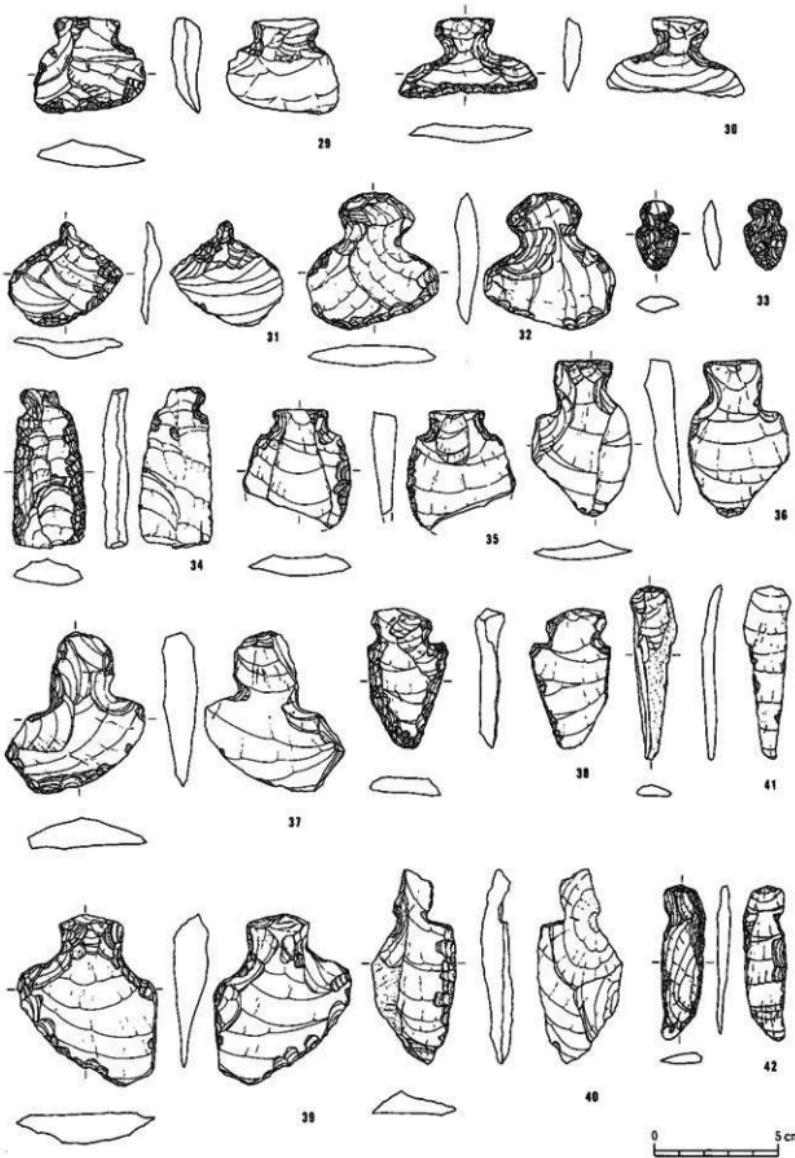
第56図 繩文時代土製品実測図(1)



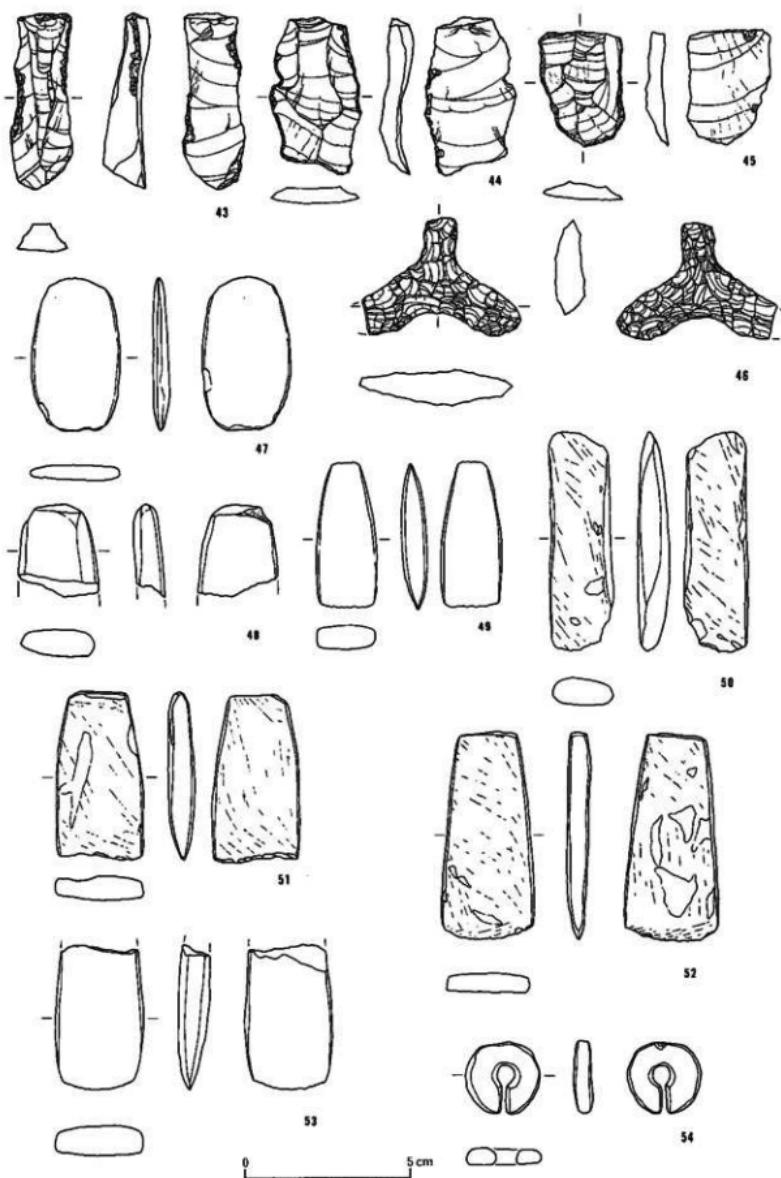
第57図 繩文時代土製品(2) 平安時代土器実測図



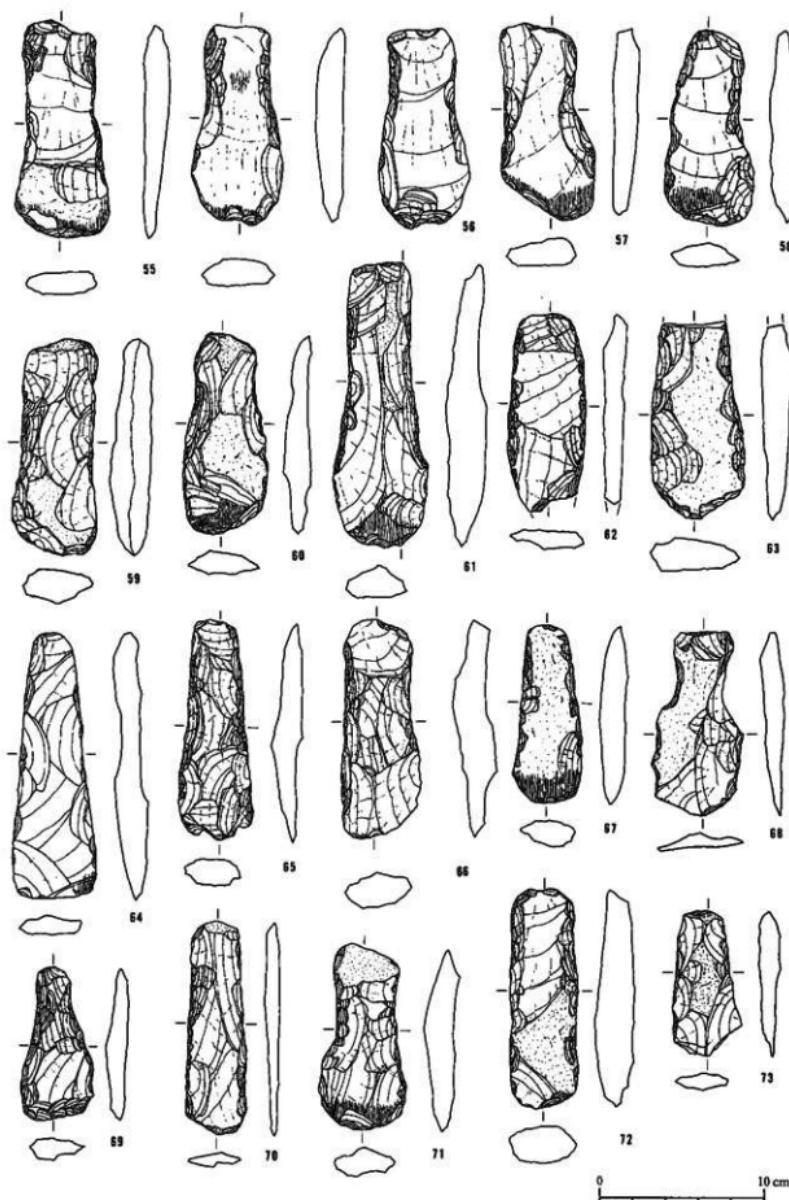
第58図 石器実測図(1)



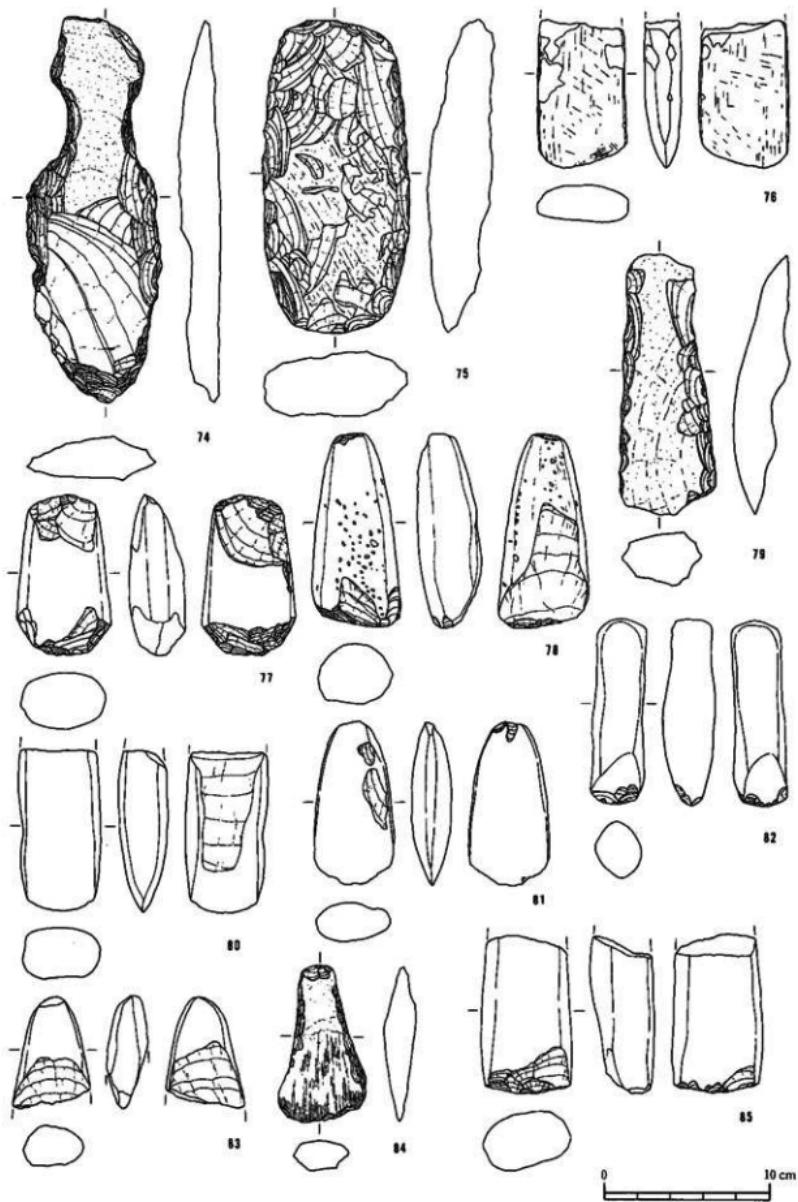
第59図 石器実測図(2)



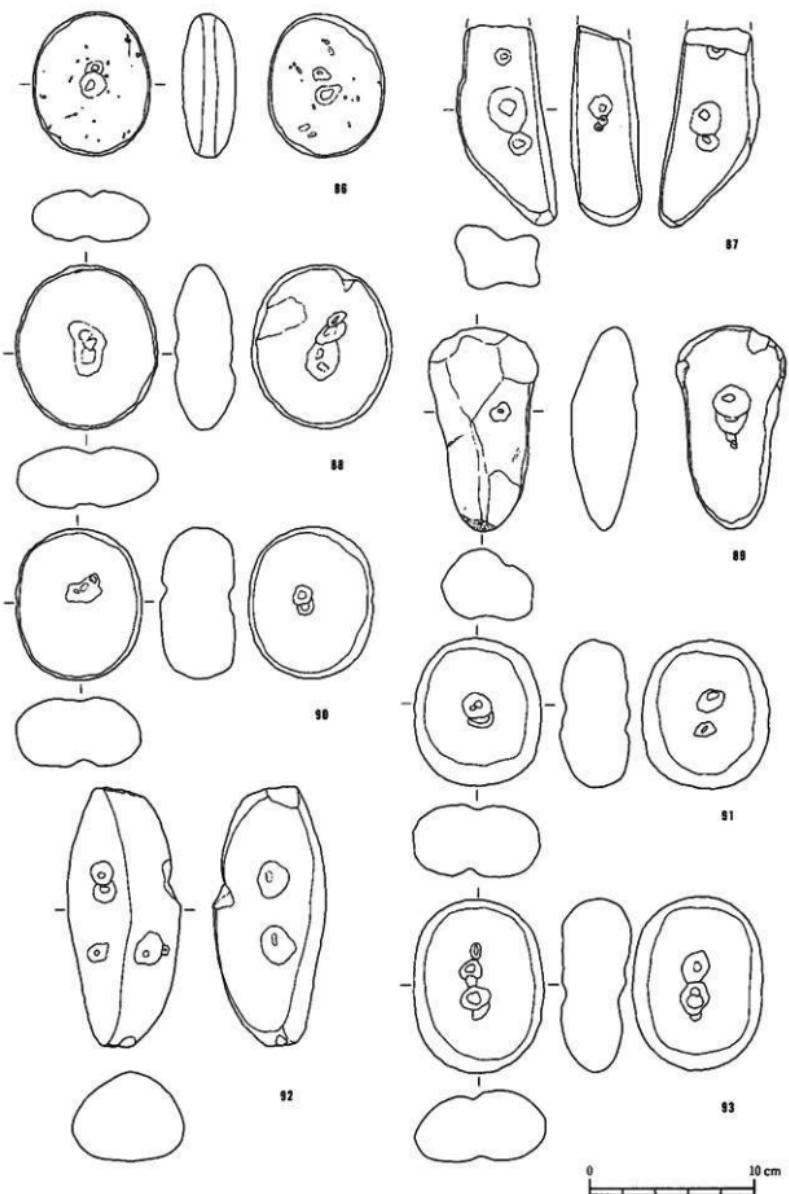
第60図 石器実測図(3)



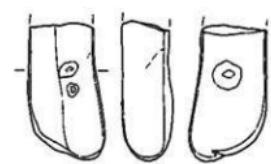
第61図 石器実測図(4)



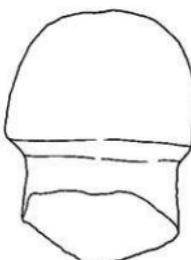
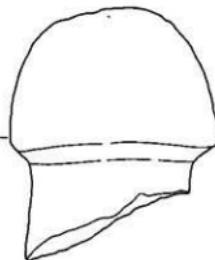
第 62 図 石器実測図(5)



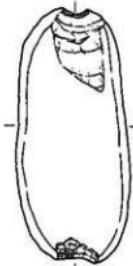
第63図 石器実測図(6)



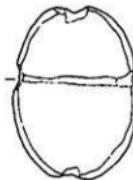
94



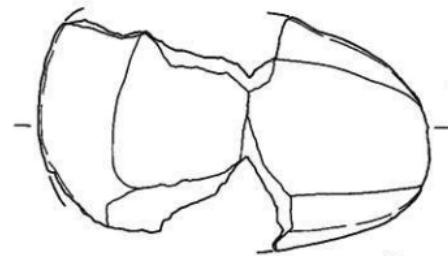
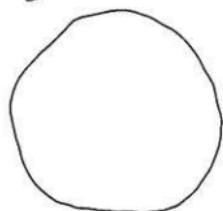
97



95



96



(S=1/5)

98



第 64 図 石器実測図(7)

## 淀の内遺跡 出土実測土器観察表

\* ( ) 付数値は現存値

No	出土遺構	器 種	色 調	胎 土	焼 成	残 存 率	法 量 (cm)			
							口径	底径	器高	
1	東1住	鉢	7.5YR4/2 灰褐	密	良好	口縁～体部下半1/4	(8.1)		(9.7)	
2	東1住	鉢	10YR4/1 黄灰	密	良好	口縁～頸部1/8			(7.8)	
3	東2住	深鉢	5YR6/4 にぶい橙	密	やや良好	ほぼ完形	20.2	10.3	23.4	
4	東2住	深鉢	7.5YR6/6 橙	やや密	やや良好	ほぼ完形	28.2	12.3	31.0	
5	東2住	深鉢	5YR5/6 明赤褐	密	やや軟	体部以下欠損	20.4		(18.1)	
6	東2住	深鉢	7.5YR6/6 橙	密	やや軟	底部と体部1/2欠損	16.3		(19.8)	
7	東2住	深鉢	7.5YR5/4 にぶい赤褐	やや密	やや良好	ほぼ完形	16.5	8.6	17.8	
8	東2住	深鉢	5YR5/6 明赤褐	やや密	やや良好	口縁～体部1/4欠損	21.2	11.4	25.6	
9	東3住	ミニチュア土器	2.5YR4/6 赤褐	やや密	やや軟	底部完存、体部1/2残存	(3.4)	3.2	2.5	
10	東3住	ミニチュア土器	10YR7/4 にぶい橙	密	良好	ほぼ完形	7.8	(3.4)	3.3	
11	東3住	深鉢	10YR4/2 灰黄褐	やや密	良好	体部下半～底部欠損	30.4		(32.4)	
12	東3住	深鉢	2.5YR4/3 にぶい赤褐	やや密	良好	口縁～体部1/3欠損	20.5	12.1	33.7	
13	東3住	深鉢	5YR6/4 にぶい橙	やや密	良好	体部下半～底部欠損	21.6		(25.8)	
14	東5住	深鉢	7.5YR5/6 明赤褐	やや密	やや軟	口縁部1/4欠損	27.4	12.4	34.0	
15	東5住	深鉢	5YR6/6 橙	やや密	やや軟	胴部下半以下欠損	22.1		(24.4)	
16	東5住	深鉢	5YR5/4 にぶい赤褐	やや密	やや軟	胴部～底部1/2残存	9.1		(17.7)	
17	東5住	深鉢	7.5YR4/3 褐	密	良好	胴部～底部残存	8.0		(10.5)	
18	東5住	深鉢	5YR5/6 明赤褐	やや密	やや良好	底部の一部欠損	22.1	34.3	(10.3)	
19	東5住	深鉢	7.5YR4/3 褐	やや密	やや良好	胴部のみ残存			(18.3)	
20	東5住	小型鉢	2.5YR4/6 赤褐	やや密	良好	2/3残存	(13.2)	7.2	7.6	
21	東5住	深鉢	5YR5/6 橙	密	良好	底部以外ほぼ完存	11.4		(17.7)	
22	東5住	深鉢	7.5YR5/4 にぶい褐	密	良好	口縁～体部上半残存	17.3		(11.6)	
23	東6住	深鉢	10YR5/3 にぶい黄褐	密	良好	体部下半以下欠損	12.8		(15.4)	
24	東7住	有孔鉢付	5YR5/4 にぶい赤褐	やや密	良好	口縁～体部、大半欠損	(9.9)	3.1	8.7	
25	東7住	深鉢	7.5YR5/3 にぶい褐	密	良好	口縁部1/10残存	(39.6)		(15.3)	
26	東7住	小型深鉢	5YR4/6 赤褐	密	良好	底部のみ欠損	11.3		(12.1)	
27	東7住	深鉢	7.5YR6/6 橙	密	精良	良好	体部～底部1/2残存	9.0		(17.8)
28	東7住	深鉢	5YR4/4 にぶい赤褐	密	良好	体部下半2/3、底部残存	10.0		(18.2)	
29	東7住	深鉢	5YR6/6 橙	密	良好	口縁～体部1/4欠損	13.4	29.4	9.2	
30	東7住	深鉢	7.5YR5/4 にぶい褐	やや密	やや良好	口縁～体部1/2欠損	(20.6)	10.7	42.1	
31	東8住	深鉢	7.5YR6/6 橙	やや密	やや軟	胴部のみ残存			(22.5)	
32	東10住	深鉢	7.5YR6/6 橙	密	やや良好	胴部のみ残存			(22.4)	
33	東10住	深鉢	5YR5/4 にぶい赤褐	やや密	やや良好	把手半欠損	17.2	12.1	(35.7)	
34	西1住	深鉢	10YR5/3 にぶい黄褐	密	良好	胴部のみ残存			(17.0)	
35	西2住	深鉢	7.5YR4/3 褐	やや密	良好	口縁～胴部下半1/4欠損	22.8	13.7	40.9	
36	西2住	深鉢	7.5YR6/4 にぶい橙	密	やや良好	ほぼ完形	28.0	17.0	37.8	
37	西2住	深鉢	5YR5/4 にぶい赤褐	やや密	やや良好	口縁～体部2/3欠損	(18.6)	9.2	28.4	
38	西2住	深鉢	10YR6/4 にぶい黄褐	密	良好堅敏	体部～底部完存		12.6	(22.5)	
39	西3住	深鉢	10YR6/4 にぶい黄褐	やや密	良好	底部欠損	14.9		(16.5)	
40	西3住	深鉢	5YR6/6 橙	やや密	良好	体部下半～底部残存		6.0	(11.1)	
41	西4住	深鉢	10YR5/3 にぶい黄褐	密	良好	体部下半以下欠損	19.4		(19.4)	
42	西6住	深鉢	2.5Y5/2 暗灰黃	密	良好堅敏	口縁～頸部1/3残存	(15.9)		(6.9)	
43	西6住	深鉢	7.5YR5/4 にぶい褐	やや密	やや良好	口縁～体部5/6残存	19.6		(12.4)	
44	西6住	深鉢	7.5YR5/4 にぶい褐	やや密	やや良好	口1/4・体1/3・底欠損	14.6		(21.9)	
45	西6住	深鉢	5YR5/3 にぶい赤褐	密	良好	所々欠損する	(14.5)	6.9	20.5	
46	西6住	深鉢	7.5YR6/6 にぶい橙	やや粗	良好	完形	11.6	5.3	18.0	
47	西6住	有孔鉢付	5YR5/4 にぶい赤褐	密	良好	器形の1/2欠損	(8.2)	5.3	13.0	
48	西7住	腹面把手付	2.5Y3/1 黒褐	密	良好堅敏	1/3残存	(10.4)		(13.2)	
49	西8住	深鉢	7.5YR5/6 明赤褐	密	良好	口縁2/3、体部上半残存	17.4		(13.9)	
50	西8住	浅鉢	10YR5/3 にぶい黄褐	やや密	やや良好	ほぼ完形	18.6	7.2	14.9	
51	西8住	深鉢	7.5YR6/4 にぶい橙	密	良好	口縁部の大半欠損	(28.8)	13.3	55.2	
52	西8住	台付鉢	7.5YR6/6 橙	密	良好堅敏	体部の一部欠損	13.6	8.1	20.0	

No	出土遺構	器種	色調	胎土	焼成	残存率	法量(cm)			
							口径	底径	器高	
53	西8住	深鉢	10YR4/2 灰黄褐	密	やや良好	体部中半以下欠損	20.6		(24.7)	
54	西8住	ミニチュア土器	2,5Y5/2 暗灰黄	密	良好	完形	3.9	1.7	3.4	
55	西8住	深鉢	7,5YR6/4 にぶい橙	密	精良	底部5/6欠損	18.4	9.2	30.7	
56	西8住	深鉢	7,5YR5/4 にぶい梅	密	良好	体部・底部の一部欠損	12.3	9.1	18.3	
57	西12住	深鉢	10YR6/6 明黄褐	やや密	やや良好	口縁・体部の一部欠損	40.2	7.0	46.2	
58	西12住	深鉢	10YR6/3 にぶい黄褐	密	良好	体部下半以下欠損	16.9		(21.0)	
59	西13住	深鉢	2,5Y5/2 暗灰黄	密	良好堅致	体部のみ残存			(29.1)	
60	西15住	深鉢	7,5YR5/4 にぶい梅	密	精良	良好	体部以下欠損	15.2		(11.1)
61	西15住	深鉢	5YR5/3 にぶい赤褐	密	良好堅致	体部以下欠損	18.1		(13.5)	
62	西15住	深鉢	10YR6/4 にぶい黄褐	やや密	良好	ほぼ完形	31.2	10.1	58.0	
63	西16住	深鉢	2,5Y4/2 暗灰黄	密	良好堅致	体部下半以下欠損	25.2		(25.7)	
64	西16住	深鉢	7,5YR5/3 にぶい梅	密	良好堅致	体部下半以下欠損	26.3		(19.3)	
65	西18住	深鉢	7,5YR6/4 にぶい梅	やや密	良好	体部のみ残存			(38.1)	
66	西18住	深鉢	5YR4/6 赤褐	やや粗	やや良好	口縁1/4、体部1/2欠損	(15.6)	7.6	32.1	
67	西21住	三亘広口盃	10YR5/3 にぶい黄褐	密	良好	口縁1/2、体部以下欠損	(11.9)		(14.6)	
68	西20住	深鉢	10YR5/3 にぶい黄褐	やや密	やや軟	口縁～体部上半残存	29.1		(13.5)	
69	西22住	深鉢	10YR6/4 にぶい黄褐	やや密	やや良好	口縁・胴部ののみ残存			(29.6)	
70	西21住	深鉢	5YR5/4 にぶい赤褐	やや密	やや軟	口縁と体部2/3欠損		9.3	(21.7)	
71	西21住	深鉢	7,5YR7/4 にぶい梅	密	精良	良好堅致	口縁～体部2/3欠損	(16.8)	8.3	20.9
72	西22住	深鉢	7,5YR5/3 にぶい梅	やや密	やや良好	頭部2/3、体部1/3残存			(13.7)	
73	西22住	深鉢	2,5Y5/4 黄褐	やや密	良好	口唇の大半、体部以下欠			(41.7)	
74	西22住	深鉢	10YR7/4 にぶい黄褐	やや密	良好	口縁～体部1/2残存	(15.2)		(17.6)	
75	西22住	小型鉢	10YR5/4 にぶい赤褐	密	良好堅致	完形		8.6	4.7	5.4
76	西22住	小型鉢	2,5YR6/4 にぶい梅	やや密	良好	口縁部1/2欠損	(8.5)	11.4	7.2	
77	西23住	深鉢	10YR7/2 にぶい黄褐	密	やや良好	ほぼ完形	33.5	8.2	49.3	
78	西24住	深鉢	10YR6/4 にぶい黄褐	密	やや良好	口縁・体部下半1/2残存	(20.2)		(27.2)	
79	西24住	深鉢	2,5YR6/4 にぶい赤褐	密	良好	体部下半～底部残存		5.3	(11.1)	
80	西24住	深鉢	10YR5/2 灰黄褐	やや密	良好	把手、底部欠損	16.2		(22.5)	
81	西23住	深鉢	10YR5/4 にぶい黄褐	密	良好	口縁部1/2欠損	(25.5)		(26.8)	
82	西23住	深鉢	10YR6/3 にぶい黄褐	密	良好堅致	体部下半以下欠損	30.8		(25.5)	
83	西26住	深鉢	10YR6/4 にぶい黄褐	やや密	良好	体部下半以下欠損	42.0		(38.1)	
84	西26住	深鉢	5YR5/3 にぶい赤褐	やや密	やや良好	胴部中半以下欠損	39.5		(37.3)	
85	西27住	深鉢	7,5YR6/2 灰	やや粗	やや良好	口唇部大半、底部欠損	(24.0)		(35.0)	
86	西28住	深鉢	2,5Y6/3 にぶい黄	密	良好	口縁～体部5/6残存	20.9		(17.1)	
87	西28住	小型壺	2,5YR6/2 灰黄	やや密	良好堅致	ほぼ完形	9.2	6.6	(14.6)	
88	西28住	深鉢	10YR6/4 にぶい黄褐	密	良好	体部以下欠損	35.1		(26.4)	
89	西28住	深鉢	10YR6/2 灰黄褐	密	やや良好	底部欠損	21.5		(25.1)	
90	西29住	深鉢	2,5Y6/4 にぶい黄	やや密	良好	口縁部2/3欠損	34.6	11.4	51.0	
91	西30住	深鉢	7,5YR5/2 灰	やや粗	やや良好	体部以下欠損	20.8		(14.5)	
92	西30住	深鉢	10YR6/4 にぶい黄褐	密	良好	口唇部欠損		7.8	(30.2)	
93	西30住	深鉢	7,5YR6/4 にぶい梅	密	良好堅致	体部～底部残存		6.5	(18.2)	
94	西32住	深鉢	7,5YR6/3 にぶい梅	やや密	良好	口縁・体部の一部欠損	14.1	4.9	(15.9)	
95	西17住	塊 黒色A	7,5YR7/6 梅	密	良好	完形	14.4	6.3	5.2	
96	西17住	塊 黒色A	7,5YR6/6 梅	密	やや良好	1/3残存	(13.8)	(6.8)	6.6	
97	西17住	塊 黒色A	10YR7/4 にぶい梅	やや密	やや良好	ほぼ完形	11.9	5.9	4.8	
98	西17住	塊 黒色A	7,5YR6/4 にぶい梅	密	良好	体部1/4欠損	15.1	6.4	5.5	
99	西17住	塊 黒色B	7,5YR6/4 にぶい梅	密	良好	1/2欠損	15.4	6.8	5.5	
100	西17住	塊 黒色A	7,5YR5/4 にぶい梅	密	良好	1/3残存	(15.6)	(7.3)	6.1	
101	西17住	塊 黒色A	7,5YR6/6 梅	やや密	良好	体部1/4欠損	13.8	5.7	5.0	
102	西17住	皿 灰釉	5Y6/1 灰	密	精良	良好堅致	1/8残存	(15.4)	(6.7)	4.3
103	西17住	皿 灰釉	7,5YR6/6 梅	密	良好	口縁～体部1/6残存	(21.0)		(15.6)	
104	西17住	小型壺	7,5YR6/4 にぶい梅	密	良好	口縁～体部1/3欠損	13.4	6.7	14.0	
105	西17住	壺 須恵器	5Y5/2 灰オリーブ	精良	良好堅致	ほぼ完形	9.8	6.8	15.8	
106	西17住	小瓶 灰釉	N7/0 灰白	密	精良	良好堅致	完形	4.3	4.9	10.1

## 淀の内遺跡 出土石器一覧表

( ) は残存値

No.	報告書番	出土遺構	注記	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	石材	欠損状況	備考
1	1	東1住	E1住4	石鎌	21.5	18	6	0.5	黒曜石	完形	不整形
2	29	東1住	E1住5	石匙	37.5	45	10.5	20	チャート	完形	
3		東1住	E1住4	磨石	111	86.5	38.5	500	安山岩	完形	
4		東1住	E1住炉中	石鎌	(15.5)	7	2	(0.1)	黒曜石	1/2欠	
5		東2住	E2住	石鎌	(29)	16	9	(80)	チャート	頭部欠	
6		東2住	E2住 S-2	打製石斧	(105)	(60)	26	(169)	砂岩	刃部欠	
7		東2住	E2住	凹石	(72.5)	(78)	42.5	(330)	安山岩	1/2欠	1-0-0-0
8		東2住	E2住 S-3	凹石	160.5	107	49	1187	砂岩	完形	1-0-0-0
9		東2住	E2住	凹石	147	71	31	441	砂岩	完形	
10		東2住	E2住 S-1	磨石	(72)	84	54.5	(470)	砂岩	1/2欠	
11		東2住	E2住	砥石	(92)	66	49	(480)	硬質砂岩	1/2欠	
12		東2住	E2住	打製石斧	(76.5)	89	34.5	(155)	硬質砂岩	頭部欠	未成品
13	2	東3住	E3住炉中	石鎌	20	17.5	3	1	黒曜石	完形	
14	3	東3住	E3住6Pit	石鎌	23.5	15	5	(1)	黒曜石	片脚欠	
15		東3住	E3住4	石鎌	23.5	(19.5)	(4.5)	(2)	黒曜石	片脚欠	
16	20	東3住	E3住	石鎌	30	12	7.5	2.5	黒曜石	完形	
17		東3住	E3住11Pit	石匙	42	(49)	5.5	(10)	頁岩	側刃欠	
18		東3住	E3住1	打製石斧	(59)	42.5	(15)	(55)	砂岩	頭部欠	
19		東3住	E3住	敲打器	136	60	43.5	485	砂岩	完形	
20	19	東4住	E4住1	石鎌	(26)	27.5	6	(4)	黒曜石	先端欠	
21		東4住	E4住1	石鎌	(21.5)	(19)	3.5	(0.5)	黒曜石	片脚欠	
22	4	東4住	E4住4	石鎌	23	17	3.5	0.5	黒曜石	完形	
23		東4住	E4住2	石鎌	19	(10.5)	2	(0.2)	黒曜石	片脚欠	
24	5	東4住	E4住	石鎌	(16)	19	3.5	(1)	黒曜石	先端欠	
25		東4住	E4住	石鎌	20	(16)	3	(0.5)	黒曜石	片脚欠	
26		東4住	E4住1	削器	(34)	17	7	(1.5)	黒曜石	両端欠	
27	30	東4住	E4住1	石匙	30	55.5	7	9.5		完形	
28	6	東5住	E5住	石鎌	20.5	(19.5)	5	(1)	黒曜石	片脚欠	
29	7	東5住	E5住2	石鎌	16	11.5	2	0.1	頁岩	完形	
30	8	東5住	E5住	石鎌	(21.5)	15	4	(1.5)	チャート	先端欠	
31		東5住	E5住2	石鎌	29.5	(16)	4	(1)	黒曜石	片脚欠	
32		東5住	E5住1	石鎌	28	18	6	(1)	黒曜石	片脚欠	
33		東5住	E5住1	削器	41	33	12.5	18	チャート	完形	
34		東5住	E5住	削器	(27)	66	9	18	チャート	2/3欠	
35		東5住	E5住2	捶器	24	31	6.5	5	黒曜石	完形	
36		東5住	E5住4	打製石斧	129.5	56	12.5	125	粘板岩	完形	
37	55	東5住	E5住3	打製石斧	118.5	55	16	150	緑泥岩	完形	
38	56	東5住	E5住4	打製石斧	101.5	51	13.5	75	粘板岩	完形	
39		東5住	E5住 S-8	打製石斧	(94)	(47)	17.5	92	珪質粘板岩	刃部欠	
40		東5住	E5住 S-7	打製石斧	(69)	60.5	15	100	硬質砂岩	頭部欠	
41	86	東5住	E5住3	凹石	84.5	71	32.5	200	安山岩	完形	1-1-0-0
42		東5住	E5住 S-1	凹石	79	68	39.5	(195)	硬質砂岩	1/4欠	
43		東5住	E5住3	磁石	(71.5)	(43.3)	28	139	砂岩	1/2欠	
44	47	東5住	E5住2	小型磨製石斧	45	26.5	4	9	緑泥岩	完形	
45	9	東6住	E6住1	石鎌	19	13.5	3	1	チャート	完形	
46	33	東6住	E6住5Pit	石匙	28	17	6.5	4	黒曜石	完形	
47		東6住	E6住2	石鎌	35	26	7.5	6	チャート	完形	
48	21	東6住	E6住9Pit	石鎌	31.5	15.5	8.5	4	頁岩	完形	
49	45	東6住	E6住	削器	(34)	25	6	(6)	黒曜石	頭部欠	
50	57	東6住	E6住2	打製石斧	120	56	17	150	粘板岩	完形	
51	58	東6住	E6住1	打製石斧	117	53.5	15	125	粘板岩	完形	
52		東6住	E6住2	打製石斧	90	37	9	40	粘板岩	完形	
53		東6住	E6住4	打製石斧	(109)	44	13.5	(70)	硬質砂岩	刃部欠	
54		東6住	E6住4	打製石斧	121	65.5	18	185	珪質砂岩	完形	未成品
55		東6住	E6住3	打製石斧	(61)	(48)	17	(55)	粘板岩	刃部欠	
56		東6住	E6住4	打製石斧	75	53	20	90	蛇紋岩	完形	
57		東6住	E6住4	打製石斧	(89.5)	(30)	16.5	(50)	粘板岩	2/3欠	

No.	軸色番号	出土調査	注記	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	石材	欠損状況	備考
58	76	東6住	E6住9Pit	磨製石斧	(86)	53.5	21	(200)	蛇紋岩	頭部欠	
59	78	東6住	E6住4	磨製石斧	(117)	54	36.5	(335)	珪質砂岩	刃部欠	
60	87	東6住	E6住4	凹石	(120)	53.5	41	(365)	砂岩	1/3欠	3-2-1-1
61	88	東6住	E6住4	凹石	98.5	86	39.5	400	花崗岩	完形	2-2-0-0
62		東6住	E6住No5	凹石	86.5	63.5	42	334	花崗岩	完形	2-1-0-0
63		東6住	E6住2	磨石	74	62.5	36	310	砂岩	完形	
64		東6住	E6住9Pit	ヒスイ剝片	8	26	8	10	ヒスイ		
65		東6住	E6住Pit	ヒスイ剝片	80	50	36	245	ヒスイ		
66		東6住	E6住1	ヒスイ剝片	29.5	21	20	20	ヒスイ		
67		東6住	E6住11Pit	ヒスイ剝片	69	34	20	55	ヒスイ		わざかに加工あり
68		東6住	E6住	ヒスイ剝片	33	30	25	40	ヒスイ		
69		東6住	E6住	ヒスイ剝片	59	37	9	21	ヒスイ		
70		東6住	E6住	ヒスイ剝片	42	41.5	17.5	55	ヒスイ		
71		東6住	E6住	ヒスイ剝片	43	29	12.5	21	ヒスイ		
72		東6住	E6住	ヒスイ原石	54.5	48	19.5	77	ヒスイ		
73		東6住	E6住	ヒスイ原石	51	47.5	31.5	116	ヒスイ		
74		東6住	E6住23Pit	ヒスイ原石	47	37	35	78	ヒスイ		
75	98	東6住	E6住	石錐							炉石に転用
76		東7住	E7住1	石錐	(32)	8	7.5	(1)	黒曜石	先端欠	
77	89	東7住	E7住	凹石	120.5	66	42	359	砂岩	完形	1-1-0-0
78	41	東7住	E7住1	石刀	137	35	8.5	45	粘板岩	完形	
79	80	東8住	E8住1	磨製石斧	(98)	49.5	30	271	緑泥岩	頭部欠	
80	81	東10住	E6住No.3	磨製石斧	98	48	24	163	蛇紋岩	完形	
81	10	西2住	W2住	石錐	21	17	3	1	黒曜石	完形	
82		西2住	W2住	石錐	13	12	2	0.5	黒曜石	完形	
83		西2住	W2住炉中	打製石斧	(68)	(56.5)	19	(100)	粘板岩	頭・剣欠	
84		西2住	W2住P4	打製石斧	(84.5)	51.5	25.5	(110)	粘板岩	刃部欠	
85		西2住	W2住S-10	打製石斧	(65.5)	38	13.5	(52)	粘板岩	剣部欠	
86		西2住	W2住1	打製石斧	(81)	(34.5)	(9)	(30)	粘板岩	頭・刃欠	
87		西2住	W2住Pit	打製石斧	(75)	39.5	15	(45)	粘板岩	刃部欠	
88	48	西2住	W2住③	小型磨製石斧	(27.5)	23.5	9	(9)	蛇紋岩	頭・刃欠	
89	17	西3住	W3住	石錐	(34)	23	4.5	(4)	黒曜石	先端欠	
90	11	西3住	W3住	石錐	28.5	15	3.5	1	黒曜石	完形	
91	12	西3住	W3住	石錐	27	14	2.5	1	チャート	完形	
92	16	西3住	W3住Pit	石錐	33	19	4.5	3	チャート	完形	
93	22	西3住	W3住	石錐	44	10	7	3	黒曜石	完形	
94	61	西3住	W3住S-3	打製石斧	168	59	24.5	250	珪質砂岩	完形	
95	59	西3住	W3住S-5	打製石斧	129	52	28	215	粘板岩	完形	風化著しい
96		西3住	W3住	打製石斧	140	58.5	14.5	146	粘板岩	完形	風化著しい
97		西3住	W3住S-1	打製石斧	137.5	43.0	22.5	155	粘板岩	完形	
98		西3住	W3住2	打製石斧	104.5	44.5	20	95	粘板岩	完形	
99		西3住	W3住2	打製石斧	112	38	17.5	86	粘板岩	完形	
100		西3住	W3住S-4	打製石斧	136	50.5	18	185	硬質砂岩	完形	未成品
101	49	西3住	W3住1	小型磨製石斧	43	18	7.5	11	蛇紋岩	完形	
102	50	西3住	W3住Pit中	小型磨製石斧	66.5	19	9	21	蛇紋岩	完形	
103	93	西3住	W3住S-6	凹石	105	79	38	493	砂岩	完形	3-2-0-0
104	90	西3住	W3住S-7	凹石	90	75.5	42.5	429	安山岩	完形	1-1-0-0
105		西3住	W3住1	凹石	83.5	75.5	43	378	花崗岩	完形	1-1-0-0
106		西3住	W3住2	凹石	77.5	61	34.5	238	花崗岩	完形	3-1-1-1
107		西3住	W3住	磨石	76.5	59.5	22.5	153	砂岩	完形	
108	23	西4住	W4住2	石錐	39.5	21	6.5	4	チャート	完形	
109		西5住	W5住2	打製石斧	103	76	21	156	粘板岩	完形	
110	18	西6住	W6住1	石錐	37	19	9	2	チャート	完形	
111		西6住	W6住	打製石斧	(73.5)	(56.5)	14.5	(75)	粘板岩	頭・刃欠	
112		西6住	W6住S-4	打製石斧	(85)	44.5	18.5	(90)	粘板岩	刃・剣欠	風化著しい
113		西6住	W6住	打製石斧	(66.5)	(60.5)	(18)	(97)	粘板岩	頭・刃欠	
114		西6住	W6住	打製石斧	(79)	49	18	(82)	緑泥岩	刃・剣欠	

No.	報告書No.	出土場所	注記	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	石材	欠損状況	備考
115	94	西6住	W6住	凹石	(82)	44	31.5	(164)	砂岩	1/2欠	2-1-0-0
116		西6住	W6住	凹石	99	96.5	42	470	硬質砂岩	完形	1-0-0-0
117	42	西6住	W6住	石刀	126.5	32.5	10	52	蛇紋岩	完形	
118		西6住	W6住	ヒスイ剥片	61	30	12	50	ヒスイ		
119	13	西8住	W8住4	石鍬	(19)	14	3.5	(1)	黒曜石	片脚欠	
120	31	西8住	W8住	石匙	40.5	45.5	8	9	チャート	完形	
121	32	西8住	W8住4	石匙	53.5	53	10.5	30	硬質砂岩	完形	
122										欠番	
123	34	西8住	W8住2pit	石匙	64.5	29	9.5	23	チャート	完形	
124	74	西8住	W8住S-1	打製石斧	223.5	80	25	492	粘板岩	完形	
125	60	西8住	W8住P15	打製石斧	139	50	18	118	粘板岩	完形	
126	62	西8住	W8住3	打製石斧	(119)	46	13.5	(105)	珪質砂岩	刃欠	
127	63	西8住	W8住	打製石斧	(116)	56	18	(155)	硬質砂岩	頭欠	
128		西8住	W8住	打製石斧	112	51	17	129	粘板岩	完形	
129		西8住	W8住S-8	打製石斧	128	53	20.5	165	粘板岩	完形	
130		西8住	W8住S-5	打製石斧	(95.5)	54.5	32	(210)	粘板岩	頭・刃欠	被熱
131		西8住	W8住P-10	打製石斧	103	51	23.5	144	硬質砂岩	完形	
132		西8住	W8住	打製石斧	101	66.5	31	220	硬質砂岩	完形	未成品
133	51	西8住	W8住S-3	小型磨製石斧	49.5	26	7	19	蛇紋岩	完形	
134		西8住	W8住S-2	凹石	115	99.5	30.5	429	砂岩	完形	2-2-0-0
135		西8住	W8住	凹石	143.5	50.5	33	288	砂岩	完形	
136		西8住	W8住1	ヒスイ剥片	45	35	18	46	ヒスイ		
137		西8住	W8住1	ヒスイ剥片	38	19	13	15	ヒスイ		
138		西8住	W8住1	ヒスイ剥片	38	20	6	8	ヒスイ		
139		西8住	W8住1	ヒスイ剥片	33	22	10	9	ヒスイ		
140		西8住	W8住1	ヒスイ剥片	20	14	6	3	ヒスイ		
141		西8住	W8住P-10	ヒスイ剥片	53	33	13	36	ヒスイ		
142		西10住	W10住	石鍬	21.5	16.5	4	1	チャート	完形	
143		西10住	W10住	凹石	85	64	38	282	花崗岩	完形	3-1-1-1
144		西10住	W10住	凹石	81.5	(58.5)	32	(193)	安山岩	1/3欠	1-0-0-0
145		西11住	W11住4	石鍬	(18)	(11)	2	(0.5)	黒曜石	脚欠	
146		西11住	W11住4	石鍬	(18.5)	11	2.5	(0.6)	黒曜石	脚欠	
147		西11住	W11住4	削器	49	33	8.5	12	チャート	完形	
148	68	西11住	W11住P-5	打製石斧	110	51	12	63	粘板岩	完形	
149		西11住	W11住	打製石斧	(73)	53	16	(60)	粘板岩	頭・刃欠	
150		西11住	W11住3	石匙	88	67.5	14	80	硬質砂岩	完形	
151		西11住	W11住	凹石	168.5	40	39	410	砂岩	完形	1-0-0-0
152		西11住	W11住2	凹石	(108)	55.5	44.5	(388)	硬質砂岩	1/2欠	0-1-0-0
153		西11住	W11住S-1	凹石	95	70	53	485	花崗岩	完形	1-1-0-0
154	65	西12住	W12住芦中	打製石斧	131	43.5	17	105	硬質砂岩	完形	
155		西12住	W12住	打製石斧	130	53.5	23.5	205	硬質砂岩	完形	
156		西12住	W12住	打製石斧	110	51	18	136	綠泥岩	完形	
157		西12住	W12住	打製石斧	106	46	10.5	60	珪質板岩	完形	
158		西12住	W12住	打製石斧	97	42.5	16	85	粘板岩	完形	
159		西12住	W12住	打製石斧	130.5	50.5	18	154.0	綠泥岩	完形	風化著しい
160		西12住	W12住	打製石斧	106.5	53.5	18	100	珪質板岩	完形	
161		西12住	W12住	打製石斧	(91.5)	73	28	(230)	粘板岩	頭欠	風化著しい
162		西12住	W12住	打製石斧	91.5	44	11.5	(65)	砂岩	完形	
163		西12住	W12住	打製石斧	(81.5)	40.5	66	(71)	粘板岩	頭・剝欠	
164		西12	W12住	打製石斧	(94.5)	43	10	(48)	砂岩	頭欠	
165		西12住	W12住	打製石斧	(94)	42	16.5	(65)	粘板岩	刃欠	
166		西12住	W12住	打製石斧	(68)	(46.5)	(20)	(86)	粘板岩	頭・刃欠	
167		西12住	W12住	打製石斧	(78)	45	(18)	72	硬質砂岩	頭・刃欠	
168		西12住	W12住	打製石斧	(65)	39	22	(67)	粘板岩	頭・刃欠	
169		西12住	W12住	打製石斧	(59.5)	(36)	18	(36)	粘板岩	頭・刃欠	
170	91	西12住	W12住	打製石斧	(57.5)	(50)	(16)	(56)	綠泥岩	頭・刃欠	風化著しい
171		西12住	W12住	凹石	88	77	43	385	花崗岩	完形	2-1-0-0

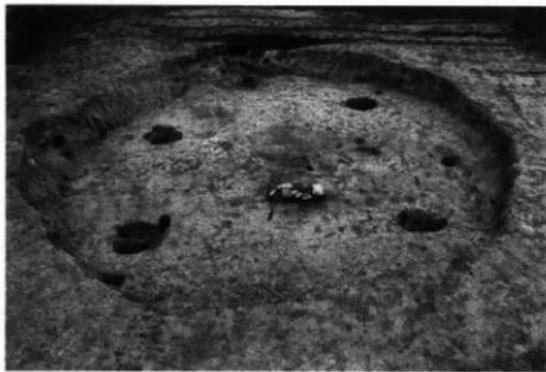
No.	報告番号	出土遺構	注記	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	石材	欠損状況	備考
172		西12住	W12住	凹石	119.5	87	45.5	642	砂岩	完形	
173		西12住	W12住	凹石	(59)	92	58	(336)	砂岩	1/2欠	1-0-0-0
174		西12住	W12住	凹石	105	(87)	40	(401)	砂岩	1/3欠	3-0-0-0
175		西12住	W12住	凹石	(100)	45	27.5	(210)	砂岩	1/4欠	1-0-0-0
176		西12住	W12住	凹石	142	101	67	(1302)	砂岩	完形	1-1-0-0
177		西12住	W12住	凹石	199.5	129	105	未測	硬質砂岩	1/3欠	4-0-0-2
178		西12住	W12住	砥石	211.5	67	34.5	870	硬質砂岩	完形	
179		西12住	W12住	砥石	86	35	16	79	砂岩	完形	
180	14	西15住	W15住	石鏃	21	14	4	1	黒曜石	完形	
181	43	西15住	W15住	削器	52.5	19	12	11	黒曜石	完形	
182	44	西15住	W15住	削器	47	28	7.5	9	黒曜石	完形	
183		西15住	W15住	削器	(38)	35	5	(10)	チャート	先端欠	
184	27	西15住	W15住	搔器	15.5	15	3	1	黒曜石	完形	
185	37	西15住	W15住 S-5	石匙	57	57.5	13.5	40	粘板岩	完形	風化著しい
186	66	西15住	W15住 S-2	打製石斧	130	47.5	22	158	粘板岩	完形	風化著しい
187		西15住	W15住 S-9	打製石斧	109	45.5	16	95	粘板岩	完形	被熱
188		西15住	W15住3	打製石斧	(74)	39	21	(60)	硬質粘板岩	剣・刃欠	被熱
189		西15住	W15住	凹石	147	59	35	389	砂岩	完形	2-2-0-0
190	92	西15住	W15住 S-6	凹石	156	69.5	55	(710)	砂岩	完形	4-2-0-0
191		西15住	W15住	凹石	136.5	44	29.5	305	硬質砂岩	完形	1-0-0-0
192		西15住	W15住	磨石	92	89	69.5	725	砂岩	完形	
193		西15住	W15住	敲打器	96	71.5	29	230	砂岩	完形	
194	24	西18住	W18住	石鑿	(23)	16	3	未測	黒曜石	先端欠	
195	28	西18住	W18住	搔器	22	16	8	未測	黒曜石	完形	
196	67	西18住	W18住4	打製石斧	106	42	15	90	粘板岩	完形	
197		西18住	W18住	打製石斧	98	46	16.5	96	粘板岩	完形	
198		西18住	W18住4	打製石斧	101	47.5	12	87	綠泥岩	完形	
199		西18住	W18住4	打製石斧	107	45.5	11.5	76	粘板岩	完形	
200		西18住	W18住	打製石斧	107.5	38	16.5	90	粘板岩	完形	
201		西18住	W18住1	打製石斧	108	45	20	136	砂岩	完形	
202		西18住	W18住	打製石斧	(78)	39	14.5	(64)	砂岩	刃欠	
203		西18住	W18住1	打製石斧	(91.5)	42	16	(65)	粘板岩	刃欠	
204		西18住	W18住1	打製石斧	(47)	(43)	(10)	(25)	砂岩	崩・刃欠	
205		西18住	W18住1	打製石斧	(60)	(30)	(11)	(23)	粘板岩	崩・刃欠	
206		西18住	W18住	凹石	115	91.5	35	865	安山岩	1/6欠	2-3-0-0
207		西18住	W18住 P1	凹石	143	64.5	31	(498)	硬質砂岩	完形	1-2-0-0
208		西19住	W19住10Pit	石鏃	(25)	15	4	1	チャート	先端刃欠	
209	69	西19住	W19住	打製石斧	94	44	14	50	硬質砂岩	完形	
210	64	西19住	W19住10Pit	打製石斧	158	50	17.5	141	粘板岩	完形	
211		西19住	W19住	打製石斧	143.5	52	20	136	砂岩	完形	
212		西19住	W19住4	打製石斧	(92)	(60)	19.5	(164)	粘板岩	崩・刃欠	
213	82	西19住	W19住 S-6	磨製石斧	111.5	31	32.5	193	蛇紋岩	完形	
214		西19住	W19住4	磨製石斧	(47)	42.5	28	(96)	蛇紋岩	5/6欠	
215		西19住	W19住	凹石	(91)	(65)	26	(245)	砂岩	両端欠	1-1-0-0
216	96	西19住	W19住4	石鑿	52	37.5	19	54	砂岩	完形	
217	95	西19住	W19住10Pit	石鑿	76	34	18.5	65	砂岩	完形	
218	35	西20住	W20住	石匙	(50)	(44)	9	(20)	チャート	先端欠	
219	36	西20住	W20住	石匙	63	40	10	21	頁岩	完形	
220		西20住	W20住2	石匙	49	54.5	10.5	20	チャート	完形	
221	79	西20住	W20住3	磨製石斧	156.5	57.5	32	350	珪質粘板岩	完形	
222		西20住	W20住	打製石斧	(102)	35.5	16	(90)	粘板岩	刃欠	
223		西20住	W20住	打製石斧	99	55	21.5	166	硬質砂岩	完形	
224		西20住	W20住3	打製石斧	(55)	33	18	(40)	珪質粘板岩	崩・刃欠	
225		西20住	W20住3	打製石斧	(105)	55	16	(90)	砂岩	刃欠	
226		西20住	W20住3	打製石斧	(83)	47	18.5	(95)	綠泥岩	刃欠	
227		西20住	W20住3	打製石斧	(88.5)	52	11	71	砂岩	頭欠	
228		西20住	W20住	凹石	94	73	36	350	砂岩	完形	2-1-0-0

No.	報告書No.	出土遺構	注記	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	石材	欠損状況	備考
229		西20住	W20住	横刃型石器	78	84	27	170	チャート	完形	
230		西20住	W20住	磨石	72	57.5	45	264	砂岩	完形	
231		西20住	W20住	磨石	97	54.5	52.5	380	砂岩	完形	
232		西20住	W20住	敲打器	111.5	91	40	426	硬質砂岩	完形	
233											欠番
234		西20住	W20住	ヒスイ剝片	73	37	15	59	ヒスイ		
235	38	西21住	W21住	石匙	56	33	6.5	16	チャート	完形	
236	40	西21住	W21住	石匙	79.5	34	8	20	硬質砂岩	完形	
237		西21住	W21住	打製石斧	(91)	76	17.5	110	砂岩	頭欠	
238		西21住	W21住	打製石斧	120	43	8	50	蛇紋岩	完形	
239		西21住	W21住	凹石	93	71	42	344	安山岩	完形	1-1-0-0
240		西21住	W21住	凹石	134.5	132	92	2170	砂岩	完形	8-0-0-0
241		西22住	W22住	石鍬	23.5	15	3	1.2	黒曜石	完形	
242	46	西22住	W22住	石匙	35.5	48	8.5	9	頁岩	先端欠	
243		西22住	W22住	削器	49	39	8	17	チャート	完形	
244	70	西22住	W22住	打製石斧	128.5	36	9	53	硬質砂岩	完形	
245	71	西22住	W22住	打製石斧	112	54	18	116	粘板岩	完形	
246		西22住	W22住	打製石斧	119	53	14	99	粘板岩	完形	
247		西22住	W22住	打製石斧	(112)	45.5	17.5	(109)	緑泥岩	刃欠	
248		西22住	W22住	打製石斧	(129)	53	24.5	(215)	砂岩	刃欠	
249		西22住	W22住	打製石斧	(84)	(42)	24	(93)	緑泥岩	削・刃欠	
250		西22住	W22住	打製石斧	(76.5)	(33)	(11)	(36)	粘板岩	崩・刃欠	
251		西22住	W22住	凹石	115.5	77	61.5	709	砂岩	完形	1-0-0-0
252		西22住	W22住	凹石	104.5	90	53	625	砂岩	完形	1-0-0-0
253		西22住	W22住	凹石	(86)	113	93	(165)	砂岩	1/2欠	1-0-1-0
254		西22住	W22住	凹石	85.5	(37.5)	40.5	(165)	砂岩	1/3欠	1-0-0-0
255		西22住	W22住	凹石	(60.5)	(50)	26	(86)	砂岩	3/4欠	1-1-0-0
256	52	西22住	W22住 S-2	小型磨製石斧	62	28	6	21	蛇紋岩	完形	
257		西22住	W22住	砥石	152	51.5	42	508	硬質砂岩	完形	
258		西22住	W22住	砥石	(55.5)	40.5	38.5	174	硬質砂岩	3/4欠	
259		西23住	W23住4	石鍬	(20.5)	21	5.5	(1)	チャート	先端欠	
260		西23住	W23住4	石鍬	(17)	22	3	(1)	黒曜石	下半欠	
261		西23住	W23住4	打製石斧	167	70	25	356	粘板岩	完形	未成品
262		西23住	W23住3	打製石斧	88	56	9	60	粘板岩	完形	
263		西23住	W23住3	打製石斧	(79.5)	58	20.5	(117)	硬質砂岩	崩・刃欠	
264		西23住	W23住4	打製石斧	(88)	37.5	11.5	(45)	砂岩	刃欠	
265		西23住	W23住4	打製石斧	(59.5)	36.5	14	(49)	硬質砂岩	崩・刃欠	
266		西23住	W23住4	打製石斧	(47)	(36)	(9)	(17)	粘板岩	崩・刃欠	
267		西23住	W23住4	凹石	(69.5)	64	27.5	(184)	砂岩	1/2欠	1-2-0-0
268		西23住	W23住3	敲打器	80	66.5	26	269	砂岩	完形	
269		西23住	W23住4	砥石	188.5	68	35	609	硬質砂岩	完形	
270		西23住	W23住4	ヒスイ剝片	43	28.5	13	23	ヒスイ		
271	39	西24住	W24住	石匙	71	51	14.5	50	粘板岩	完形	
272		西24住	W24住	打製石斧	(90)	53	20	(114)	珪質粘板岩	頭欠	
273		西23住	W23住炉中	打製石斧	(40)	(56)	(13.5)	(36)	砂岩	頭・刃欠	
274		西24住	W24住	凹石	83	75	34	282	花崗岩	完形	1-1-0-0
275		西24住	W24住	凹石	123	101	42	810	砂岩	完形	3-2-0-0
276		西24住	W24住	凹石	(128)	42	31	(320)	砂岩	1/6欠	1-1-0-0
277		西24住	W24住炉中	凹石	(170)	67	34	(689)	砂岩	1/6欠	1-0-0-0
278		西25	W25住	打製石斧	(121)	43.5	20.5	(154)	粘板岩	頭欠	
279	25	西26住	W26住	石槍	(55.5)	32	8.5	16	黒曜石	茎欠	
280	85	西26住	W26住	磨製石斧	(93)	54	37	(353)	緑泥岩	頭・刃欠	
281		西26住	W26住	打製石斧	(43)	(51)	(17)	(53)	珪質粘板岩	頭・刃欠	
282		西27住	W27住	石鍬	22	16	5	1.2	チャート	完形	
283		西27住	W27住	打製石斧	(106)	48	13	(89)	粘板岩	頭欠	
284		西27住	W27住	打製石斧	(98)	61	25.5	(182)	粘板岩	頭・刃欠	
285		西27住	W27住	凹石	101	62	40	289	砂岩	完形	

No.	報告書名	出土遺構	注記	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	石材	欠損状況	備考
286		西27住	W27住	磨石	103.5	73	36	423	安山岩	完形	
287		西27住	W27住	磨石	104	74	58	583	安山岩	完形	
288	97	西27住	W27住1Pit	石棒	(149)	125	115.5	未測	花崗岩	茎欠	
289	26	西28住	W28住	石槍		(21)	(23.5)	6.5	(8)	先端欠	
290		西28住	W28住	石錐	(29.5)	9	8.5	(1.5)	黒曜石	先端欠	
291	84	西28住	W28住	打製石斧	93.5	54	17	81	珪質粘板岩	完形	
292		西28住	W28住	打製石斧	116	42	18	120	砂岩	完形	
293		西28住	W28住	打製石斧	107	56.5	13	83	砂岩	完形	
294		西28住	W28住	打製石斧	(78)	(51)	22	(90)	珪質粘板岩	肩・刃欠	
295		西28住	W28住	打製石斧	(87.5)	59	14	(94)	砂岩	肩・刃欠	
296		西28住	W28住	打製石斧	(57)	(41.5)	20	(63)	粘板岩	肩・刃欠	
297		西28住	W28住	打製石斧	(60)	(47)	(15.5)	(54)	粘板岩	肩・刃欠	
298	77	西28住	W28住	磨製石斧	(96.5)	56.5	35	(291)	綠泥岩	肩・刃欠	
299		西28住	W28住	凹石	86	71.5	40.5	340	砂岩	完形	2-0-0-0
300		西28住	W28住	凹石	155	(94)	55	(950)	砂岩	1/3欠	2-2-0-1
301		西28住	W28住	凹石	119	69	35.5	350	砂岩	完形	1-3-0-0
302		西28住	W28住	凹石	(96)	(65)	(41)	(211)	砂岩	1/2欠	
303		西28住	W28住	凹石	151	57	60.5	680	砂岩	完形	1-1-0-0
304		西28住	W28住	凹石	158	41	26	246	砂岩	完形	2-0-0-0
305		西28住	W28住	凹石	(90.5)	50.5	30	(189)	砂岩	1/2欠	1-1-0-0
306		西28住	W28住	砥石	222	65	27	575	砂岩	完形	
307		西28住	W28住	砥石	(117)	52.5	45	(425)	硬質砂岩	1/6欠	
308		西29住	W29住	打製石斧	(57)	(40)	(13)	(44)	硬質砂岩	肩・刃欠	
309		西29住	W29住	凹石	(122)	49	34.5	(321)	砂岩	1/6欠	
310	72	西30住	W30住4	打製石斧	132.5	41	23	179	砂岩	完形	
311		西30住	W30住1Pit	打製石斧	143	56	20.5	226	粘板岩	完形	
312		西30住	W30住	打製石斧	97.5	55.5	14.5	95	砂岩	完形	
313		西30住	W30住	打製石斧	114	47	12.5	77	珪質粘板岩	完形	
314		西30住	W30住	打製石斧	127	78	28.5	310	硬質砂岩	完形	
315		西30住	W30住	打製石斧	(87)	67	24	(130)	硬質砂岩	頸欠	
316		西30住	W30住	打製石斧	(82)	45.5	20	(96)	砂岩	肩・刃欠	
317		西30住	W30住4	打製石斧	(63)	49.5	12.5	(56)	粘板岩	頭・頸欠	
318		西30住	W30住	打製石斧	107	40	21	107	粘板岩	完形	
319	83	西30住	W30住	磨製石斧	(66.5)	(46)	(26)	(96)	綠泥岩	肩・刃欠	
320	53	西30住	W30住	小型磨製石斧	(43.5)	26	9	(21)	蛇紋岩	頭欠	
321		西30住	W30住	不明	(99.5)	33	24	(111)	不明	1/2欠	
322		西30住	W30住4	凹石	102.5	81	46	525	安山岩	完形	3-0-0-0
323		西30住	W30住4	凹石	81	71	36	285	砂岩	完形	1-1-0-0
324		西30住	W30住4	凹石	1035	84.5	35.5	445	砂岩	完形	2-2-0-0
325		西30住	W30住	凹石	91.5	63	39	359	花崗岩	完形	2-2-2-2
326		西30住	W30住	凹石	120	52	34.5	370	砂岩	完形	2-1-0-1
327		西30住	W30住	凹石	156.5	58	39	465	砂岩	完形	1-0-0-0
328		西30住	W30住	凹石	(126)	65	41	(546)	硬質砂岩	1/3欠	1-0-0-0
329		西30住	W30住	凹石	(104)	56.5	41.5	(255)	砂岩	1/2欠	2-1-0-0
330		西30住	W30住	磨石	68	53.5	50	241	砂岩	完形	
331		西30住	W30住	磨石	(77)	(80)	50.5	(350)	安山岩	1/2欠	
332		西30住	W30住	砥石	(80)	53	27	(223)	硬質砂岩	1/2欠	
333		西30住	W30住	砥石	155	52	34	453	硬質砂岩	完形	
334		西30住	W30住	砥石	139.5	63	48	675	砂岩	完形	
335		西31住	W31住	打製石斧	(72.5)	(50)	(19.5)	(76)	粘板岩	肩・刃欠	
336	73	西32住	W32住	打製石斧	(89)	(42)	(9)	(45)	砂岩	刃欠	
337		西32住	W32住	打製石斧	116	54.5	28	205	砂岩	完形	
338	75	西32住	W32住	磨製石斧	186.5	88	38.5	828	綠泥岩	完形	未成品
339	54	遺構外		玦狀耳飾	21	22	5	5	砂岩	完形	

写 真 図 版

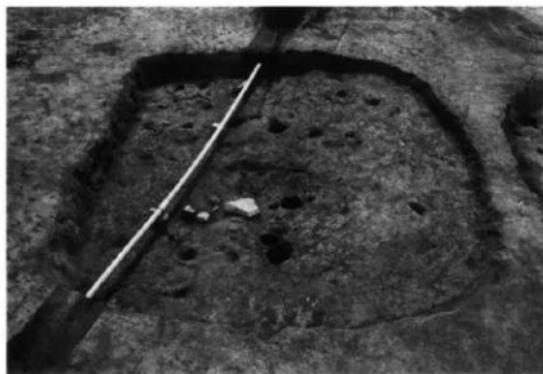
図版 1



図版 2



東3号住居跡（北より）



東4号住居跡（東より）

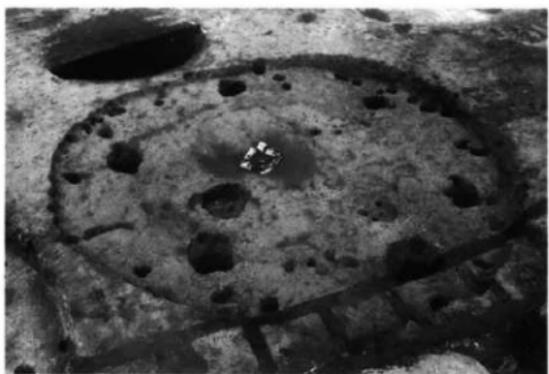


東5号住居跡（南より）

図版 3



東6・9号住居跡 (南東より)



東7号住居跡 (南より)



東8号住居跡 (南東より)

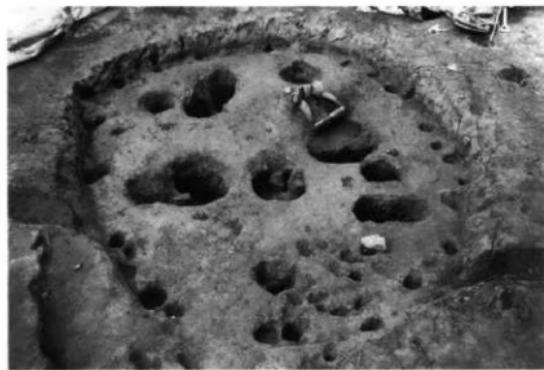
図版 4



東側調査区全景 (西より)



西1号住居跡 (南より)



西2号住居跡 (南より)



西3号住居跡（南より）



西4号住居跡（北より）



西6号住居跡（西より）

図版 6



西8号住居跡（南より）



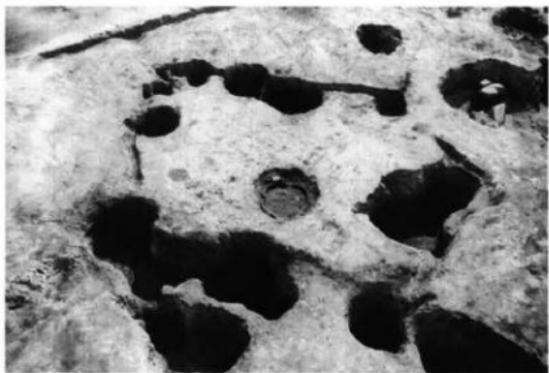
西10号住居跡（南より）



西12号住居跡（北より）



西15号住居跡（北より）



西16号住居跡（北より）



西20・21・22号住居跡（北より）

図版 8



西23号住居跡（西より）



西24号住居跡（東より）



西26・29号住居跡（南西より）



西28号住居跡（南より）



西30号住居跡（南より）

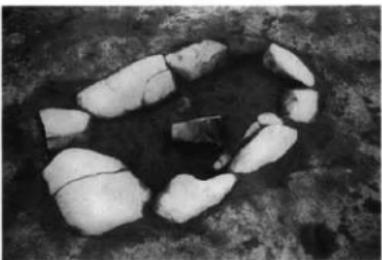


西侧調査区全景（東より）

図版 10



東2号住居跡出土状況（北より）



西6号住居跡 烧<sup>アカ</sup>（南より）



東5号住居跡出土状況



西12号住居跡 埋壺（南より）



東7号住居跡出土状況（南より）



西18号住居跡 埋壺（西より）



西2号住居跡出土状況（北より）



西22号住居跡 埋壺（東より）



西23号住居跡 埋甕（南より）



西29号住居跡 埋甕（東より）



西26号住居跡 埋甕（北より）



西31号住居跡 スプーン状土製品



西28号住居跡 埋甕（南より）



現地説明会スナップ



西28号住居跡出土状況（北より）



調査団スナップ

図版 12

縄文土器(1)



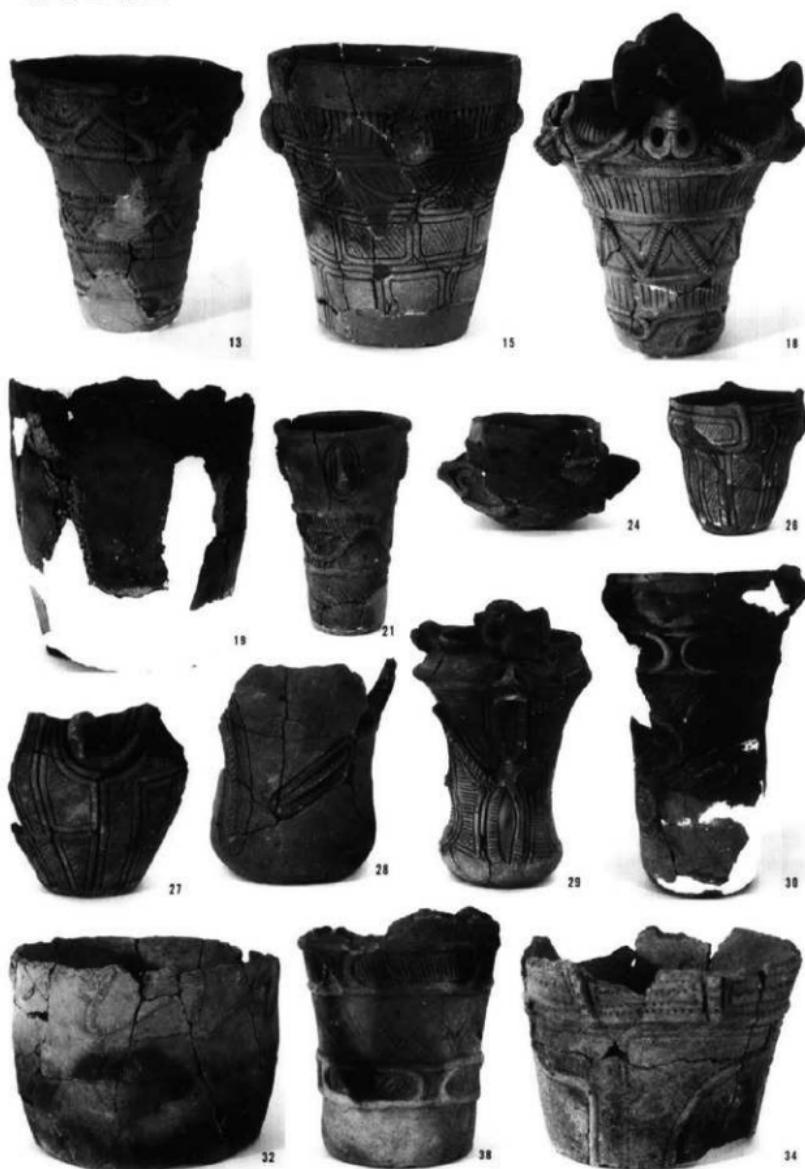
16

17

20

22

## 縄文土器(2)



図版 14

縄文土器(3)



33



35



36



37



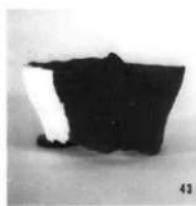
39



40



41



43



44



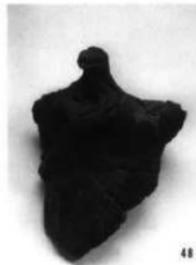
45



46



47



48



49



50

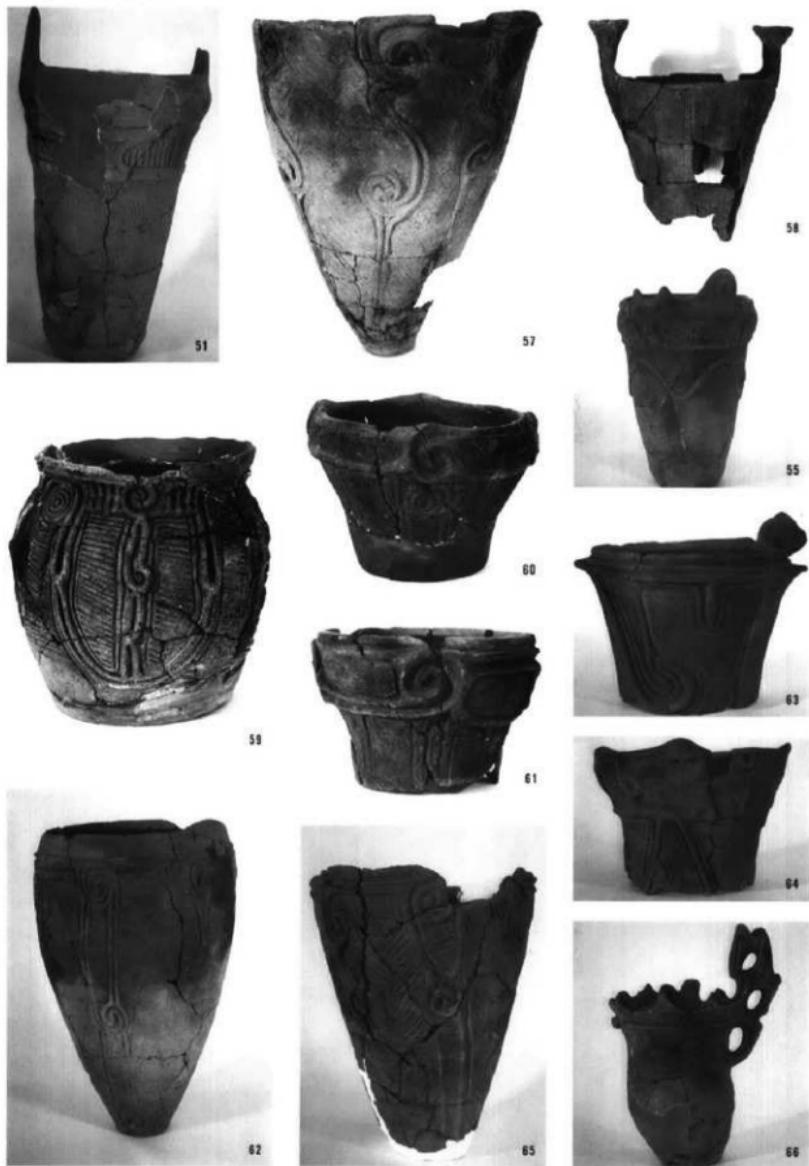


52



53

縄文土器(4)

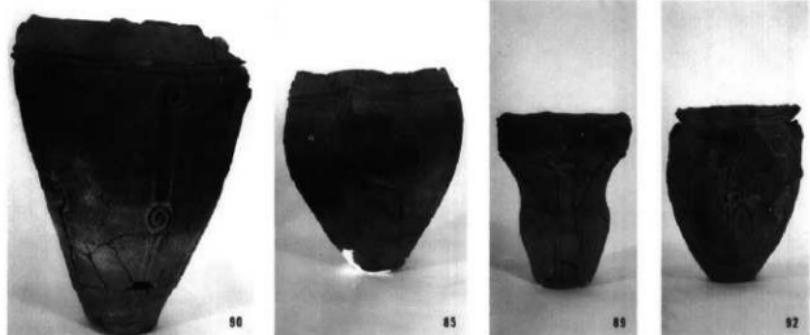


図版 16

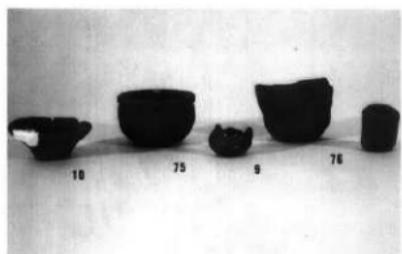
縄文土器(5)



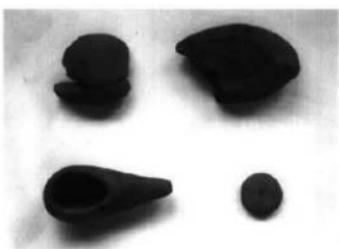
縄文土器(6)、土製品



縄文時代土器

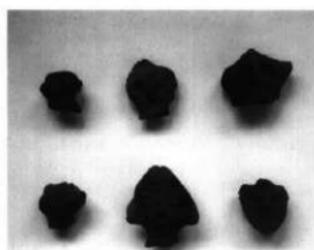


ミニチュア土器

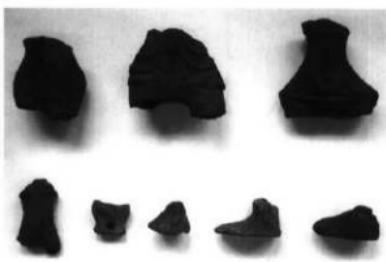


土 製 品

左上：土鉈 右上 三角墳土製品  
左下：パイプ状土製品 右下 土製円盤



土 偶



図版 18  
縄文石器(1)

石器  
(石鏃)



石器  
(石錐、石槍等)



石器  
(石刀、石匙)

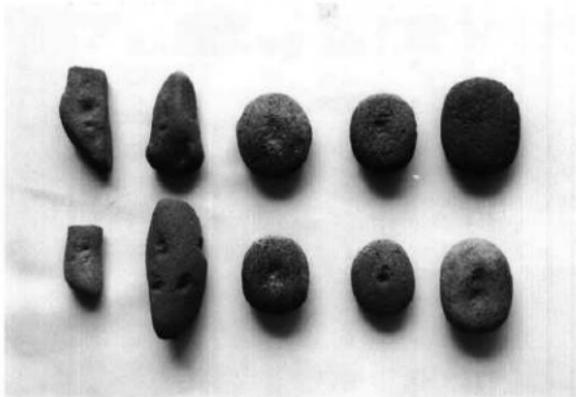


縄文石器(2)

石器  
(磨製石斧)



石器  
(四石)



石器  
(小型磨製石斧)

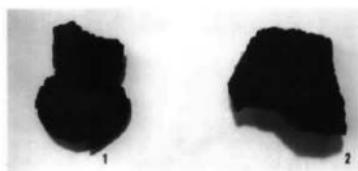


図版 20

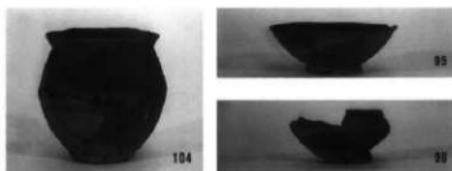
縄文石器(3)・縄文前期土器・平安時代土器



石 器 (打製石斧)



縄文時代前期土器



平安時代土器



平安時代上器

報告書抄録

ふりがな	よどのうちいせき							
書名	淀の内遺跡							
副書名	淀の内団地造成事業緊急発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	山形村遺跡発掘調査報告書							
シリーズ番号	第7集							
編著者名	樋口昇一・長崎治・和田和哉							
編集機関	山形村教育委員会							
所在地	〒390-13 長野県東筑摩郡山形村2040-1 TEL0263-98-3155							
発行年月日	1997年3月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号	°	'			
淀の内	長野県東筑摩郡 山形村220番地 ほか	204501	3	36° 52' 48"	9' 0"	920506 ~ 920919	3,650m <sup>2</sup>	住宅団地建設に 伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
淀の内	集落跡	縄文前期 縄文中期 平安時代	住居跡 3 住居跡 38 住居跡 1	縄文前期土器 (中越式) 縄文中期土器 石器 土製品	縄文中期の 拠点的集落跡発見 縄文前期(中越式)の 住居跡3軒検出			

---

淀の内団地造成事業緊急発掘調査報告書  
『淀の内遺跡』

平成9年3月20日 印刷  
平成9年3月25日 発行

発行 山形村教育委員会  
長野県東筑摩郡山形村2040-1  
TEL 0263-98-3155(代)

印刷  
日本ハイコム株式会社  
長野県塩尻市北小野4724  
TEL 0263-56-2111

---

